

授業科目名	<b>生活デザイン総論Ⅱ</b>				
担当教員名	松岡依里子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義を中心にグループディスカッションを併用します。テーマ1つについて2コマ分の課題学習を行います。講義については、配布資料をもとに、資料やデータを活用し、キーワードをおさえます。また、グ				

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

グローバル社会では、モノやカネ、ヒト、情報が簡単に移動し、そのため、さまざまな課題が見受けられます。そこで本授業では、グローバル社会に対応するために、「共生社会」「持続可能な社会」「リスク社会」に対する現状や課題を把握し、わたくしたちの身近な問題についての解決策を考え、これからの社会に対応できるような気付きと課題解決力を鍛えることを目的とします。具体的には、「ユニバーサルデザイン」や「減災、防災」「消費者問題」を知り、その対応策について学び、議論します。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

#### 具体的内容：

ユニバーサルデザイン、国際連合などの資料、震災事例を通して、社会の課題を知る。

#### 目標：

社会の課題を学び、再考する。

#### 汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

グローバル社会における自己の役割について課題をみつけ、実践に導く力を身につける。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ 課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

ワークシート	40%	： ワークシートについて、独自のルーブリックに基づき、4段階で評価する。
課題レポート	40%	： 独自のルーブリックに基づき、4段階で評価する。
発表	20%	： 本学のルーブリックに基づき、評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・ 田中治彦編著 SDGs と開発教育 学文社
- ・ 加賀美常美代編著 多文化共生論 明石書店
- ・ 阿部 治・野田研一 監修 「あなたの暮らしが世界を変える」 山と溪谷社
- ・ 大竹美登利著 「東日本大震災ボランティアによる支援と仮設住宅」

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限  
場所： 生活デザイン第2研究室  
備考・注意事項： オフィスアワー、授業の前後で質問に応じます。

### 授業計画

第1回 **持続可能な社会とシティズンシップ**

「持続可能な」と思われるものについて写真を撮しておく。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	持続可能な社会とはどのような社会なのか、身近な事例を概説する。21世紀市民として生きるためには、知識のみならず、問題に関わり、どう解決していくのかの実践力が必要である。デザインシンキング思想とその可能性について考察する		
第2回	<b>ユニバーサルデザインとは何か</b> ユニバーサルデザインといわれているグッズを紹介し、どこがユニバーサルデザインなのか、グループワークを行い、考察する。	身近なユニバーサルデザインを探し、写真をとっておく。	4時間
第3回	<b>ユニバーサルデザインの課題</b> ユニバーサルデザインの事例を理解し、企業の製品においても多様な配慮がなされていることに気付く。またグループの発表から、デザインの多様性とその意義について学ぶ。	身近なユニバーサルデザインについて調べる。	4時間
第4回	<b>多様な人々への理解と課題</b> 視覚障がいへの理解とその課題について、体験を通して学ぶ。さらに校内リサーチを行う。	校内の配慮点と課題についてレポートにまとめる。	4時間
第5回	<b>公共空間のユニバーサルデザイン</b> 公共空間においてユニバーサルデザインがどのように活用されているのかについて知る。また、前回の校内リサーチの発表を行い、課題を抽出する。	駅やショッピングモールなど、公共空間リサーチを行い、レポートに書く。	4時間
第6回	<b>持続可能な開発目標</b> 国連のSDGS（持続可能な開発目標）から、社会における課題について知る。第1回の課題であった、持続可能な写真を見て、それがどの課題にあたるのかを考察する。	公共空間において、持続可能などと思われるものについて写真をとっておく。	4時間
第7回	<b>公共空間のユニバーサルデザインについての発表</b> 公共空間でリサーチしたユニバーサルデザインについて発表する。また、他人の発表から多様なユニバーサルデザインについて学ぶ。	振り返りシートを作成する。	4時間
第8回	<b>衣生活における生産と消費</b> 私たちの衣の消費行動とその生産現場について学ぶ。持続可能な社会のために果たせる衣服の生産、消費について再考する。	他人の衣生活行動についてレポートを書く。	4時間
第9回	<b>食生活の生産と消費</b> 食生活のグローバル化がもたらす背景と日本の現状について、フードマイレージ、TPP、農業政策について学び、食生活の課題を考察する。	新聞や雑誌などから食に関する記事を収集しておく。	4時間
第10回	<b>多文化共生社会とは何か</b> 多文化共生社会を知るために、オーストラリアの原住民と移民について学ぶ。	オーストラリアの国の歴史、地理、現状について調べておく。	4時間
第11回	<b>多文化共生社会における生活文化</b> イスラム文化を事例にし、文化の相違と価値観、多様な人々の共生についての現状と課題について学ぶ。	自分の多文化共生体験についてレポートを書く。	4時間
第12回	<b>多文化共生体験発表</b> 発表をもとに、多文化共生の課題を探る。	振り返りシートを作成する。	4時間
第13回	<b>持続可能な社会の再考</b> 今までの写真資料、授業内容をもとに、持続可能な社会への課題についてグループディスカッションにより考察する。	振り返りシートの作成	4時間
第14回	<b>多様な人々に配慮した減災への取り組み</b> 東日本大震災、阪神淡路大震災を比較し、震災の現状と防災、減災の視点を学ぶ。また、減災教育ワークシートを活用し、多様な人々に配慮した減災への取り組みの必要性を学ぶ。	東日本大震災、阪神淡路大震災について調べておく。	4時間
第15回	<b>持続可能な未来と社会貢献</b> 復興のためにさまざまなボランティア団体、またプロジェクトが行われた。その実践例について学ぶ。私たちにできることは何かを再考する。	授業課題レポートを作成する。	4時間

授業科目名	<b>生活デザイン総論 I</b>			
担当教員名	松岡依里子			
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数 2
授業形態	講義を中心にグループディスカッションを併用します。テーマ1つについて2コマ分の課題学習を行います。講義については、配布資料をもとに、資料やデータを活用し、キーワードをおさえます。また、グ			

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

少子高齢化による人口減少時代の到来、高度な情報技術の発達によるグローバル化、地球環境問題の深刻化など、私たちの取り巻く環境は急激に変化し、ライフスタイルや価値観は多様化しています。自分自身の生活をみつめ、どのように人生を組み立てていくのかを視座におきつつ学びます。社会的、経済的、精神的自立をめざし、雇用形態や社会保障制度に違いや貧困に陥らないためのあるいはそこから抜け出すための方法や必要な生活資源について学ぶ。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	現代社会の諸相と生活設計の理解	現代社会の現状を知り、自己の生活設計を明確にできる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		現代社会の現状と課題を知り、課題解決できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

ワークシート	30%	: 独自のルーブリックに基づき、4段階評価を行う。
課題レポート	50%	: 独自のルーブリックに基づき、4段階評価を行う。
発表	20%	: 本学のルーブリックに基づき、評価を行う。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・ 大竹美登利監修 安心して生きる・生活する・学ぶ 開隆堂
- ・ 湯浅 誠 「反貧困」岩波新書
- ・ 稲葉剛 「ハウジングブア」山吹書店
- ・ 田村裕 ホームレス中学生 ワニブックス

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜3限
場所：	生活デザイン第2研究室
備考・注意事項：	生活デザイン学科専用メールにて件名「科目、氏名、学籍番号」記入の上質問のこと。授業前、後及び生活デザイン第2研究室オフィスアワー時間にて、対応。

### 授業計画

第1回	<b>一人暮らしの生活設計</b> 一人暮らしをする場合の生活費について考察する。	1週間の収入と支出について記録し考察する。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	--	-----------------------	-------------------------

第2回	<b>多様な働き方</b> 非正規雇用と正規雇用の相違について学ぶ。また求人票を読み、ブラックバイトの現状について学ぶ。	資料を中心にアルバイトについて考察する。	4時間
第3回	<b>社会保障制度</b> 社会保険（医療、年金、雇用、介護など）についてゲームを援用しながら、その利用の方法と問題点を考える。	社会保障制度について新聞記事を収集しておく。	4時間
第4回	<b>男女の役割分業から男女共同参画社会へ</b> 男女の役割分業から男女参画社会への系譜 雇用形態（正規・非正規・派遣など）の変化による社会システム、生活システムの変化について学ぶ。	課題レポートを作成する。	4時間
第5回	<b>ワーキングプア</b> セーフティネットの現状とワーキングプアについて、歴史的経緯から学び、課題を考察する。	貧困に関する記事を収集し、要旨をまとめ、考察を加える。	4時間
第6回	<b>働く権利</b> 労働法を学び、事例から課題とその解決策を考える。	アルバイト、あるいは他人へのインタビューにより労働経験についてレポートを書く。	4時間
第7回	<b>住生活のマネジメント</b> 住生活のマネジメントを考える。住まいの機能と住まう権利について、ハウジングプアを事例として考察する。	ネットカフェ難民とは何かについてレポートを書く。	4時間
第8回	<b>貧困からの脱出</b> 人として生きる権利とその資源について、事例をもとに考察する	ホームレス中学生のDVDを見ておく。	4時間
第9回	<b>「貧困」についてのグループディスカッション</b> 貧困を招く理由とその課題解決策について、ブレインストーミング、KJ法を用いながらディスカッションを行い、解決策について提案する。	グループ発表のための資料を作成する。	4時間
第10回	<b>発表</b> 各グループごとに発表し、意見交換する。	批判的思考をもって、発表に対する自己評価と他者評価を行う。	4時間
第11回	<b>人口減少社会の構造</b> 人口減少社会とはどのような社会なのか、内閣府の資料をもとに考察する。	内閣府のホームページの資料を読み、課題レポートを作成する。	4時間
第12回	<b>結婚制度</b> 恋愛から結婚へ。制度としての結婚について、海外事例と比較しながら考察する。	少子高齢化の要因についてレポートを書く。	4時間
第13回	<b>生命の科学と倫理</b> 妊娠の仕組み、「産む」ということについての倫理観と出産の現状について学ぶ。リプロダクティブヘルスは、人間の生殖システムおよびその機能と活動過程のすべての側面において、単に疾病、障害がないというばかりでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態にあることを指しています。生殖年齢にある男女のみならず、思春期以後、生涯にわたる性と生殖に関する健康を意味し、子どもを持たないライフスタイルを選択する人々を含めた、すべての個人に保障されるべき健康概念について学び、少子化との関連性について考察します。	リプロダクティブヘルス&ライツについて調べる。	4時間
第14回	<b>保育の現状と課題</b> 「子育て」は誰がするのか、どのようにされているのか、社会との関わりの中で、子育ての現状と課題を考察する。	男性保育士の存在、自治体ネットワークについて調べる。	4時間
第15回	<b>多様な家族と人生</b> 家族の変遷について学ぶ。これまでの講義を総括し、現代社会における家族についてケアの視点から再考する。さらにライブイベントにおける課題について学ぶ。	家族の機能変化について、課題レポートを作成する。	4時間

授業科目名	<b>アパレル繊維学</b>				
担当教員名	山下義裕				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義形式による授業を行い、繊維のサンプルや映像を紹介しながら身の回りの繊維に対する理解を深める。また、書籍や雑誌、Webも活用し、最新の繊維に関する情報収集を行う。授業後に課題に取り組み、それを解				

開放科目の指示：「不可」

## 授業概要

繊維は有史以来、人々の身体を気候の変化や外界から守るだけでなく、美的感覚であるファッションも生み出してきました。繊維は天然繊維から化学繊維まで種類が極めて多いうえに、同じ種類の繊維でも、繊維の特性や太さ・長さなどの形態が異なります。「繊維の基礎知識」、「糸の基礎知識」をベースとして繊維とそれらを用いた繊維製品の知識と技術について十分な理解を得ることで衣料管理に対する専門性を身に付けることができます。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	繊維は天然繊維から化学繊維まで種類が極めて多いことを理解する。	天然繊維と化学繊維の違いを説明できる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	繊維は種類により、繊維の特性や太さ、長さなどの形態が異なることを理解する。	繊維の種類による特徴を説明することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		教科書や講義で学んだ内容から自分で課題を見つけることができる。
2．DP5. 計画・立案力		課題を解決するための計画を立て、解決する方法を提案することができる。
3．DP6. 行動・実践		課題を解決するために、書籍、雑誌、Webを活用して、調査研究を実践することができる。
4．DP7. 完遂		課題に対して、調査研究した結果を比較考察して、自分の考えをきちんとまとめることができる。
5．DP10. 忠恕の心		グループ討議において人の話をしっかり聞いて、それを理解して、自分の意見と理性を持って比較し、自分の意見を述べるることができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

課題レポート	評価の基準
60%	： 4点満点で15回実施し、60点満点とする。講義の内容にさらに自分の創意工夫した考えが記載されている（5点）、講義の内容だけをもとに自分の思考が記載されている（3点）、講義の内容をそのまま記載している（1点）。
特定課題に対する考察力	： 2回実施する授業内容に関する課題に対して20点×2回の40点満点で評価する。授業内容を自ら理解しさらに掘り下げて考察出来ている（20点）授業内容をもとに考察出来ている（10点）
40%	

## 使用教科書

### 指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本繊維技術士センター	・ 業界マイスターに学ぶ せいの基礎講座	・ 繊維社企画出版	・ 2016年

## 参考文献等

- ・島崎恒蔵編著「衣料材料の科学」第3版（建帛社、2010年）
  - ・日下部信幸著「生活のための被服材料学」（家政教育社、1999年）
  - ・日本化学会編「衣料と繊維がわかる一驚異の進化―」（東京書籍、2011年）
- その他の文献は、授業中に紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日以外の9時から17時

場所： 生活デザイン第一研究室

備考・注意事項： 質問がある場合は、生活デザイン第一研究室まで。在室中はいつでも可。  
その他、メールでの連絡はsed@osaka-seikei.ac.jpまで。件名には「アパレル繊維学・氏名・学籍番号」を記入すること。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<p><b>繊維の種類と歴史</b></p> <p>授業の進め方やアパレル繊維学で何を学ぶのかについて説明する。繊維とは何か？どのような種類があるのか？いつから衣服に使用されているのか？などについて概説する。</p>	<p>人類がなぜ衣服を着用するようになったのかを調べ自分の考えをまとめる。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p><b>高分子とはなにか？</b></p> <p>繊維を構成している高分子とはどのようなものか？低分子化合物との違いや生成（重合）の例について概説する。</p>	<p>高分子をバスタとそうめんをモデルとしてその仕組みを理解する。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p><b>高分子の構造と特徴</b></p> <p>前回に引き続き、高分子の構造や特徴について、さらに詳細を学ぶ。</p>	<p>生命体はなぜ高分子からできているのかを調べ自分の考えをまとめる。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p><b>繊維の性能と構造の関係</b></p> <p>前回までに学んだ高分子の構造が、繊維の様々な性能にどのように関係しているのかについて説明する。</p>	<p>高分子から繊維構造を作る過程を理解する。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p><b>繊維の分類</b></p> <p>繊維の体系図をもとに、製造方法や構造などの違いにより、各繊維がどのように分類されるのかについて学ぶ。</p>	<p>天然繊維と合成繊維の違いについて理解する。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p><b>植物繊維（綿、麻）</b></p> <p>天然繊維の中で最も身近に使われている綿の構造や特性、用途について学ぶ。また、最古の繊維と呼ばれ、古くから衣服に用いられている麻の構造や特性、用途についても学ぶ。</p>	<p>綿と麻がどのように栽培され、その後、繊維としてなる工程を調べ、理解する。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p><b>動物繊維（羊毛）</b></p> <p>動物繊維の中で最も生産量の多い羊毛の構造や特性、用途について学ぶ。また、その他の獣毛繊維についても紹介する。</p>	<p>羊からどのように羊毛が刈り取られ加工され、繊維となる工程について調べ、理解する。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p><b>動物繊維（絹）</b></p> <p>古くから高級品として珍重されている絹の構造や特性、用途について学ぶ。</p>	<p>絹がなぜ人間にとって親しみのある材料なのか、生化学の観点からも学びながら調べて、その理由を理解する。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p><b>再生繊維（レーヨン）</b></p> <p>代表的な再生繊維であるレーヨンの製造方法、構造、特性、用途について学ぶ。</p>	<p>レーヨンの発明そして今日もいろいろな種類のレーヨンが使われていることを調べ、最新のレーヨンの利点について理解する。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p><b>半合成繊維（アセテート）</b></p> <p>代表的な半合成繊維であるアセテートの製造方法、構造、特性、用途について学ぶ。</p>	<p>レーヨンとアセテートの違いを理解し、なぜそれぞれ2種類の繊維が生まれたのかの自分の考えをまとめる。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p><b>合成繊維（ナイロン、ポリエステル、アクリル）</b></p> <p>合成繊維の中でも衣服の素材によく使われているナイロン、ポリエステル、アクリルの製造方法、構造、特性、用途について学ぶ。</p>	<p>カローザスがなぜナイロンを発見でき、ポリエステルを合成できなかったのかを理解する。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p><b>合成繊維まとめ、その他の合成繊維</b></p> <p>ナイロン、ポリエステル、アクリルの特性について再度解説する。また、その他の合成繊維についてもいくつか紹介し、それらの製造方法や、構造、特性、用途について学ぶ。</p>	<p>合成繊維についてその高分子構造と作り方の違いを理解する。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p><b>繊維の性能比較、繊維の鑑別</b></p> <p>繊維の性能表を紹介し、比較して説明する。また、繊維の特性の違いを利用した繊維の鑑別手法について解説し、次年度の実験に必要な基礎知識を学ぶ。</p>	<p>繊維の性能を理解し、それぞれの利点を理解し、それにあつた製品を考える。</p> <p>4時間</p>
第14回	<p><b>新しい繊維、衣服と環境問題</b></p> <p>近年の繊維化技術の発展と機能性繊維について解説する。また、衣料品リサイクルの現状について説明する。インターネット検索を用いて、各自最新の繊維について調べる。</p>	<p>衣料品のリサイクルの現状を調べ、これらのリサイクルおあり方を自分の意見でまとめる。</p> <p>4時間</p>
第15回	<p><b>繊維の特徴とその魅力</b></p> <p>前週の課題レポートを総括し、その中のいくつかの繊維を紹介する。これまでの小テストの解説を行うとともに、アパレル繊維学の授業の中で特に重要な部分について再度説明する。</p>	<p>課題発表から自分が学んだ点、理解できた点、重要と感じた点、疑問点を整理し、アパレル繊維を正しく理解する。</p> <p>4時間</p>

授業科目名	アパレル材料学				
担当教員名	山下義裕				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義形式による授業を行い、織物のサンプルや繊維加工、繊維製品を紹介しながら身の回りの繊維製品、アパレル製品に対する理解を深める。また、書籍や雑誌、Webも活用し、最新の繊維に関する情報収集を行う。授				

開放科目の指示：「不可」

## 授業概要

繊維製品は衣料分野において各種の新しい機能を持つ繊維や加工技術が開発されるとともに、先端材料、医療分野、電子分野においても、繊維はなくてはならない材料ないし、製品となっています。衣料や材料になるまでには、紡績、製織、ニット、不織布などの糸や布帛の製造、染色や機能加工、仕上げなどの繊維加工、また縫製や製品評価といった、長い工程を学びます。また繊維製品の取り扱いについての知識も習得も目標とします。これらの知識・技術について十分な知識を得た上で、さらに課題を通してより深い知識の習得も目標です。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	紡績、製織、ニット、不織布などの糸や布帛の製造、染色、繊維加工、仕上げ加工について理解する。	衣料や資材としての製品になるまでの工程について説明できる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	縫製、製品評価、繊維製品の取り扱いについて理解する。	繊維製品を作り出し、評価する工程を説明することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		教科書や講義で学んだ内容から自分で課題を見つけることができる。
2．DP5. 計画・立案力		課題を解決するための計画を立案し、解決する方法を思考することができる。
3．DP6. 行動・実践		課題を解決するために、書籍、雑誌、Webを活用して、調査、研究し実践することができる。
4．DP7. 完遂		課題に対して、調査研究した結果を比較考察して、自分の考えをきちんとまとめることができる。
5．DP10. 忠恕の心		グループ討議の時に人の話をしっかり聞いて、それを理解して、自分の意見と理性を持って比較し、自分の意見を述べることができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ デイバート、討論

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

課題レポート

### 評価の基準

： 4点満点で15回実施し、60点満点とする。講義の内容にさらに自分の創意工夫した考えが記載されている（5点）、講義の内容だけをもとに自分の思考が記載されている（3点）、講義の内容をそのまま記載している（1点）。

60%

特定課題に対する考察力

： 2回実施する授業内容に関する課題に対して20点×2回の40点満点で評価する。授業内容を自ら理解しさらに掘り下げて考察出来ている（20点）授業内容をもとに考察出来ている（10点）

40%

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本繊維技術士センター	業界マイスターに学ぶ せんいの基礎講座	繊維社企画出版	2016年

## 参考文献等

- ・ 島崎恒蔵「衣料材料の科学」（第3版）（建帛社、2010）
  - ・ 日下部信幸著『生活のための被服材料学』（家政教育社、1999年）
  - ・ 中島利誠編著『新版 概説被服材料学』（光生館、2003年）
- その他の文献は、授業中に紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 火曜日以外はいつでも可  
場所： 本館南4階生活デザイン第一研究室  
備考・注意事項： 質問がある場合は、生活デザイン第一研究室まで。在室中はいつでも可。  
その他、メールでの連絡はsed@osaka-seikei.ac.jpまで。件名には「アパレル材料学・氏名・学籍番号」を記入すること。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<b>被服とは何か？</b> 授業の進め方とアパレル材料学で何を学ぶのかについて説明する。また、被服とは何か？被服の歴史と現状について概説し、自分たちと被服との関わりについて考えてみる。	人類がまとっている衣服の種類について調べる。 4時間
第2回	<b>糸の分類と製造工程</b> 糸の種類について学び、各糸の製造工程やそれぞれの特徴について解説する。	糸には短い糸をつむいだ紡績糸と連続したフィラメント糸の違いについて調べる。 4時間
第3回	<b>糸の太さより</b> 紡績糸とフィラメント糸それぞれの糸の太さの表し方（恒重式番手と恒長式番手）を学ぶ。また、よりの効果やより方向の違いについて説明する。	糸の太さにはさまざまな表記法があり、それは糸の歴史に関係する。番手、デニール、テックス表記が誕生した歴史を調べる。 4時間
第4回	<b>織物の構造（平織）</b> 織物の三原組織について解説する。最も基本的な組織である平織の構造と特徴、組織図の描き方について学ぶ。	平織を自分で手機機をつかって作品を作る。 4時間
第5回	<b>織物の構造（斜文織、朱子織）</b> 前回に続き、織物の三原組織について解説する。斜文織および朱子織の構造と特徴、組織図の描き方について学ぶ。	手機機を使って、綾織の織物をつくる。 4時間
第6回	<b>織物の構造（三原組織の比較、変化組織）</b> 前回までに学んだ平織、斜文織、朱子織の特徴について比較しながら再度解説する。また、これらの基本組織から誘導された変化組織の例を紹介する。	手機機を使って、縞子織の織物を作る。 4時間
第7回	<b>編物の構造（よこ編、たて編）、織物と編物の性能比較</b> 編物のよこ編とたて編の基本組織について解説し、それぞれの構造と特徴、組織図について学ぶ。また、織物と編物の様々な性能を比較し、その違いを解説する。	手編みにより平編みの編み物を作る。 4時間
第8回	<b>不織布、布の構造特性</b> 繊維同士を直接絡めさせて作る不織布について学び、その製造方法や特徴について解説する。また、布を構成している重要な因子（厚さ、目付、糸密度、含気率など）について学ぶ。	手編みにより平編みとゴム編みをつかいソックスを作る。 4時間
第9回	<b>布の性質（耐久性）</b> 布の耐久性に関係する諸性質（引張り強さ、引き裂き強さ、摩耗強さなど）について、布の構造特性と関連付けて解説する。また、それぞれの性能試験方法を紹介する。	布の強度が実用生活で必要とされるものについて調べる。 4時間
第10回	<b>布の性質（形態的性質）</b> 布の形態的性質に関係する諸性質（弾性回復特性、せん断特性、剛軟性など）について、布の構造特性と関連付けて解説する。また、それぞれの性能試験方法を紹介する。	布のドレープと風合いの関係について調べる。 4時間
第11回	<b>布の性質（快適性）</b> 布の快適性に関係する諸性質（吸湿性、吸水性、保温性など）について、布の構造特性と関連付けて解説する。また、それぞれの性能試験方法を紹介する。	布の保温性を実際の商品ではどのように利用されているかを調べる。 4時間
第12回	<b>布の性質（外観的性質）</b> 布の外観に関係する諸性質（しわ、ピリング、風合いなど）について、布の構造特性と関連付けて解説する。また、それぞれの性能試験方法を紹介する。	布の手触りと風合いの関係について市場調査により調べる。 4時間
第13回	<b>被服の性質（被服構成、着心地）</b> これまでに学んだ繊維、糸および布の構造や性質が、最終製品として出来上がった被服の性質にどのように関わっているかについて学ぶ。目的のデザインや着心地の被服を表現するためには、どのような被服材料が適するののかについて解説する。	布の風合いがアパレルにどのように反映されているかを調べる。 4時間
第14回	<b>被服の性質（被服の管理）</b> これまでに学んだ繊維、糸および布の構造や性質を踏まえ、適切な被服管理を行うための知識を学ぶ。洗濯や漂白での取り扱いの注意点、染料と繊維の相性などについて解説する。	さまざまな種類の布の縮み具合を自分の洗濯機を用いて調べる。 4時間
第15回	<b>アパレル材料の魅力と未来</b> これまでの課題の解説を行うとともに、アパレル材料学の授業の中で特に重要な部分について再度説明する。また、これからの衣生活の中で被服材料の知識をどの場所で、どのように活用できるのかについて考える。	アパレルとしての布と産業用としての布、工芸品としての布についてそれぞれの将来への展望を調べる。 4時間



授業科目名	<b>ファッションデザイン論</b>			
担当教員名	伊東義輝			
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数 2
授業形態	講義形式を中心に実習も有り。 必要に応じて資料用意			

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本講義では将来、ファッション業界で活躍するために必要な基本的な知識を学びます。まず、普段何気なく接している衣服のデザインについて考えます。衣服は身近にあるものなので、毎日、無意識に行っていることについての「気づき」や古代から現代に至るファッションデザインの変遷、マーケットとファッションデザインの関係、コレクションなど現代のトレンドはどのようにして作られているのかなど、これからのファッションデザインに必要な環境など総合的に学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	ファッションだけでなく様々なデザインに関する知識を得る	様々な知識をもとに、ファッションデザインの成り立ちを理解できる。
2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ファッションデザインに関する専門的知識	ファッション業界に必要な基礎知識を学び、将来、活用することができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		様々な資料や知識からファッション業界の課題を検討することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

毎回の小レポート

30%

課題レポート

40%

グループワーク プレゼンテーション

30%

#### 評価の基準

： 毎回、授業内で授業内容に即した問いかけを行います。それに対して自分の考えがしっかりと述べられているかを評価します。

： 課題についてのまとめ方と自分の考えをしっかりと述べられているかを評価します。

： 日本の産地についてのグループごとにリサーチした後、各グループ5つの項目についてプレゼンテーションを行い、その内容について評価をする。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

世界デザイン史 美術出版社  
柳宗悦 民藝の旅 平凡社  
芸術環境を育てるために 松井利夫・上村博 編 角川学芸出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日2限

場所： 生活デザイン第3研究室

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>衣服の機能と衣服への夢</b> 普段の生活の中で無意識に着用している衣服にはどのような機能があるのか？ また、私たちは衣服にどのような夢を持っているのか？ 毎日接しているからこそ気づいていない衣服について考える。	自分の持っている洋服を見直し、機能と夢について考える 4時間
第2回	<b>ファッションへの意識</b>	自分の衣服への意識について考えてみる 4時間

	衣服での自己表現（おしゃれの内的要因）と他人への意識（外敵要因）について考える。 ファッションはコミュニケーションの一部であることを知る。		
第3回	<b>体への意識</b> 衣服は体に直接接する。普通の体とは何であるのか？ 憧れる体とは何であるのか？ 個々の普通を理解することで個々の価値あるものもそれぞれが理解することができる。ペットにも洋服を着せる時代に人体だけでなく様々な体を知ることでデザインの可能性を広げる。	特殊な衣服について調べてみる	4時間
第4回	<b>ファッションデザイナーとは.. スタイリストとは..</b> ファッション業界の中でデザイナーとはどのような立場であるのか？ 日本やヨーロッパなど各国の違いや、プレタポルテとオートクチュールでの違いを知ること、ファッションデザイナーの仕事や学び、どのようなスキルや能力が必要かを知る。同時にスタイリストの仕事も学び、デザイナーとスタイリストの立場、スキルの違いについて学ぶ。	デザイナーとスタイリストについてまとめる	4時間
第5回	<b>プレタポルテを学ぶ</b> プレタポルテのコレクションがどのようにして成り立っているかを学ぶ。リサーチ、デザイン、製作、コレクション、マーケットに至るまでの一連の流れを知る。	自分の好きなプレタポルテのコレクションについてまとめる。	4時間
第6回	<b>オートクチュールを学ぶ</b> オートクチュールのコレクションがどのようにして成り立っているかを学ぶ。リサーチ、デザイン、製作、コレクション、マーケットに至るまでの一連の流れを知る。	自分の好きなオートクチュールのコレクションについてまとめる	4時間
第7回	<b>装飾の発展、貴族文化など... 中世、近世の服から学ぶ</b> 中世、近世のファッションデザインやルネサンスなど文化的な背景からファッションデザインの変遷を学ぶ。	中世、近世の衣服の特徴をまとめる	4時間
第8回	<b>近世から現代にかけて... 産業革命、ファッションデザイナー、オートクチュール、プレタポルテの誕生</b> 近世、現代にかけての社会的背景、技術革新などからファッションデザインの変遷について学ぶ。	社会的背景とファッションデザインの相関性をまとめる	4時間
第9回	<b>大量生産・大量消費... ファストファッションというマーケットについて</b> 2000年代以降、SPA方式の確立から大量生産で安価な衣服が大量に消費されるマーケットが世界的に巨大化した。ファストファッションと呼ばれるマーケットを知り、持続可能なファッションについて考える。	ファストファッションとこれまで学んだアパレル企業との違いをまとめる	4時間
第10回	<b>ファッションメディアとアパレル企業の関係性</b> ファッション雑誌やインターネットなど様々な媒体でファッションは取り上げられている。その中で代表的な雑誌「VOGUE」の製作過程を学び、どのようにトレンドが作られていくかを知る。	ファッションメディアとアパレル企業の関係性をまとめる	4時間
第11回	<b>持続可能なファッションを考える</b> ファッションと環境問題について考える。環境汚染や労働環境などファッション産業には様々な環境問題が存在する。それを知り、意識することで普段の衣生活に役立てる。普段何気なく着ている衣服の流通を知ることでも自分にも関係あることだと理解する。	ファストファッションと環境問題についてまとめる	4時間
第12回	<b>アート・アンド・クラフト..手仕事の美</b> 産業革命以後にウィリアム・モリスの提唱した「アート・アンド・クラフト」運動から、日本の民藝に至る考え方を学び、現代社会における「用の美」について考える。さらに現代に残る手仕事を知る。それぞれが考える「用の美」をまとめ、説明できるようにする。	授業内容をまとめておく	4時間
第13回	<b>日本の産地を知る①</b> 日本は世界でも有数のファッション大国である。デザインだけでなく日本中の様々な素材の産地が世界から注目を浴びている。産地も自分たちの強みを生かしたデザインを考えて様々な取り組みを行っている。その取り組みやそれを取り上げるメディアとマーケットの関係性を知ることでもアパレル企業とは違うマーケットの成り立ちを知る。	産地のリサーチを行う	4時間
第14回	<b>日本の産地を知る②</b> グループに分かれ、各グループごとに産地を選びリサーチを行う。産地の成り立ち、主要製品、現状のマーケットなどいくつかの項目についてまとめプレゼンテーションを行う。	グループで課題を仕上げておく	4時間
第15回	<b>まとめ</b> 講義全体を通じて復習し、ファッションデザインについて全体的にまとめていく。	自分にとってファッションとは何かを考えまとめる	4時間

授業科目名	アパレル設計実習 I				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実際に洋服を作ることを学ぶために実習を中心とする。プリント、サンプルなどを使用して全体説明後実習をする。技法については、少人数グループあるいは個別に実践指導する。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。平面である布地を用いて、立体である人体を美しくみせるにはどうすればよいのか？平面でのパターン展開や立体裁断のテクニックを用いて洋服作りの基礎を学びます。前期は基礎縫いのファイル作成、ノースリーブワンピース製作を通して基礎的な上半身用衣服のデザイン、パターン展開の理解、基礎的な上半身衣服の立体構成、基礎的な手縫い技術、ミシンでの縫製技術を学ぶことを行います。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ファッション業界に必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。	基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を理解する。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	ワンピースのデザインアレンジ、製作過程を通じて専門的スキルを身につけることができる。	上半身衣服の展開、立体構成を理解し、衣生活に活用することができる。
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP5. 計画・立案力		自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える計画を立てる力をつけることができる。
2 . DP7. 完遂		決められた期限の中で自分がデザインした製作物を完成させることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内製作課題1	： 基礎縫いファイル：基礎縫いの美しさ、正確さを評価する。
40%	
授業内正確課題2	： ワンピース：アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。
50%	
作業計画の自己管理	： 期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。
10%	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業時に紹介する

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日2限  
場所： 生活デザイン第3研究室

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>授業内容と実習用具について</b> ・単品製作と量産方式、立体裁断法と平面製図法の説明。授業の方針を理解する。 ・実習用具の種類、名称、使用方法などを説明。	必要な道具を揃えておく 1時間
第2回	<b>手縫いの基礎縫い</b>	今週の予定を終えておく 1時間

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用する布や糸の素材、性質、名称など基本的事項の説明。</li> <li>・用布をパーツに裁断する。</li> <li>・裁断した布に、種類別に縫い方の名称、方法を説明後、実習をする。</li> <li>・基礎縫いの必要性を理解する。</li> </ul>		
第3回	<b>ミシンの基礎縫い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシンの扱い方など基本的事項の説明。</li> <li>・裁断した布に、種類別に縫い方の名称、方法を説明後、実習をする。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第4回	<b>基礎縫いのまとめと提出。製作するワンピースの分析とアレンジ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめておいた基礎縫いをファイルに順番通り整理し、1冊にまとめ提出する。</li> <li>・製作ワンピースのデザイン分析とデザインアレンジする為の資料集め</li> </ul>	ワンピースのデザイン資料を集めておく	1時間
第5回	<b>身頃パターン展開の基礎</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を学ぶ。</li> </ul>	集めた資料の中から参考にするワンピースを決めておく	1時間
第6回	<b>身頃パターン展開の基礎、ワンピース製作材料の説明</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を学ぶ。</li> <li>・ワンピース製作に必要な布地、用尺などの説明。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第7回	<b>ワンピースのパターン製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンピースパターンを製作する。</li> <li>・ベースのパターンを説明後、各自アレンジしたデザインでのパターン製作をする。</li> <li>・布の地直しの目的、方法などを説明後、実習をする。</li> </ul>	ワンピースに使用できる素材をマーケティングしておく	1時間
第8回	<b>ワンピースのパターン製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンピースパターンの製作。</li> <li>・完成したパターンを整理する。</li> </ul>	ワンピースにしようする素材見本を揃えておく	1時間
第9回	<b>ワンピースの製作、仮縫い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布の地直しの目的、方法などを説明後、実習をする。</li> <li>・標し付けの種類、方法などを説明後、布に標を付ける。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第10回	<b>ワンピースの製作、仮縫い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮構成（仮縫い）の目的、方法などを説明。</li> <li>・仮構成の縫製工程表を作成し、順序通り組み立てる。</li> <li>・仮構成したブラウスを試着し、鏡の前で体型の観察、補正、デザイン修正を行う。</li> <li>・フィッティングの必要性を理解する。</li> </ul>	ワンピースに必要な素材、付属を揃えておく	1時間
第11回	<b>ワンピースの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本構成（ミシン縫い）の工程順序を考え、縫製工程表を作成する。</li> <li>・身頃の構成方法の説明後、実習をする。</li> <li>・ミシンの掛け方縫い代の始末、アイロンの掛け方、用具の使用方法などを理解する。</li> <li>・デザインによって始末の方法が異なることを理解する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第12回	<b>ワンピースの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネック周りの構成方法の説明後、実習をする。</li> <li>・衿を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第13回	<b>ワンピースの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・袖ぐり周りの構成方法の説明後、実習をする。</li> <li>・袖を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第14回	<b>ワンピースの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したワンピースの仕上げアイロンの方法の説明後、プレスする。</li> <li>・製作したワンピースのコーディネートを考える。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第15回	<b>ワンピースの着装評価と提出</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したワンピースを使って各自コーディネートし写真撮影。</li> <li>・コーディネートした写真とワンピースの提出。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間

授業科目名	アパレル設計実習 I				
担当教員名	北谷五月				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実際に洋服を作ることを学ぶために実習を中心とする。プリント、サンプルなどを使用して全体説明後実習をする。技法については、少人数グループあるいは個別に実践指導する。				

開放科目の指示：「不可」

## 授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。平面である布地を用いて、立体である人体を美しくみせるにはどうすればよいのか？平面でのパターン展開や立体裁断のテクニックを用いて洋服作りの基礎を学びます。前期は基礎縫いのファイル作成、ノースリーブワンピース製作を通して基礎的な上半身用衣服のデザイン、パターン展開の理解、基礎的な上半身衣服の立体構成、基礎的な手縫い技術、ミシンでの縫製技術を学ぶことを行います。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ファッション業界に必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。	基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を理解する。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	ワンピースのデザインアレンジ、製作過程を通じて専門的スキルを身につけることができる。	上半身衣服の展開、立体構成を理解し、衣生活に活用することができる。
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える計画を立てる力をつけることができる。
2 . DP7. 完遂		決められた期限の中で自分がデザインした製作物を完成させることができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

授業内製作課題1

### 評価の基準

： 基礎縫いファイル：基礎縫いの美しさ、正確さを評価する。

40%

授業内制作課題2

： ワンピース：アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさの評価する。

50%

作業計画の自己管理

： 期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。

10%

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

授業時に紹介する

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業後30分程度、授業外時間を利用。

## 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>授業内容と実習用具について</b> ・単品製作と量産方式、立体裁断法と平面製図法の説明。授業の方針を理解する。 ・実習用具の種類、名称、使用方法などを説明。	必要な道具を揃えておく 1時間
第2回	<b>手縫いの基礎縫い</b>	今週の予定を終えておく 1時間

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用する布や糸の素材、性質、名称など基本的事項の説明。</li> <li>・用布をパーツに裁断する。</li> <li>・裁断した布に、種類別に縫い方の名称、方法を説明後、実習をする。</li> <li>・基礎縫いの必要性を理解する。</li> </ul>		
第3回	<b>ミシンの基礎縫い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシンの扱い方など基本的事項の説明。</li> <li>・裁断した布に、種類別に縫い方の名称、方法を説明後、実習をする。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第4回	<b>基礎縫いのまとめと提出。製作するワンピースの分析とアレンジ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめておいた基礎縫いをファイルに順番通り整理し、1冊にまとめ提出する。</li> <li>・製作ワンピースのデザイン分析とデザインアレンジする為の資料集め</li> </ul>	ワンピースのデザイン資料を集めておく	1時間
第5回	<b>身頃パターン展開の基礎</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を学ぶ。</li> </ul>	集めた資料の中から参考にするワンピースを決めておく	1時間
第6回	<b>身頃パターン展開の基礎、ワンピース製作材料の説明</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダーツの移動でフレア展開など、パターン展開の基礎を学ぶ。</li> <li>・ワンピース製作に必要な布地、用尺などの説明。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第7回	<b>ワンピースのパターン製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンピースパターンを製作する。</li> <li>・ベースのパターンを説明後、各自アレンジしたデザインでのパターン製作をする。</li> <li>・布の地直しの目的、方法などを説明後、実習をする。</li> </ul>	ワンピースに使用できる素材をマーケティングしておく	1時間
第8回	<b>ワンピースのパターン製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンピースパターンの製作。</li> <li>・完成したパターンを整理する。</li> </ul>	ワンピースにしようする素材見本を揃えておく	1時間
第9回	<b>ワンピースの製作、仮縫い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布の地直しの目的、方法などを説明後、実習をする。</li> <li>・標し付けの種類、方法などを説明後、布に標を付ける。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第10回	<b>ワンピースの製作、仮縫い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮構成（仮縫い）の目的、方法などを説明。</li> <li>・仮構成の縫製工程表を作成し、順序通り組み立てる。</li> <li>・仮構成したワンピースを試着し、鏡の前で体型の観察、修正、デザイン修正を行う。</li> <li>・フィッティングの必要性を理解する。</li> </ul>	ワンピースに必要な素材、付属を揃えておく	1時間
第11回	<b>ワンピースの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本構成（ミシン縫い）の工程順序を考え、縫製工程表を作成する。</li> <li>・身頃の構成方法の説明後、実習をする。</li> <li>・ミシンの掛け方縫い代の始末、アイロンの掛け方、用具の使用方法などを理解する。</li> <li>・デザインによって始末の方法が異なることを理解する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第12回	<b>ワンピースの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネック周りの構成方法の説明後、実習をする。</li> <li>・衿を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第13回	<b>ワンピースの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・袖ぐり周りの構成方法の説明後、実習をする。</li> <li>・袖を付ける場合と付けない場合の構成方法の違いを理解する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第14回	<b>ワンピースの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したワンピースの仕上げアイロンの方法の説明後、プレスする。</li> <li>・製作したワンピースのコーディネートを考える。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第15回	<b>ワンピースの着装評価と提出</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したワンピースを使って各自コーディネートし写真撮影。</li> <li>・コーディネートした写真とワンピースの提出。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間

授業科目名	<b>アパレル設計実習Ⅱ</b>			
担当教員名	藤崎美和			
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数 1
授業形態	テキストの他、配布するプリントを中心に授業を進める。縫い方、作り方については、全体を2～3回に分けて説明する。その後はテキストと各段階別の見本を見ることによって縫いあげていく。授 開放科目の指示：「不可」			

### 授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。和裁の基本的な縫い方（運針と基礎縫い）を1から学んだり、1年を通してゆかた（成人用）を縫うことにより、和服の基本的な、平面構成の理解とつくる技術を習得することを目標とする。ゆかたの縫製が完成した後は、ビデオ鑑賞を通して着付けと着物のたたみ方を学び、美しく着れるように練習することにより、和服のマナーや伝統を考えたり今後の社会に役立つようにする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	和裁用の基礎縫いの練習を15回中3回学ぶ。運針用布で運針をしっかり練習する。	基礎的知識・技術を身につけることができる。
汎用的な力		各テーブル毎で協力しながら制作することで、協調性を養うことができる。
1 . DP9. 役割理解・連携行動		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

提出物	評価の基準
提出物	: 観点ごとに「1. 身についた」「2. 十分身についた」「3. 習得した」の3段階で到達点を採点する。
50%	
作品（ゆかた）	: 観点ごとに「1. 身についた」「2. 十分身についた」「3. 習得した」の3段階で到達点を採点する。
30%	
小テスト	: 名称テストの採点をする（20点満点）。
10%	
受講態度	: 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に評価する。
10%	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「和服縫製」発行者：日本和裁士会

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 助手にお伝え下さい。後日返答いたします。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>授業方法・内容・教室・用具の使い方等の説明など</b> 第2回以降の授業内容などを説明する。基礎縫い布の裁断をする。	次回までに用具を揃える 1時間
第2回	<b>運針の練習と基礎縫い1（打ち留め・返し留め・重ねつぎ）</b> 和裁に必要な「運針」と「基礎縫い」を学ぶ。	各自で運針用布に練習する。 1時間
第3回	<b>基礎縫い2（本返し縫い・二度縫い・袋ぬい）</b> 和裁に必要な「基礎縫い」を学ぶ。	基礎縫いファイルを作成する。ゆかた地の下見をしておく。 1時間

第4回	<b>基礎縫い3 (三つ折りくけ・耳くけ・本くけ)</b> 和裁に必要な「基礎縫い」を学ぶ。	基礎縫いファイルを作成する。	1時間
第5回	<b>基礎縫いファイルの提出と創作1</b> 基礎縫いファイルを提出する。 各自ミニチュア着物を創作する。	浴衣生地を購入しておく。	1時間
第6回	<b>浴衣の名称と創作2</b> 浴衣の名称を学ぶ。 各自ミニチュア着物を創作する。	創作作品で発表する内容を考えてくる。	1時間
第7回	<b>創作作品の提出・発表</b> 各自ミニチュア着物を創作して提出・発表する。	浴衣の名称を暗記する。	1時間
第8回	<b>名称テスト・採寸と裁断</b> 名称テストをする。 各自採寸して、反物の裁断を学ぶ。	採寸表を作成する。	1時間
第9回	<b>裁断つづき・身頃の標つけ</b> 反物の裁断を学ぶ。 身頃の標付けをする。	正確に裁断し、各部ごとに確認して提出する。	1時間
第10回	<b>袖標つけ 袖縫い1</b> 袖の標付けを学ぶ。 袖縫いを学ぶ。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	1時間
第11回	<b>袖縫い2・運針提出</b> 袖縫いを学ぶ。 運針布を提出する。	運針布を提出する。	1時間
第12回	<b>背縫い (二度縫い)</b> 背縫いの標をして、背縫いを学ぶ。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	1時間
第13回	<b>身頃の標つけ・脇縫い1</b> 身頃の標をつけて、脇縫いを学ぶ。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	1時間
第14回	<b>脇縫い2と脇の始末1</b> 脇縫いをする。脇の始末をする。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	1時間
第15回	<b>脇の始末2</b> 脇の始末をする。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	1時間



授業科目名	<b>アパレル設計実習Ⅱ</b>				
担当教員名	水谷祥子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	配布するプリントを中心に授業を進める。縫い方、作り方については、全体を2～3回に分けて説明する。その後はプリントと各段階別の見本を見ることによって縫いあげていく。和裁の技術習得のため、基礎開放科目の指示：「不可」				

### 授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。1年を通してゆかた（成人用）を縫うことにより、和服の基本的な、平面構成の理解とつくる技術を習得することを目標とする。それをふまえて、ゆかただけでなく日本の伝統としての和服を理解し、現代の生活での実践、また伝統を受け継ぎ伝えるという意識を持てるようにする。1年の前半にあたるこの授業では、和裁用の基礎縫いの練習を中心に、和裁の知識・技術を身につけることとする。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ゆかたの布地や構成、名称、製作方法などを学習、理解し、実践する。	自分で作るゆかたをイメージし、適切な方法で縫い上げることができる。
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP7. 完遂		習得した知識、技術を用い、最後まで根気強くゆかたを作り上げることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

基礎縫いファイル

#### 評価の基準

： 提出時に、正確さ、美しさ、内容を理解し分かりやすくまとめられているかにより評価する。  
(3点×13個)

39%

運針用布

： 提出時に、美しさ（縫い目の大きさ、そろっているか、まっすぐに縫えているか、しごいてあるか等）、不足がないかなどを見て評価する。

16%

名称テスト

： 第6回授業時に各部の名称を20問中何問暗記できているかをテストし、評価する。

10%

授業内課題（ゆかた）

： 最終授業までに、袖15点、背縫い、くりこし内あげ縫い、かけ衿縫い各5点で、それぞれポイントとなる部分を見て評価する。

30%

受講状況

： 各回授業に積極的に取り組んでいるか、授業態度（受講マナー、私語、携帯電話、忘れ物等）を減点方式で評価する。

5%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「いちばんやさしい和裁の基本」松井扶江監修（ナツメ社、2015年）  
その他、授業時に随時紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： なるべく授業の30分前から授業後1時間程度の間教室で質問してください。

### 授業計画

第1回	授業方法・内容・教室・用具の使い方等の説明 基礎縫い用布の裁断	指定した糸、針など次の授業に必要なものを購入する。ゆかた地については下見しておく。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	授業の進め方、準備物と購入物等について学習する。基礎縫い用布を裁断し、準備しておく。		1時間

第2回	<b>運針の練習 基礎縫いについて</b>  運針時の正しい針の持ち方、姿勢、手の動かし方について学習し、運針用布にその通りに縫ってみる。 。和裁の基礎縫いについて、種類、使い方などを学習する。	正確で美しい運針ができるように、各自で運針用布に練習する。運針は、用布に規定の本数を縫って、10回目の授業の終わりまでをめぐりに提出する。	1時間
第3回	<b>基礎縫いファイルの作成1～とめ方、つなぎ方、縫い方～</b> 縫い方と、糸のとめ方、糸のつなぎ方について学ぶ。基礎縫い用布に縫い、サンプルを作る。	運針の練習、基礎縫いの練習	1時間
第4回	<b>基礎縫いファイルの作成2～きせのかけ方、くけ方、しつけ方～</b> きせのかけ方、くけ方、しつけ方について学ぶ。基礎縫い用布に縫い、サンプルを作る。	運針の練習、基礎縫いの練習	1時間
第5回	<b>基礎縫いファイルの整理とまとめ 成人用ゆかたについて</b>  作成したサンプルを整理し、名称、方法、要点などを文章や図を使って自分なりにまとめる。ゆかたの構成と名称について学習し、ゆかたに適した布地について考える。	作成したサンプルを基礎縫いファイルにまとめて提出する。ゆかたの各部の名称を暗記し、名称テストに備える。	1時間
第6回	<b>採寸と寸法決め 名称テスト</b>  前回学習したゆかたの形と名称について簡単なテストをおこなう。 採寸の方法についての説明の後、2人1組で採寸する。柄合わせについて学習する。	採寸寸法より採寸表1を完成させ提出する。次の授業までにゆかた地を購入し、布地に合った柄合わせを考えておく。	1時間
第7回	<b>小さなゆかたを紙で作る～ゆかたの構成を実感しよう～</b>  大きな実物のゆかたでは実感しにくい構成を、小さなゆかたを作ることでよりよく理解する。ゆかた地に見立てた紙を裁断し、のり等で貼り合わせて縮小したゆかたを完成させる。	紙のゆかたで構成と名称を確認し、しっかり理解しておく。柄合わせを考え、裁断の方法についてもよく復習しておく。	1時間
第8回	<b>裁断</b>  裁断方法について確認した後、柄合わせを考えながら各自裁断する。各パーツごとに、柄合わせの糸標をつけて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの袖縫いの所を読んでおく。	1時間
第9回	<b>袖標つけ 袖縫い1（袖下、袖口下）</b>  袖の標つけ、縫い方について学習し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。袖縫いで使用する縫い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。	1時間
第10回	<b>袖縫い2（丸み、袖口、飾りじつけ） 運針提出</b>  袖の丸みの作り方、飾りじつけについて理解し、縫い上げて提出する。今回までに各自練習してきた運針用布を提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。プリントの背縫い、くりこし内あげ縫いの所を読んでおく。	1時間
第11回	<b>背縫い標つけ・くりこし内あげ標つけ</b>  それぞれの標つけの方法について学習し、標つけを仕上げて提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。背縫い、くりこし内あげ縫いで使用する縫い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。	1時間
第12回	<b>背縫い・くりこし内あげ縫い1（主に背縫い）</b>  それぞれの縫い方について理解し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。背縫い、くりこし内あげ縫いで使用する縫い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。	1時間
第13回	<b>背縫い・くりこし内あげ縫い2（主にくりこし内あげ縫い）</b>  それぞれの縫い方、かくしじつけについて理解し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。プリントの身頃の標つけの所を読んでおく。	1時間
第14回	<b>身頃の標つけ</b>  前身頃、後身頃の標つけについて学習し、標つけを仕上げて提出する。	時間内にできなかった所は、次の授業までに仕上げる。プリントのかけ衿つけの所を読んでおく。	1時間
第15回	<b>かけ衿つけ</b>  かけ衿のつけ方を学習し、縫い上げて提出する。かけ衿つけの後、できあがっていない所を仕上げる。	今までの授業でできあがっていないところがあれば仕上げる。問題のある所、正確に縫えていない所は縫い直し、やり直しをする。	1時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅲ				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実際に洋服を作る力をつけるために実習を中心とする。プリント、サンプルを使用して全体説明後実習をする。技法については、少人数グループあるいは個別に実践指導する。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。平面である布地を用いて、立体である人体を美しく見せるにはどうすれば良いのか？後期は前期で学んだパターン展開の復習の為にスカート作成を行います。さらに、上半身見頃の復習と衿、袖など洋服製作に必要なディテールを学ぶ為、アウターの製作を行います。規定の形をアレンジすることで、個性を洋服で表現する手段を学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ファッション業界に必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。	基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を理解する。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	スカート、ジャケットのデザインアレンジ、制作過程を通じて専門的スキルを身につけることができる。	下半身衣服の展開、立体構成やディテールを理解し、衣生活に活用することができる。
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える計画を立てる力をつけることができる。
2 . DP7. 完遂		決められた期限の中で自分がデザインした制作物を完成させることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内制作課題1	30%	： スカート：アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。
授業内制作課題2	60%	： ジャケット：衿や袖などディテールの理解、アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。
作業計画の自己管理	10%	： 期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業時に紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日2限  
場所： 生活デザイン第3研究室

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>スカートの原型 ・ デザインパターンの作図</b> ・ スカート原型の製図方法を学ぶ。 ・ スカートのデザインパターンの製図方法を学ぶ。	デザインするための資料を集める。 1時間
第2回	<b>自分のスカートパターンの作図</b> ・ 原型を展開し、自分のスカートパターンを製作する。	デザインを考慮しておく 1時間

第3回	<b>スカートの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布の地直しをする。</li> <li>・スカート製作に使用する布の裁断。</li> <li>・ファスナー付けなど基礎縫いの説明。</li> </ul>	使用する生地や付属を揃えておく	1時間
第4回	<b>スカートの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエスト周りの構成方法を説明後、実習をする。</li> <li>・デザインによってウエスト始末の方法が異なることを理解する。</li> <li>・ベルト芯、芯地の必要性と扱い方を理解する。</li> <li>・カギホックの付け方を説明後、実習をする。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第5回	<b>スカートの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したスカートの仕上げアイロンの方法学び、プレスする。</li> <li>・スカートを着装し評価する。</li> </ul>	ジャケットをデザインするための資料を集めておく	1時間
第6回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製作するアウターのデザイン分析を行う。</li> <li>・身頃パターンの展開を行う。</li> </ul>	資料を参考にデザインを考えておく	1時間
第7回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衿のパターンを引く。</li> <li>・ポケットなどディテールを決めてパターンを引く。</li> </ul>	ジャケットに適した生地のリサーチを行う	1時間
第8回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・袖のパターンの基本を学ぶ。</li> <li>・個々でパターンを修正する。</li> </ul>	ジャケットに使用したい生地見本を揃えておく	1時間
第9回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縫い代付けを行う。</li> <li>・接着芯のパターンも引き、パターンを完成させる。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第10回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布の地直しを行い、裁断をする。</li> <li>・表地、スレキ、芯地すべて裁断を終える。</li> </ul>	生地や付属など必要なものを揃えておく	1時間
第11回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロックミシン箇所や縫製の注意点を説明後、各自縫製に入る。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第12回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衿の縫製を説明後、各自縫製する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第13回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・袖付けを説明後、袖を各自縫製する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第14回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステッチの必要な箇所の説明後、各自ステッチを入れる。</li> <li>・ボタンホールをあげ、ボタンをつける。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第15回	<b>アウターの着装評価と提出</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したアウターの仕上げアイロンの方法学び、プレスする。</li> <li>・アウターを着装し評価する。</li> <li>・作品とレポートを提出する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅲ				
担当教員名	北谷五月				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習を中心とする。プリント、サンプルを使用して全体説明後実習をする。技法については、少人数グループあるいは個別に実践指導する。				

開放科目の指示：「不可」

## 授業概要

本授業では、将来、ファッション業界で活躍するために必要な基礎的な洋服製作の知識、技術を学びます。平面である布地を用いて、立体である人体を美しく見せるにはどうすれば良いのか？後期は前期で学んだパターン展開の復習の為にスカート作成を行います。さらに、上半身見頃の復習と衿、袖など洋服製作に必要なディテールを学ぶ為、アウターの製作を行います。規定の形をアレンジすることで、個性を洋服で表現する手段を学びます。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ファッション業界に必要な基礎的な専門的知識・技能を身につけることができる。	基礎的な上半身衣服のデザイン・パターン展開を理解する。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	スカート、ジャケットのデザインアレンジ、制作過程を通じて専門的スキルを身につけることができる。	下半身衣服の展開、立体構成やディテールを理解し、衣生活に活用することができる。
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		自己の作業計画を立案し、期限内で作業を終える計画を立てる力をつけることができる。
2 . DP7. 完遂		決められた期限の中で自分がデザインした制作物を完成させることができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

授業内制作課題1

30%

授業内制作課題2

60%

作業計画の自己管理

10%

### 評価の基準

： スカート：アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。

： ジャケット：衿や袖などディテールの理解、アレンジしたデザイン、シルエット、縫製の美しさを評価する。

： 期限内で作業を進めていくことができているかを評価する。

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

授業時に紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業後30分程度、授業外時間を利用。

## 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>スカートの原型 ・ デザインパターンの作図</b> ・ スカート原型の製図方法を学ぶ。 ・ スカートのデザインパターンの製図方法を学ぶ。	デザインするための資料を集める。 1時間
第2回	<b>自分のスカートパターンの作図</b> ・ 原型を展開し、自分のスカートパターンを製作する。	デザインを考慮しておく 1時間

第3回	<b>スカートの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布の地直しをする。</li> <li>・スカート製作に使用する布の裁断。</li> <li>・ファスナー付けなど基礎縫いの説明。</li> </ul>	使用する生地や付属を揃えておく	1時間
第4回	<b>スカートの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエスト周りの構成方法を説明後、実習をする。</li> <li>・デザインによってウエスト始末の方法が異なることを理解する。</li> <li>・ベルト芯、芯地の必要性と扱い方を理解する。</li> <li>・カギホックの付け方を説明後、実習をする。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第5回	<b>スカートの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したスカートの仕上げアイロンの方法学び、プレスする。</li> <li>・スカートを着装し評価する。</li> </ul>	ジャケットをデザインするための資料を集めておく	1時間
第6回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製作するアウターのデザイン分析を行う。</li> <li>・身頃パターンの展開を行う。</li> </ul>	資料を参考にデザインを考えておく	1時間
第7回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衿のパターンを引く。</li> <li>・ポケットなどディテールを決めてパターンを引く。</li> </ul>	ジャケットに適した生地のリサーチを行う	1時間
第8回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・袖のパターンの基本を学ぶ。</li> <li>・個々でパターンを修正する。</li> </ul>	ジャケットに使用したい生地見本を揃えておく	1時間
第9回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縫い代付けを行う。</li> <li>・接着芯のパターンも引き、パターンを完成させる。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第10回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布の地直しを行い、裁断をする。</li> <li>・表地、スレキ、芯地すべて裁断を終える。</li> </ul>	生地や付属など必要なものを揃えておく	1時間
第11回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロックミシン箇所や縫製の注意点を説明後、各自縫製に入る。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第12回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衿の縫製を説明後、各自縫製する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第13回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・袖付けを説明後、袖を各自縫製する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第14回	<b>アウターの製作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステッチの必要な箇所の説明後、各自ステッチを入れる。</li> <li>・ボタンホールをあげ、ボタンをつける。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間
第15回	<b>アウターの着装評価と提出</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したアウターの仕上げアイロンの方法学び、プレスする。</li> <li>・アウターを着装し評価する。</li> <li>・作品とレポートを提出する。</li> </ul>	今週の予定を終えておく	1時間

授業科目名	アパレル設計実習Ⅳ				
担当教員名	藤崎美和				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	テキストの他、配布するプリントを中心に授業を進める。縫い方、作り方については、全体を2～3回に分けて説明する。その後はテキストと各段階別の見本を見ることによって縫いあげていく。				

開放科目の指示：「不可」

## 授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。和裁の基本的な縫い方（運針と基礎縫い）を1から学んだり、1年を通してゆかた（成人用）を縫うことにより、和服の基本的な、平面構成の理解とつくる技術を習得することを目標とする。ゆかたの縫製が完成した後は、ビデオ鑑賞を通して着付けと着物のたたみ方を学び、美しく着れるように練習することにより、和服のマナーや伝統を考えたり今後の社会に役立つようにする。

## 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	<b>具体的内容：</b> 着付けときものたたみ方を学ぶ	<b>目標：</b> 着装を習得する。和服のマナーについても考えることができる。
<b>汎用的な力</b> 1 . DP9. 役割理解・連携行動		協同学習を通して協調性を養うことができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 実験、実技、実習
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

作品（ゆかた）

### 評価の基準

： 観点ごとに「1. 身についた」「2. 十分身についた」「3. 習得した」の3段階で到達点を採点する。

50%

着付けテスト

： 観点ごとに「1. 身についた」「2. 十分身についた」「3. 習得した」の3段階で到達点を採点する。

20%

提出物

： 感想文やプリントの提出の内容で採点する（20点満点）。

10%

受講態度

： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に評価する。

20%

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

「和裁縫製」発行者：社団法人 日本和裁士会

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は●単位の科目であるため、平均すると毎回●時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 助手にお伝えください。後日返答いたします。

## 授業計画

回数	内容	指示	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>おくみ標つけ・おくみの柄あわせ、襦下くけ1</b> おくみの柄をあわせて、おくみの標をつける。襦下のくけを学ぶ。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	4時間
第2回	<b>襦下くけ2・前身ごろの標とおくみつけ1</b> おくみのつけ方と始末を学ぶ。仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	4時間

第3回	<b>おくみつけ2</b> おくみのつけ方と始末を学ぶ。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	4時間
第4回	<b>おくみくけ1・2</b> おくみの始末を学ぶ。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	4時間
第5回	<b>衿標つけ・衿の部品を準備</b> 衿の標つけを学び、衿つけに備える。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	4時間
第6回	<b>衿つけ(下前半分)・額縁と裾くけ</b> 衿つけを学ぶ。 裾くけを学ぶ。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	4時間
第7回	<b>衿つけ(上前半分)・裾くけ(つづき)</b> 衿つけを学ぶ。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	4時間
第8回	<b>衿の始末(掛衿間くける)</b> 衿の始末を学ぶ。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	4時間
第9回	<b>衿先留 衿くけ(衿先まわり)</b> 衿先の始末を学び、衿をくける。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	4時間
第10回	<b>袖つけ1・2</b> 袖つけを学ぶ。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	4時間
第11回	<b>袖つけ始末1・2</b> 袖つけの始末を学ぶ。 仕上げて提出する。	指示した部分を縫い上げ、提出する。	4時間
第12回	<b>ビデオ鑑賞・袖つけ始末2(つづき)</b> ビデオ鑑賞で着付けを学ぶ(プリント提出)。 袖つけの始末を学ぶ。	浴衣を縫い上げた感想文を提出する。	4時間
第13回	<b>着付け練習と、仕上げ・たたみ方</b> 着付けの練習をする。 アイロンで仕上げをして、浴衣のたたみ方を学ぶ。	完成した浴衣を提出する。	4時間
第14回	<b>着付けとたたみ方の練習2</b> 着付けと浴衣をたたむ練習をする。	着付けに必要な小物を次の授業までに準備しておく。	4時間
第15回	<b>着付けテスト</b> 着付けとたたみ方のテストをして身につける。	着付けとたたみ方のテストをする。	4時間



授業科目名	<b>アパレル設計実習Ⅳ</b>				
担当教員名	水谷祥子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	配布するプリントを中心に授業を進める。縫い方、作り方については、全体を2～3回に分けて説明する。その後はプリントと各段階別の見本を見ることによって縫いあげていく。ゆかたを完成させ、縫い上げ				
開放科目の指示：「不可」					

### 授業概要

和服の布地、作り方、着装等についての理解と構成の基礎を実習によって勉強する。1年を通してゆかた（成人用）を縫うことにより、和服の基本的な、平面構成の理解とつくる技術を習得することを目標とする。それをふまえて、ゆかただけでなく日本の伝統としての和服を理解し、現代の生活での実践、また伝統を受け継ぎ伝えるという意識を持てるようにする。

1年の後半であるこの授業では、前期に得た知識・技術をもとにゆかたを縫い上げる。着付け実習を実施し、着装についての理解を深める。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

ゆかたの布地や構成、名称、製作方法などを学習、理解し、実践する。

#### 目標：

自分で作るゆかたをイメージし、適切な方法で縫い上げることができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP7. 完遂

習得した知識、技術を用い、最後まで根気強くゆかたを作り上げることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

完成作品

80%

実技テスト（襷先縫い）

15%

受講状況

5%

#### 評価の基準

： 最終授業までに、身頃、衿、衤、仕上げ各20点で、それぞれの部分を4つのポイントについて見る。正確さ、美しさなどの観点から評価する。

： 班で協力し合えたか（5点）、正確に理解できたか（5点）、最後まで縫い上げられたか（5点）の観点で評価する。

： 各回授業に積極的に取り組んでいるか、授業態度（受講マナー、私語、携帯電話、忘れ物等）を減点方式で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「いちばんやさしい和裁の基本」松井扶江監修（ナツメ社、2015年）  
その他、授業時に随時紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： なるべく授業の30分前から授業後1時間程度の間教室で質問してください。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<p><b>脇縫い</b></p> <p>脇縫いの縫い方について理解し、縫い上げて提出する。</p>	<p>時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。脇縫いで使用する縫い方について、基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。プリントの脇割りの所を読んでおく。</p> <p>1時間</p>
第2回	<p><b>脇縫い始末1（脇割り）</b></p> <p>縫いしろの割り方、くけ方について学習し、縫い上げて提出する。</p>	<p>時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの袖つけと脇の耳ぐけの所を読んでおく。</p> <p>1時間</p>

第3回	<b>脇縫い始末2（袖つけ、脇耳ぐけ）</b>  縫いしろのくけ方について理解し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの衽つけの所を読んでおく。衽つけで使用する縫い方を基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。	1時間
第4回	<b>衽標つけ 衽つけ</b>  衽の標つけと縫い方について学習し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの衽下ぐけの所を読んでおく。衽下ぐけで使用する縫い方を基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。	1時間
第5回	<b>衽つけ縫いしろの始末 衽下ぐけ</b>  縫いしろのくけ方と衽下のくけ方について理解し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの衽つけの所を読んでおく。衽つけ縫いで使用する縫い方を基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。	1時間
第6回	<b>衽標つけ 衽つけ1（衽つけ縫い） 衽下ぐけ</b>  唯一立体的な構成となる衽についての説明を聞いた後、標のつけ方について学習し、衽の標つけを仕上げる。衽つけの待ち針の打ち方、縫い方、注意点について学習し、衽つけ縫いを仕上げて提出する。衽下ぐけを縫い上げる。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの三つ衽芯、衽先縫いの所を読んでおく。	1時間
第7回	<b>衽つけ2（三つ衽芯、衽先縫い）</b>  三つ衽芯のつけ方、衽先留めの縫い方について学習し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの衽ぐけの所を読んでおく。	1時間
第8回	<b>衽くけ</b>  衽のくけ方について理解し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。衽先縫いの資料を集めておく。プリントの衽先縫いと裾くけの所を読んでおく。裾くけで使用する縫い方を基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。	1時間
第9回	<b>衽先縫いテスト 裾くけ</b>  授業までに集めた資料等を参考に、班のメンバーで話し合いながら助け合って、衽先縫いをテスト用布に各自縫い上げ提出する。その後、正確に縫えているかを確認しながら、ゆかたに実践する。裾くけについても学習し、続けて縫い上げる。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。次回の巾着作りのため、残布の量を確認し、残布に合う色合いの布やひもを選び、必要があれば購入しておく。巾着のプリントを読んでおく。	1時間
第10回	<b>ゆかた巾着作り1（裁断）</b>  ゆかたの残布を使い、リバーシブルの巾着を作る。配色を考え、用意してある型紙を使って、各部分を裁断し、縫い始める。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。巾着に使用する縫い方を調べておく。	1時間
第11回	<b>ゆかた巾着作り2（縫い上げ）</b>  前回に引き続き、ゆかたの残布を使った巾着を作る。各部分を縫い方に気を付けながら縫い上げていく。ゆかたで使わなかった縫い方や方法についても学習する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。プリントの袖つけの所を読んでおく。袖つけに使用する縫い方を基礎縫いファイルで確認し、準備しておく。	1時間
第12回	<b>袖つけ</b>  袖つけの縫い方、袖の縫いしろとふりのくけ方について学習し、縫い上げて提出する。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。今までの授業でまだできあがっていない所があれば仕上げる。プリントの仕上げ、たたみ方の所を読んでおく。	1時間
第13回	<b>仕上げ たたみ方</b>  正確に縫えているかを点検、確認し、評価する。問題のある箇所については縫い直す。アイロンのかけ方、たたみ方について学習し、実習する。ゆかたを縫い上げた感想と気づいた点、反省点を文章にまとめる。	時間内にできなかった所は次の授業までに仕上げる。着付けのための服装、補正用タオル等を準備しておく。	1時間
第14回	<b>和服について ビデオ鑑賞 着付け練習1</b>  着付けのための準備物と補正について学習する。着付けについてのビデオを観て、要点をプリントにまとめる。ゆかたの着方と帯の結び方を練習する。	一人でゆかたを着付けられるように、家で着付けの練習をしておく。和服での立ち振る舞いやマナーについて考えながら、プリントを読んでおく。	1時間
第15回	<b>着付け練習2 発表</b>  前回の授業で学び、練習したことをふまえて、作ったゆかたを実際に自分一人ですべて着付ける。その後、ゆかたを脱ぎ、たたんで片付けるところまでを実習する。	早く、きれいに、着くずれないように着付けられるよう、繰り返し練習する。ゆかたをきちんとたたみ、正しく保管できるようにする。	1時間

授業科目名	<b>被服整理学</b>				
担当教員名	澤田和也				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	基本的に講義形式で授業を行い、実物の紹介や映像による視覚的な理解を深めることに重点に置く。また、毎回授業の最後に、演習としてその授業において解説した重要事項についてのミニレポートを実施し、成 開放科目の指示：「不可」				

### 授業概要

本授業では、日常生活と非常に関連の深い衣料品について、その素材特性から使用・保管に至る衣料品の取り扱い方について、生活と密着させて考える。最初に、衣服に付着する汚れの種類や特徴について解説した後、それらを除去するための理論について解説する。特に「洗浄」については重点をおき、界面活性剤の特性や洗浄メカニズムを科学的に理解するために、実例を提示しながら解説する。また、日進月歩する機能性を有する衣料品開発について、その最先端の技術を紹介し、将来の衣料品についても考える。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	衣料管理の中でも特に洗浄と堅牢性に重点を置き、その内容についての専門知識を身に付ける。	日常生活において生じるさまざまな取扱いトラブル（色落ち、形状変化・強度低下等の力学的性質変化）について、自身で考え原因究明ができるまでの能力を身に付けることができる。
汎用的な力		衣生活における諸事象について、受け身の理解姿勢ではなく原因を探る関心を持つことができるようになる。
1 . DP6. 行動・実践		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

ミニレポート

#### 評価の基準

： 毎回5点満点として15回実施し、総計を60点満点に換算する。  
自己の考えを含めて詳細に記載されている（5点）  
講義内容のみから記載されている（3点）  
論点が的確ではない。（1点）

60%

特定テーマに対する課題考察力

： 2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して20点×2回の40点満点で評価する。  
社会的背景も含めて考察出来ている（20点）  
授業内容のみで考察出来ている（10点）

40%

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
片山倫子ら	・ 衣服管理の科学	・ 建帛社	・ 年

### 参考文献等

「ファッションと化学」日本化学会編（大日本図書）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

日常の衣生活と密接に関連した授業内容であり、普段何気なく見過ごしている現象を再認識する授業でもある。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）  
場所： 生活デザイン第1研究室  
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

### 授業計画

第1回

衣料繊維の基礎事項（前編）

授業で解説した、普段着用している衣服について、その意味を考え直す。

授業外学修課題にかかると目安の時間

4時間

	ファッション素材として衣料品と生活との関わりについて解説し、どのような目的で被服整理を学ぶかについて解説する。		
第2回	<b>衣料繊維の基礎事項（後編）</b>  ファッション素材として衣料品と生活との関わりについて解説し、どのような目的で被服整理を学ぶかについて解説する。	普段着用している衣服について、特にスポーツ時における着用の意味を普段の着用と比較しながら考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第3回	<b>洗浄（汚れについて）</b>  衣服に付着する汚れの種類について解説し、それらがどのような性質を有するかについて理解する。その知識により、日常生活での汚れと洗浄についての関係を理解する。	普段の洗濯の際に、何を考慮すべきかを考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第4回	<b>洗浄（界面活性剤について）</b> 界面活性剤とは何かを説明し、身の回りに種々の形で存在する界面活性剤について、その特徴や性質、使い分け方法について講義する。	界面活性剤とは何かを考える	4時間
第5回	<b>洗浄（界面活性剤について及びビルダーの効果について）</b> 主として合成洗剤に含まれている種々の添加剤について、その役割と混在させる意味を解説し、洗剤についての理解を深める。	洗剤に含まれる添加剤の意味を理解する。	4時間
第6回	<b>洗浄（ビルダーの効果および洗浄機構）</b>  洗浄助剤の有無による洗浄効果への影響や、人間の感性からみた汚れ落ちと科学的な観点から見た汚れ落ちの差について解説する。	人間は何をもって汚れが落ちたと感じるかにいて考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第7回	<b>洗浄（洗浄機構）</b>  洗浄において、親水性および油性それぞれの汚れの除去メカニズムについて解説し、日常生活における効果的な洗浄を理解する。	普段の洗濯を効果的に行うためにはどのようなことを考慮すべきか、について考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第8回	<b>仕上げと保管（1）</b> シーズンオフにおける衣服の保管方法について、その意味や重要性を解説する。	普段の日常生活における衣服の収納方法を考え直す。	4時間
第9回	<b>仕上げと保管（2）</b>  シーズンオフの衣服の保管方法について、保管中におけるトラブルとその対処法について講義する。	衣服の保管時におけるトラブルを思い起し、その原因について考えておき、それを発表できるようにしておく。	4時間
第10回	<b>精練と漂白（1）</b> 精練と漂白の根本的な違いと、そのメカニズムの相違について理解する。また、蛍光増白剤の効果についても解説する。	消費者が考える白さと、科学的な白さの違いについて復讐しておく。	4時間
第11回	<b>精練と漂白（2）</b> 実際の糸状態での精練・漂白操作と、布状態での精練・漂白の工程について解説し、その工程の違いを理解する。	精練・漂白の具体的手段について、日常生活で行っている方法と比較する。	4時間
第12回	<b>加工（一般仕上げ）</b> 繊維製品の後加工として、現在工業的に行われている加工工程について解説する。また、それらの加工により、日常の衣生活にどのような効果をもたらされているかについて理解を深める。	素材そのものの性質を引き出すために、どのような加工が施されているかを調べておく。	4時間
第13回	<b>加工（特殊加工1）</b> 繊維製品に機能性を付与するために、現在行われている手段について解説する。	特定の性能を付与するための加工手段と繊維の性状変化を考えておく。	4時間
第14回	<b>加工（特殊加工2）</b> 繊維製品に機能性を付与するために、現在研究されている最新技術を紹介し、将来どのような技術が望まれるかについて考える。	将来の快適な衣生活のために考えられる加工を議論できるようにする。	4時間
第15回	<b>衣服管理の総括</b> 快適な衣生活と環境をテーマに今までの講義内容全般を総括し、グループ毎にそのテーマに対する課題提議をもらった上で討論を行う。	今後の衣生活をどのようにとらえるかについて考えてみる。	4時間

授業科目名	<b>食物学</b>				
担当教員名	川原早苗				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	テーマに沿った資料等を配布し、講義を行う。毎回授業内容に関する小レポートを提出することにより、理解を深める。筆記試験と課題レポート、授業内レポートで、理解度や自分の考えを文章にまとめる力を問う。				

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

私達が生活している社会は日々変化し、それに伴い食生活も変化している。健康で、心豊かな生活を創っていくために、「食物」について学習することは、意義深いことであり、生きる力に繋がっている。「人と食物」「健康と栄養」「食品の栄養と調理」「食の安全」「これからの食生活」「環境問題」など様々な角度から、「食物」領域について、自分たちの食生活を振り返りながら理解を深めていく。基礎的な必要知識を学習し、さらに発展させながら実生活に役立つ能力を身につけることを目標とする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	食に関する知識	食生活全般に関する基礎的な知識を身につけることができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	よりよい食生活を送るための方法	身につけた知識をもとに、自身および社会の「食」に関する問題点を明確にし改善策を考えることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		食生活上の問題点を明確にすることができる。
2．DP8. 意思疎通		問題点と改善策を自分なりに考え、意見を伝えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業内小レポート

評価の基準  
： 内容により、各回0～2点で評価する。  
30%

課題レポート

： 自分の意見・考えを含めて詳しく書かれているかについて評価する。  
10%

筆記試験

： 主に知識に関する筆記試験を行う。  
40%

受講状況

： 授業への積極的な参加、受講態度などを総合的に評価する。  
20%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「新しい食物学」加藤・長沼（南江堂）、「入門食物学」三好（培風館）、「栄養と健康」（建帛社）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学習課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問は授業の前後、またはメールで対応する。  
アドレス：kawahara@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

第1回

青少年の食生活と自立

授業内容の復習、課題レポート

授業外学修課題にか  
かる目安の時間

4時間

	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康を支える三本の柱を理解する。</li> <li>食事の役割を知る。</li> <li>子供の食の問題点を知る。</li> </ul>		
第2回	<b>栄養素の種類と働き</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>栄養素と体の関係を理解する。</li> <li>五大栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミン）を学ぶ。</li> <li>水、食物繊維について学ぶ。</li> </ul>	授業内容の復習、課題レポート	4時間
第3回	<b>食品の栄養的特質と青少年に必要な栄養の特徴</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>食品の栄養成分を知る。</li> <li>基礎食品群を学ぶ。</li> <li>栄養欠乏・過剰症を理解する。</li> </ul>	授業内容の復習、課題レポート	4時間
第4回	<b>食生活指針と食の安全チェック</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生鮮食品の選択、加工食品の選択について理解する。</li> <li>食品添加物について学ぶ。</li> <li>食品表示を理解する。</li> </ul>	授業内容の復習、課題レポート	4時間
第5回	<b>食品の衛生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭内で調理して食べるまでの安全について学ぶ。</li> <li>食中毒について理解する。</li> <li>食中毒予防三原則について知る。</li> </ul>	授業内容の復習、課題レポート	4時間
第6回	<b>野菜・果物の特徴・栄養・調理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の特徴・栄養、吸水性や放水性、色素、あくを学ぶ。</li> <li>果物の特徴・栄養を学ぶ。</li> <li>褐変現象を理解する。</li> </ul>	授業内容の復習、課題レポート	4時間
第7回	<b>穀物類の特徴・栄養・調理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>米の特徴・栄養・調理と、加工品について理解する。</li> <li>麦の特徴・栄養・調理と、加工品について理解する。</li> <li>雑穀の特徴・栄養・調理と、加工品について理解する。</li> </ul>	授業内容の復習、課題レポート	4時間
第8回	<b>魚介類の特徴・栄養・調理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>魚類の特徴・栄養・調理について理解する。</li> <li>貝類の特徴・栄養・調理について理解する。</li> <li>いかの切り方を学ぶ。</li> </ul>	授業内容の復習、課題レポート	4時間
第9回	<b>肉、乳類の特徴・栄養・調理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>獣鳥鯨肉類の特徴・栄養・調理について理解する。</li> <li>肉の加熱を学ぶ。</li> <li>牛乳の特徴・栄養・調理、乳製品について理解する。</li> </ul>	授業内容の復習、課題レポート	4時間
第10回	<b>いも類、豆類、卵類の特徴・栄養・調理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>いも類の特徴・栄養・調理について理解する。</li> <li>豆類の特徴・栄養・調理について理解する。</li> <li>卵類の特徴・栄養・調理、卵の凝固性について理解する。</li> </ul>	授業内容の復習、課題レポート	4時間
第11回	<b>調理と味</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>食物の味について理解する。</li> <li>味の相互作用（対比効果、抑制効果、相乗効果、変調現象）を学ぶ。</li> <li>調味と調味料を学ぶ。</li> </ul>	授業内容の復習、課題レポート	4時間
第12回	<b>食生活と環境問題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の食糧事情を知る。</li> <li>地球規模で考える食の課題について理解する。</li> <li>環境問題について私たちにできることを学ぶ。</li> </ul>	授業内容の復習、課題レポート	4時間
第13回	<b>より豊かな食生活</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分にあった食生活を理解する。</li> <li>食事を楽しむために、料理、盛り付け、雰囲気について学ぶ。</li> <li>食事のマナーを知る。</li> </ul>	授業内容の復習	4時間
第14回	<b>地域の食文化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の風土と食について知る。</li> <li>地産地消、スローフード運動を理解する。</li> <li>郷土料理について学ぶ。</li> </ul>	授業内容の復習	4時間
第15回	<b>総括・自分たちの食生活の見直し・課題発表</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容の総括をする。</li> <li>自分たちの食生活を振り返り、見直す。</li> </ul>	授業内容の復習	4時間

授業科目名	<b>販売論</b>				
担当教員名	松岡依里子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義とグループワークを導入し、店頭販売での実際についてロールプレイングを行います。また、店舗設計の基礎を学び、さらに実際にシミュレーションを試みます。3Dのシミュレーションモデルを使用し、顧				

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

ファッションビジネスにおける販売員は、ファッションコーディネートやファッション感性、マーケティングセンスといった専門性が求められます。そこで、本授業では、販売力を向上させるための基礎的知識や接客マナー、コミュニケーション力を高めるための会話方法、さらにファッション業態別の接客や店舗作りの方法について学ぶことを目的とします。具体的には、マーケティング理論を応用したショップづくりの10の方法を学びます。特に人間の習性や心理行動についての理論と実践を学び、独自の接客、販売方法を身につけます。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	販売のためのマーケティング戦略を学ぶ。	ショップ管理及び接客の基本を身につける。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	ロールプレイングやブランド分析をする。	接客スキルとブランド企画スキルを身につける。
<b>汎用的な力</b>		
1. DP5. 計画・立案力		理論を応用して、実行することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

課題レポート	60%	： レポートの内容及び考察を加味し、5段階評価を行う。
グループワーク	20%	： 本学ルーブリックの基準に基づき評価する。
テスト	20%	： 「主要なキーワードを理解できる」「設問について適切な答えを書いている」などから評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・菅原正博・本山光子共著「ショップマスター」ファッション教育出版社
- ・田村登志子「図解 VMDの基本」織研新聞社
- ・「ファッション販売」(月刊誌)商業界

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限  
場所： 生活デザイン第2研究室  
備考・注意事項： 授業前後、オフィスアワーでの対応する。

### 授業計画

第1回	<b>販売士とファッションビジネス</b> ファッションビジネスと販売士の仕事について知り、何をどのようにに日ごろから学習すればいいのか、実際の店舗リサーチの方法について学ぶ。	自分の買い物行動について考察する。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---	-------------------	-------------------------

第2回	<b>ショップの仕事10項目とは</b>  1ショップイメージづくり、2顧客づくり、3品揃え、4入りやすい売場づくり、5陳列、6演出、7販促、8接客、9在庫管理、10売上管理の10項目の概要を学ぶ	ショップで購入する際、「なぜこのショップに入ったのか」「なぜこの商品を購入したのか」について事例レポートを書く。	4時間
第3回	<b>ショップイメージづくり</b>  ブランドコンセプト（理念）とターゲット感性にマッチしたショップイメージづくりを事例参照しながら学ぶ。自分の好きなブランドを選びブランドコンセプト（理念）とターゲットを分析しショップイメージづくりの感性表現をまとめる	自分の好きなブランドコンセプトをインターネットにより調べておく。	4時間
第4回	<b>ブランド発表</b>  調べたブランドのコンセプトと店舗イメージについて発表する。	発表資料をPPTで修正する。振り返りシートを作成する。	4時間
第5回	<b>サービスデザインと百貨店</b>  百貨店の売り場戦略について学ぶ。その際、ショップの仕事10項目からサービスデザイン評価を行う。	阪急百貨店の売り場観察レポートを作成する。	4時間
第6回	<b>リテール業態の仕組み</b>  リテール業態を比較するにあたり、FSセミナーで調査したアウトレットモールを分析する。小売り業態のしくみとその特徴を理解する。	商業施設の店舗を実際に見て、リテール業態を比較し、レポートを書く。	4時間
第7回	<b>品揃え技術</b>  選定したショップの品揃え特性を分析し図表化する。品揃え構成バランスの基本と季節に合わせた年間の営業展開方法を学ぶ。	振り返りシートを作成する。	4時間
第8回	<b>演出技術：入りやすい売場作り</b>  レイアウトや導線づくりの基本を理解し商品との関係性を学ぶ。また、仕器の正しい使用方法などの基本を理解し品揃え計画に沿った陳列の考え方を学ぶ。	選定したショップの陳列特性を分析しまとめる。	4時間
第9回	<b>接客技術の基本</b>  接客販売の基本を学び、ロールプレイングのためのワークシートを作成する。	ショップに行き、接客を受けた内容についてレポートを書く。	4時間
第10回	<b>接客技術の方法</b>  ロールプレイングを通して、接客の方法を学ぶ。	話題提供やコーディネートについて考えておく。	4時間
第11回	<b>顧客作り</b>  顧客のカルテ分析、次回来店のためのアプローチ方法など、新規顧客開発と固定客づくりの方法を学ぶ。いつも買い物しているショップで会員登録した項目を整理しておく。	ショップで送られてきたDMやメールなどを収集しておく。	4時間
第12回	<b>販促技術</b>  品揃え計画に沿ったイベントやキャンペーンの考え方を学び、WEBサイトやDM・カタログ等の特性を理解する。	多様なオンラインショップの方法について調べておく。	4時間
第13回	<b>売上管理・在庫管理</b>  数字からファッション販売の基本を学ぶ。	基本的なキーワード（客単価、在庫、売上）を確認し、計上処理を復習する。	4時間
第14回	<b>販売企画書の作成</b>  店舗設営から商品企画、在庫、売上管理、店員の配置など店舗運営の企画書を作成し、グループワークによりその課題と対策を討論する。	演習で選定したショップで販売した場合、一人の顧客に販売できる額（客単価）を考えておく。	4時間
第15回	<b>販売士の専門的力量</b>  販売技術のスキルについて、販売士テストを参照に、再確認する。	キーワードについて整理しておく。	4時間



授業科目名	<b>ドローイング演習</b>				
担当教員名	南野晃大				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	毎回の授業内容に応じて板書や配布プリントを使用して解説します。その後、鉛筆で描いたり、様々な画材を使って着色表現を行います。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本科目では、ファッションの専門的な学びとして、ファッションドローイングの表現技術を習得することを目的とします。ファッション表現の第一歩となるデザイン画を描く為に、衣服を身につける人体のプロポーションを理解し、様々なポーズ、顔やヘアスタイルの描き方を学びます。そして、洋服の着装方法や画材を使用しての着色技法を習得します。その後、トレンドとデザインを学び、時代を反映するファッション表現ができるようになることを目標とします。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ファッションの専門的な知識、技能としてファッションドローイングの表現を学ぶことができる。	トレンドとデザインを学び、時代を反映するファッション表現ができるようになる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		ファッションの専門的なドローイング技術、知識を学ぶことで、将来、ファッション業界で活躍するために今の自分に足りないことを学ぶ。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
T-SHIRTSコンテストの提出物	: T-SHIRTSコンテスト提出物の完成度、現代性を評価します 25%
最終提出物	: ウェディングドレスのデザイン画の完成度、現代性を評価します 35%
課題提出	: 複数回、授業内課題の提出の完成度で評価します 40%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

高村是州著 『ファッションデザインテクニック』（グラフィック社）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：授業の前後での質問を歓迎します。

### 授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>デザインとドローイングの概要説明</b> ファッション業界の中でのデザインとドローイングの役割を学ぶ。自由なテーマでスタイル画を描く。	スタイル画の修正をしておく 1時間
第2回	<b>基本プロポーションと着装</b> リアルな女性とデザイン画で描く女性のプロポーションの違いを学ぶ。 ヌードを描く時の重要なポイントになる身体の向きと体重移動を学ぶ。	体の向きと体重移動の関係を復習しておく 1時間
第3回	<b>応用プロポーションと着装</b>	布の動きの描き方を復習しておく 1時間

	体の中心線、重心線、体の向きを理解し、ポーズのバリエーションを学ぶ。 スカート・トップスの着姿を描く。		
第4回	<b>顔。ヘアースタイル・ボディパーツの描き方</b> 正面向きの顔の描き方（目・耳・鼻・口）とヘアースタイル、手、足の表現を学ぶ。	自分の好きな顔を描けるように復習しておく	1時間
第5回	<b>アウトラインの描き方</b> デザイン画の輪郭線となるペン入れを学ぶ。 ペンの種類と用途を説明。	ペンの種類と用途を理解しておく	1時間
第6回	<b>着色表現</b> 画材の種類と用途、着色表現を学ぶ。 目的に応じた選び方と仕上がりの違いを説明。	画材ごとの特徴を理解しておく	1時間
第7回	<b>シルエットとファッションアイテムの理解</b> シルエットの種類、服のフォルム構成を学び、生地動き、ドレープ、フレア、ギャザーなどの表現を学ぶ。	ドレープ、フレア、ギャザーを描けるように復習する	1時間
第8回	<b>テキスタイル表現 1</b> ドット柄・花柄などのプリント柄の表現を学ぶ。	プリント柄ごとにどのような画材が適しているか理解する	1時間
第9回	<b>ファッションイメージの表現</b> いろいろなファッションテイストのイメージを、ポージング、ヘアースタイルや表情、メイクでステップアップさせる表現を学ぶ。 ストライプ柄、チェック柄の説明と描き方。	ポージング時の重心の位置を復習し自然なポーズを理解する	1時間
第10回	<b>テキスタイル表現 2</b> トレンドの素材や、デニム、ツイード、ファー、アニマル柄の表現を学ぶ。	学んだ素材表現を復習しておく	1時間
第11回	<b>デザイン表現 1</b> スカート・パンツ・シャツ・ジャケットなどのアイテム画を学ぶ。	人体に乗った布地の動きを復習する	1時間
第12回	<b>デザイン表現 2</b> Tシャツデザインコンテストのデザイン・イラスト表現	コンテスト課題を仕上げておく	1時間
第13回	<b>オリジナルテーマからのデザイン展開1</b> オリジナルのウェディングドレスのデザインを学ぶ。 シルエット・ディテール・バランスを説明。	テーマに必要なリサーチを行う	1時間
第14回	<b>オリジナルテーマからのデザイン展開2</b> ウェディングドレスの着色方法を学ぶ。 画材の使い方を説明。	ドレスのボリューム感を描けるように復習する	1時間
第15回	<b>まとめ</b> 前回までの技術の総まとめし、デザイン画仕上げの総括をする。	デザイン画を仕上げておく	1時間

授業科目名	<b>パターンメイキングⅠ</b>				
担当教員名	北谷五月				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	授業の内容に応じて板書又は配布プリントで説明のあと実技（パターンメイキング）に入ります。課題に対するパターンメイキングは原則実寸で行い、シルエット確認の為にトワールの組み立てを行います。				

開放科目の指示：「不可」

## 授業概要

衣服の構造を理解し、平面（生地）から立体（洋服）へとイメージを具現化する為のパターンの基礎能力を養う。各種デザインへの発展を目的にデザイン・素材に応じたパターン展開とディテールパターンの作図を学ぶと共に、各アイテムのトワール組み立て（仮縫い）を行い洋服の構成を学ぶ。また、各アイテムの基本的な縫製仕様を理解し、製品用パターン（工業用パターン）の制作とデザインを明確に他者に伝える為の縫製仕様書の作成を行う。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	パターン用語・パターン記号などの専門知識、ダーツ移動などの基礎展開を習得する。	デザインに応じたパターンの制作が出来る。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	各アイテム毎にトワールの組み立てを行いシルエット確認を行う。	履修内容を用いてデザイン上で必要なパターン修正が出来る。
汎用的な力		
1．DP7. 完遂		期日までにデザインスカートのパターン・トワールの制作が出来る。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題1	： 基礎的なパターン展開力・デザインスカートのパターン・トワールの完成度で評価する。
40%	
授業内課題2	： シャツのパターン・トワールの完成度、衿や袖などの構成の理解度で評価する。
40%	
授業への取り組み	： 積極的参加・受講態度
20%	

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

授業時に紹介する

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時間続きの授業を全15回（合計30時間）実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。自身のワードローブで衣服の構成や縫製を研究しておくこと。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業後30分程度 時間外学習時間を利用。

## 授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<b>パターンメイキング基礎知識・スカート原型</b> パターンメイキングとは？ パターンメイキング基礎（各部名称・採寸方法・定規の使い方説明） スカート原型作成・セミタイトスカートパターン展開	セミタイトスカートパターン展開復習 2時間
第2回	<b>セミタイトスカートトワール組み立て・シルエット確認</b> シーチングの地直し・パターンの写しとり・裁断・トワール組み立て・シルエット確認	トワール完成 2時間
第3回	<b>スカートバリエーション（1/2原型使用）</b>	各シルエットパターン展開復習 2時間

	Aラインスカートパターン フレアスカートパターン ギャザースカートパターン		
第4回	<b>スカートバリエーション (1/2原型使用)</b>  ヨーク切り替えスカートパターン プリーツスカートパターン マーメイドスカートパターン 仕様書説明	各シルエットパターン展開復習・仕様書作成、デザインスカート作成に向けて資料を集めておく	2時間
第5回	<b>デザインスカート</b> 習得した技法を応用し、デザインスカートパターン作成	デザインスカート パターン完成	2時間
第6回	<b>デザインスカート</b> デザインスカート トワール組み立て・シルエット確認	デザインスカート トワール完成	2時間
第7回	<b>ダーツ移動</b> ダーツ移動・分散の演習 (1/2)	ノート整理	2時間
第8回	<b>ブラウスパターン</b> Aラインブラウスパターン (身頃・フラットカラー・パフスリーブ)	ノート整理	2時間
第9回	<b>ブラウスパターン トワール組み立て</b> Aラインブラウス トワール組み立て (シーチングの裁断・組み立て・シルエット確認)	トワールを完成させる	2時間
第10回	<b>ベーシックシャツ パターン</b> サイドダーツシャツ (身頃・シャツカラー・袖・短冊・カフス)	ノート整理	2時間
第11回	<b>ベーシックシャツ トワール組み立て</b> シャツトワール組み立て・シルエット確認	トワールを完成させる	2時間
第12回	<b>衿バリエーション・袖バリエーション</b> スタンドカラー・台衿付きシャツカラー フレアスリーブ・ラグランスリーブ	ノート整理	2時間
第13回	<b>パンツ原型</b> パンツ原型作成 (実寸)	ノート整理	2時間
第14回	<b>パンツバリエーション</b> ブーツカット・ワイドパンツ・タックパンツ・キュロットパンツ (1/4原型使用)	ノート整理	2時間
第15回	<b>パンツディティールパターン</b> 本股明き・切りポケットディティールパターン・組み立て	トワールを完成させる	2時間

授業科目名	<b>パターンメイキングⅡ</b>				
担当教員名	北谷五月				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	授業の内容に応じて板書又は配布プリントで説明のあと実技（パターンメイキング）に入ります。課題に対するパターンメイキングは原則実寸で行い、シルエット確認の為にトワールの組み立てを行います。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

衣服の構造を理解し、イメージを具現化する為のパターンの基礎能力を養う。各種デザインへの発展を目的に、デザイン・素材に応じたパターン展開とディティールパターンの作図を学ぶと共に、各アイテム毎にトワールの組み立てを行い、衣服の構成や縫製について理解を深める。各アイテムの基本的な縫製仕様を理解し、工業用パターン・仕様書の作成を行う。後期授業では、前期で学んだ基礎展開を応用しワンピース・ジャケット・コート等の重衣料のパターン・縫製仕様を習得。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ワンピース・ジャケット等の素材・縫製に付いての知識を深める。	素材に応じたパターン展開が出来る
<b>汎用的な力</b>		
1. DP7. 完遂		決められた時間内にジャケットの工業用パターンの制作が出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業内課題1

#### 評価の基準

: ワンピースのパターン・トワールの完成度で評価する

40%

授業内課題2

: テーラードカラー・袖の構造の理解度、パターン・トワールの完成度で評価する。

40%

授業への取り組み

: 積極的参加・受講態度

20%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業時に紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時間限りの授業を全15回（合計30時間）実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。自身のワードローブで衣服の構成や縫製を研究しておくこと。パターンからトワール完成まで数回に分けて授業が進みます。休まないように出席する事が大切です。やむを得ず休んだ場合は時明き授業までに授業内容の確認をしておくこと。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：授業後30分程度 時間外学習時間を利用。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>前期の復習</b> スカート・ブラウスのパターン展開の復習 ダーツ移動・ダーツ分散の復習	ノート整理 2時間
第2回	<b>ワンピース1</b> Aラインワンピースパターン (ノーカラー・フレンチスリーブパターン)	パターン展開復習 2時間
第3回	<b>ワンピース2</b> プリンセスライン切り替えワンピースパターン (パネル切替・スタンドカラー・チューリップスリーブ)	パターン完成 2時間

第4回	<b>ワンピース2</b> プリンセスライン切り替えワンピーストワール組み立て・シルエット確認	トワール完成	2時間
第5回	<b>ジャケット</b> テーラードジャケット 身頃ダーツ移動・テーラードカラー	テーラードカラーパターン復習	2時間
第6回	<b>ジャケット</b> テーラードジャケット 衿・見返し厚みだし・ポケット	厚みだし復習・ポケットパターン作成	2時間
第7回	<b>ジャケット</b> テーラードジャケット 2枚袖パターン・袖山いせ込み分量説明・袖口明きみせ始末	袖パターン復習・パターン記号復習	2時間
第8回	<b>ジャケット</b> テーラードジャケット マスターパターン作成	マスターパターン完成	2時間
第9回	<b>ジャケット</b> テーラードジャケット シーチング裁断・トワール組み立て	トワール組み立て	2時間
第10回	<b>テーラードジャケット</b> テーラードジャケット トワール組み立て	ノート整理	2時間
第11回	<b>グレーディング</b> 9号サイズパターンから11号サイズパターン作成	ノート整理・ワンピースデザイン出し	2時間
第12回	<b>デザインワンピース</b> ワンピースパターン展開	パターン完成	2時間
第13回	<b>デザインワンピース</b> パターン展開・トワール組み立て	トワール組み立て	2時間
第14回	<b>デザインワンピース</b> トワール組み立て・シルエット確認	トワール完成・発表準備	2時間
第15回	<b>デザインワンピース</b>  トワール発表会 各自のデザインに応じたパターン展開を説明・発表	他学生の作品のパターン展開やトワールを見て今後の制作の参考になるようにノートをまとめる	2時間

授業科目名	<b>フェースメイク演習</b>				
担当教員名	福西由美子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	基本的には、授業の最初の3分の1程度をテーマについて講義と技術解説のデモンストレーション、残りをテーマに基づく演習の時間とします。演習は、自身のセルフメイクが中心で課題によっては、グループで				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本科目では、ファッション表現の専門的な学びの一環として、ファッションスタイルをトータルで表現する為のメイクアップの基礎技術を習得することを目的とします。  
 まず、メイクのベースとなる皮膚の構造を理解し、スキンケアの重要性を学び、化粧品目的、役割等の技術を裏付ける基礎的理論を学びます。  
 その後、ファッションイメージを表現するメイクアップ方法を、カラー・デザイン・テクスチャーの面から表現できるようになるのが、本科目の目標です。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

メイクアップの専門的知識と技術を学ぶ。  
  
 ファッションのテイスト、シーンを理解しファッションとメイクのトータルコーディネートを作成させる為の表現力を身につける。

#### 目標：

皮膚の構造を理解した上でのスキンケア、メイクアップの理論と技術を理解し実践することができる。  
 ファッションテイスト、目的に応じたメイクアップバリエーションの表現ができる。

#### 汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

学んだことを、自らの日々のコーディネートや、学内のファッションショー等で実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

#### 評価の基準

： 各回授業内の実習、ワークシート、最終課題のメイクとファッションコーディネート作品と発表で評価する。

60%

受講状況

： 各回授業への積極的参加（実践と質問等）や授業態度（受講マナーや私語、スマートフォン等の授業妨げになる場合は減点）を基に総合的に評価する。

20%

授業内小レポート

： 授業内容をふまえた記述（10点）と図解で示しているか（10点）で評価する。

20%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

美容皮膚科学辞典（中央書院）  
 顔分析鎌田塾（講談社）

### 履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。本科目は、理論に基づく演習が重要であるため、聴講のみの受講は認めません。（当日の肌トラブルの場合は例外）

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後  
 場所： 授業の教室

### 授業計画

第1回

授業概要説明

配布資料を通読し、自身の使用備品を確認する。

授業外学修課題にかかる目安の時間

1時間

	・授業内容の説明、メイク演習で使用する道具等の解説をし、メイクアップの歴史を学ぶ。		
第2回	<b>皮膚学</b> 化粧の技術を習得するうえで、肌、皮膚の構造、表皮の役割、ターンオーバーの仕組みを理解し、肌トラブルのメカニズム、紫外線に対する知識を学ぶ。	資料を通読し、レポートをまとめる。	1時間
第3回	<b>化粧品学</b> ・スキンケアの役割、スキンケア化粧品の選び方、薬事法 表示数値の読み方を理解し、肌の状況に合わせた適切なスキンケアを身につける。	資料を通読し、レポートをまとめる。	1時間
第4回	<b>スキンケアの方法とベースメイク</b> 自分にあったスキンケア方法や、ベースメイクの基本テクニックを身につける。	学んだ技術を、日々実践する。	1時間
第5回	<b>アイブロー・メイク</b> 基本のアイブローバランスを理解し、描き方・道具の使い方・テクニックを学ぶ。	ワークシートを使用して描き方をマスターする。	1時間
第6回	<b>アイメイク・チーク・リップメイク</b> ・基本のアイメイク・チーク・リップのメイクアップの方法、道具の使い方、テクニックを学ぶ。	雑誌等でメイクの配色をリサーチする。	1時間
第7回	<b>トータルメイク</b> ・第6回までに学んだ基本テクニックを使って、スキンケアからフルメイクを行う。	今回のテストマップ用の資料を収集する。	1時間
第8回	<b>ファッション・イメージ&amp;テスト別メイクアップカラーの配色 Ⅰ マップ作成</b> ファッションのイメージやテストの分類と把握し、テストを表現するマップを作成する。	今回のメイクアップ画像資料の収集をする。	1時間
第9回	<b>ファッション・イメージ&amp;テスト別メイクアップカラーの配色 Ⅱ メイクアップ表現</b> 前回のマッピングをもとにそれぞれのイメージ、テストに合ったメイクアップのカラーでデッサンを作成する。	今回のマップ、デッサンをもとに備品の準備をする。	1時間
第10回	<b>ファッション・イメージ&amp;テスト別メイクアップカラーの配色表現</b> デッサンに基づいて、自分の顔でメイクアップを行う。	ビジネスシーンのファッションをリサーチする。	1時間
第11回	<b>メイクとファッション・コーディネート演習 1. オフィシャル・ビジネスシーン</b> ファッションのシーン別で求められるメイクの解説、就職活動用のメイクアップ表現を行う。	フォーマルドレスのファッションをリサーチする。	1時間
第12回	<b>メイクとファッション・コーディネート演習 2. フォーマルシーン</b> ファッションのシーン別で求められるメイクの解説、華やかさを意識したメイクテクニックとコスメの応用を学び、メイクアップ表現を行う。	コレクション情報の画像の収集をする。コレクション情報の画像の収集をする。	1時間
第13回	<b>ステージメイク</b> ファッションショーにおけるメイク表現の解説、テクニックのデモンストレーションを学び、相モデルでのリラクゼーションの為のハンドマッサージのテクニックを行う。	最終課題にむけてのコーディネート資料の収集をする。	1時間
第14回	<b>トータルコーディネート 課題作品の練習</b> 各自の設定テーマによるトータルコーディネートを考案し、最終課題の企画書作成する。	企画書を完成させる。ポージングの情報収集をする。	1時間
第15回	<b>トータルコーディネート 課題作品の発表とコメント</b> メイクとファッションコーディネートの課題作品とプレゼンテーションを行う。	他者のコーディネートを画像として保存、研究する。	1時間



授業科目名	ファッションアイテム演習				
担当教員名	林 塔子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	最初に実習のねらいや作品作りの技術説明をし、制作実習をします。学生自身のアイデアを大事にしなが ら、具体的に、素材扱いやデザイン・技法等について助言します。時間が短い中で集中して最後まで根気よ 開放科目の指示：「可」				

### 授業概要

現代の生活の中には様々なデザイン、ファッションがあふれています。この授業ではファッションコーディネートに欠かせないアクセサ  
リーや小物を実際にデザイン・制作をする事を通して、自己の「美」に対する意識を育て、素材に対する興味や発想力を深めます。ニードル  
フェルト・織等の技術を習得する事を通して、自分なりの工夫や考える力、最後まで取り組む忍耐力、そして身の回りにある物がどのよう  
に作られているのかという事に改めて気づく新しい視点が生まれます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発 揮する力	フェルト・織の技術を理解し、技術を生か すデザインを考えることができる。	身の回りにあるもののデザイン・技術・素 材に対するの興味が生まれる。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		習得した技術を工夫しながら次の制作に生か すことができる。
2 . DP7. 完遂		最後まで各課題を根気よく丁寧に仕上げるこ とができる。仕上げの大切さを認識する。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ  
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

#### 評価の基準

： ニードルフェルト（基礎）10点・（応用）20点・枠織20点・平織りマフラー30点の計70点で評価す  
る。

70%

受講状況

： 各授業への積極的参加（作業への取り組み意欲や工夫などは加点）・受講態度（受講マナーや私  
語など、授業を妨げる行為は減点）を総合的に評価する。

30%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

授業内容説明の補足として、サンプル、プリントなどを提示します。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
予習として次週の作業がスムーズに進むようプリントの当該箇所を読み、準備すること。  
授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後  
場所： 教室又は研究室  
備考・注意事項： 質問には授業の前後にも答えます。

### 授業計画

回数	内容	授業外学修課題にか かる目安の時間
第1回	<b>全体の説明と練習課題（フェルトボール）</b> 授業の全体を通しての説明。  次にニードルフェルトの技法説明。練習としてフェルトボ ールの制作。 次の課題のニードルフェルト（基礎）・イニシャルストラッ プのデザインを考える。	1時間
第2回	<b>ニードルフェルト（基礎）</b> ニードルフェルトの技法の基礎としてイニシャルストラップを制 作。 技法説明を理解し、デザイン計画をたて制作。	1時間

第3回	<b>ニードルフェルト（応用）</b> ニードルフェルトの技法によるペンダント、またはブローチの制作。 基礎課題を踏まえ、アクセサリーのデザイン計画をたて制作。	次週のアクセサリーのデザイン・仕上げについて考え、準備する。	1時間
第4回	<b>ニードルフェルト（応用）</b> ニードルフェルトの技法によるペンダント、またはブローチの制作。 仕上げ	枠織のデザインを考える。	1時間
第5回	<b>枠織（プレスレット）の準備・制作</b> 枠織の技法によるプレスレットの制作。 技法・道具の使い方の説明を理解し、経糸の色を決める。 経糸を枠に張る。	枠織のデザインを考える。	1時間
第6回	<b>枠織（プレスレット）制作</b> 枠織の技法によるプレスレットの制作。 デザインを考えながら、糸の色を選び織る。	枠織の仕上げを考える。	1時間
第7回	<b>枠織（プレスレット）制作・仕上げ</b> 枠織の技法によるプレスレットの制作。 枠織プレスレットの制作・仕上げ。 次週からの平織りマフラーのデザイン・技法・経糸の計算の簡単な説明。	平織の説明を理解できるようプリントの復習する。それを踏まえて次週のマフラーの構想を考える。	1時間
第8回	<b>平織り（マフラー）のデザイン計画・糸計算</b> 平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用） マフラーのデザイン・技法・経糸の計算の説明。デザイン計画をする。 （次週までに糸を購入し、準備する。）	糸計算のプリントを復習、理解する。糸をデザイン・計算通りに購入する。	1時間
第9回	<b>平織り（マフラー）の織機説明・経糸準備</b> 平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用） 織機の説明、及びマフラーの経糸整経デザイン通りに経糸を作る。	平織の技法の予習（次週のプリントを読み理解する）・準備。	1時間
第10回	<b>平織り（マフラー制作）の経糸準備</b> 平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用） マフラーの経糸整経・経糸張り 織機に経糸を通す。	平織の技法の予習（次週のプリントを読み理解する）・準備。	1時間
第11回	<b>平織り（マフラー）経糸張り・糸巻き</b> 平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用） マフラーの経糸張り・糸巻き 経糸を織機に巻きとり、織れる状態にする。	平織技法の予習（次週のプリントを読み理解する）・準備。	1時間
第12回	<b>平織り（マフラー）制作</b> 平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用） 卓上織機の織り方を理解する。 デザイン計画通りに、緯糸を織る。	平織技法の予習（次週のプリントを読み理解する）・準備。	1時間
第13回	<b>平織り（マフラー）制作</b> 平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用） デザイン計画通りに緯糸を織る。	平織技法の予習（次週のプリントを読み理解する）・準備。	1時間
第14回	<b>平織り（マフラー）制作・仕上げ</b> 平織りの技法によるマフラーの制作。（卓上織機を使用） マフラーを卓上織機で織りあげ、織機から外す。 仕上げ（房をつくる）	平織技法の予習（次週のプリントを読み理解する）・準備。	1時間
第15回	<b>平織（マフラー）仕上げ及び総評</b> マフラーの仕上げ。（房を作る） 作品の総合合評	自分の服に合わせて身に着けてみる。	1時間

授業科目名	<b>テキスタイル基礎実験</b>				
担当教員名	澤田和也・山下義裕				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	第1回目の授業では、授業内容と実験方法についての諸注意と説明を行う。第2回目以降は全体を2グループに分け、一方のグループは前半（第2回から第8回）に「材料関連実験」、後半（第9回から第15回）に「被開放科目の指示：「不可」				

### 授業概要

被服材料学と被服整理学に関する分野の基礎的な実験を行い、繊維や被服材料の特性、消費性能について深く考える能力を養うとともに、被服の適切な取り扱いについて理解を深めるようにすることを目的とする。いずれの分野においても「日常生活と繊維」をキーワードに繊維の特性、消費性能に関わる種々の実験を通してその現象を体験する。また、実験に対する報告書の作成方法について基礎から習得し、論理的に実験現象を理解できる素養を身に付ける。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	実験科学的に繊維を評価する手段の基礎を学び、実験操作の基礎を身に付けることができる	衣料管理士課程への基礎実験として、被服整理学関連および材料学関連の基礎実験スキルを身につける。
汎用的な力		実験に失敗した場合の原因究明や対応策をグループで協力して考える力を身に付けることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・課題解決学習（PBL）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

実験への取り組み状況	評価の基準
50%	： 実験に対する姿勢や意欲を重視するため、積極的に作業に参加しているか、主体的な行動ができているか、実験に集中して正しい操作を行っているかの点について評価する。
50%	： レポートごとに、実験内容や操作法の習得度と科学的な観察や考察ができているかを評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

テーマに応じて適宜紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）澤田、山下  
 場所： 生活デザイン第1研究室  
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

### 授業計画

回	内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>全体説明</b> テキスタイル基礎実験の整理分野、材料分野それぞれの内容について概説し、今後の実験実施方法について説明する。	前期の被服整理学における洗浄領域、アパレル繊維学の素材の種類について理解しておく 1時間
第2回	<b>（材料分野）説明、繊維の水分率</b> 実験を行う上での注意点と、試料の採取方法、レポートの作成方法について説明する。また、各種繊維の乾燥前後の質量から水分率を求める。	繊維の種類によって繊維の水分率が異なることを繊維の分子構造から考える。 1時間

第3回	<p><b>(材料分野) 繊維の形態観察、燃焼性</b></p> <p>繊維の鑑別の基礎となる2つの手法を学ぶ。まず、顕微鏡により各種繊維の断面と側面の形態観察を行う。その後、種々の繊維を燃焼させ、その燃え方、煙や灰の状態などを観察する。</p>	<p>繊維の断面形状が繊維の光沢、繊維の手触り、繊維の染色性と関連していることを調べる。</p>	1時間
第4回	<p><b>(材料分野) 糸の太さ、より</b></p> <p>糸の構造特性を調べる手法を学ぶ。測定した糸の長さや質量から、糸の太さ(番手)を求める。また、糸のより方向を判定し、検撚器でより数を測定する。</p>	<p>身の回りのミシン糸、裁縫糸など市販されている糸について表記されている番手と糸のより方向を調べる。</p>	1時間
第5回	<p><b>(材料分野) 織物の構造①</b></p> <p>織物の構造特性を調べる手法を学ぶ。織物の厚さ、質量(目付)を測定し、含気率を計算する。また、織物の表面を観察し、その組織図を作成する。</p>	<p>織物の織構造の種類とその特徴について学習する。</p>	1時間
第6回	<p><b>(材料分野) 織物の構造②</b></p> <p>織物の構造特性を調べる手法を学ぶ。糸密度、織り縮み率、織り糸太さの測定を行う。</p>	<p>織物のたて糸とよこ糸では異なる糸が用いられる場合が多い。織物を作る人は織構造、糸密度などをどのように設計しているのかを調べる。</p>	1時間
第7回	<p><b>(材料分野) 防しわ性、剛軟性</b></p> <p>モンサント法により織物のたて方向およびよこ方向の防しわ度を測定する。また、45度カンチレバー法およびハートループ法による剛軟度測定も行う。</p>	<p>織物のしわの原因が何に起因しているのかを調べる。</p>	1時間
第8回	<p><b>(材料分野) 寸法安定性、まとめ</b></p> <p>織物を水に浸漬し、その前後のたて方向およびよこ方向の長さから寸法変化率を求める。これまでの実験やレポートの総括を行う。</p>	<p>洗濯などで織物が縮むことが多い、原因を繊維の観点からと織構造の観点の両方から考えてみる。</p>	1時間
第9回	<p><b>(整理分野) 石けんおよび人工汚染布</b></p> <p>JIS規格に従い、モデル人工汚染布を作成する。またそれを洗浄するための石けんの作成を行う。</p>	<p>モデル汚れの基本成分や、石鹸の構造を理解できるようになる。</p>	1時間
第10回	<p><b>(整理分野) 草木染による染色</b></p> <p>種々の草木を用いて、媒染剤との組み合わせで色相変化を確認する。</p>	<p>媒染剤の役割について理解する。</p>	1時間
第11回	<p><b>(整理分野) 綿布の漂白、綿布の蛍光増白</b></p> <p>綿布に対し、複数の漂白剤により漂白と蛍光増白操作を行い、目視と表面反射率測定によりその効果を確認する。</p>	<p>目視と表面反射率による白さの違いを理解できるようになる。</p>	1時間
第12回	<p><b>(整理分野) 人工汚染布の洗浄試験</b></p> <p>モデル人工汚染布(自作および市販)を洗浄剤(自作石鹸および市販合成洗剤)で洗浄し、洗浄効果を確認する。</p>	<p>洗浄による白度の向上を異なる洗浄剤により評価し、その違いの意味を理解する</p>	1時間
第13回	<p><b>(整理分野) ドライクリーニング溶液の特性</b></p> <p>ドライクリーニングのしくみと洗浄性を確かめる。</p>	<p>水系洗浄と非水系洗浄の相違を理解する</p>	1時間
第14回	<p><b>(整理分野) 糸の合成(レーヨン・ナイロン)と染色の基礎</b></p> <p>6, 10ナイロンおよび銅アンモニアレーヨンの糸を作成し、制作した糸の染色を試みる。</p>	<p>界面重合反応の概要を理解できるようになる。再生繊維の基本的作成法を理解できるようになる</p>	1時間
第15回	<p><b>(整理分野) オパール加工と繊維の違いによる染色性の差</b></p> <p>綿・ポリエステル混紡繊維に対して、綿の選択的除去を行い、染色性の差を確認する。</p>	<p>混紡と交織の違い、繊維と染料の相性を知る</p>	1時間

授業科目名	<b>色彩学</b>				
担当教員名	山下義裕				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義形式で行うが、写真や配色例などをスライド上やサンプルで多数紹介することにより、視覚を通して色彩感覚を養う。また、表色系（PCCS）、色の視覚効果や配色理論への理解を深めるために、配色カードを使				

### 授業概要

普段、何気なく目にしている風景や物体から受ける印象は、その色彩が変われば大きく変化することもあり、色は日常生活の様々な場所で非常に重要な役割を担っている。この授業では、将来ファッションの世界や日常生活のあらゆる場面で活用することのできる色彩の基礎的な知識と感覚を身につけることを目的とする。なぜ色が見えるのか？に始まり、色の表示法、色の心理的効果や視覚効果、配色理論に基づいた様々な配色、ファッションやインテリア分野での色の役割と活用事例について学ぶ。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	色彩がアパレルのファッションや生活のデザインとどのように関わっているかを学ぶ	色彩検定2級もしくは3級色が与える印象や効果について理解し、適切に活用することができる
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	衣料管理士2級を習得するために必要な色彩の知識を理解する	衣料管理士2級資格衣服のデザインやコーディネートをする際に、色彩知識に基づいた配色・コーディネートができる
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		色彩がファッションに与える課題を見つけることができる
2．DP5. 計画・立案力		アパレル制作やインテリアにおける配色を立案できる
3．DP6. 行動・実践		流行色を調査するために行動できる
4．DP7. 完遂		アパレルファッションに及ぼす色彩の役割を理解して、自分の学びや将来の仕事にかせるスキルを身につける
5．DP10. 忠恕の心		自分の良心に忠実であることと、他人に対する思いやりが深いことの忠恕の心の中で、色彩が人の心をなごませる力があること学ぶ

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。10回以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準
演習課題	： 授業外学習において、授業の内容を理解して、与えられた課題に対して適切な答えが得られているかどうかを評価する 色彩検定を取得するための学習も評価する
40%	
小テスト	： 授業の5回目と10回目に小テストを行い、授業がどの程度理解できているかを評価する
20%	
定期テスト	： 衣料管理士2級と色彩検定2、3級に必要な色彩の配色を考えることができているか、色相環・トーン図の配置や意味を理解できているかどうかを評価する
40%	

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
長谷井 康子	わかる!色彩検定2・3級問題集 A・F・T最新テキスト対応	新星出版社	2009年

### 参考文献等

A・F・T色彩検定公式テキスト3級編 出版社：A・F・T企画；5版（2010/1/31）  
 A・F・T色彩検定公式テキスト2級編 出版社：A・F・T企画；2版（2010/3/31）  
 日本色研事業『新配色カード199a』

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

配色演習などの課題では『新配色カード199a』を使用します。各自購買部で購入してください。  
 はさみ・のりを使用することがあります。必要な時は事前に連絡しますので、持参してください。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日以外の9時から17時  
 場所： 本館南4階生活デザイン第一研究室  
 備考・注意事項： 質問がある場合は、生活デザイン第一研究室まで。在室中はいつでも可。  
 その他、メールでの連絡はsed@osaka-seikei.ac.jpまで。件名には「色彩学・氏名・学籍番号」を記入すること。

授業計画		授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	<b>色のはたらき</b>  はじめに授業の進め方と色彩学の授業で学ぶ内容について概説する。 次に衣料管理士2級および色彩検定2級、3級に必要な能力について説明する。 そして身の回りの色がどのように役立っているのかについて学ぶ。	自分たちが使っている身の回りの色をアパレルとそれ以外に分けて、色の使われ方、配色が同じなのか異なるかを調べる。  4時間
第2回	<b>色はなぜ見えるのか？</b>  色を見るために必要な三要素について説明し、光の性質や現象、眼の構造について学ぶ。	人間の目に見える色と見えない色について調べる。  4時間
第3回	<b>混色とは？</b>  2色以上の色を混ぜ合わせて別の色を作り出すことを混色といい、その種類（加法混色と減法混色）について学ぶ。また、混色を利用した身近な事例を紹介する。	絵の具で色を混ぜるとライトで色を混ぜる違いを絵の具とスマホの液晶モニターで調べる。  4時間
第4回	<b>色の分類と三属性</b>  色の表示の基本知識として、色の分類（無彩色と有彩色）と色の三属性（色相、明度、彩度）について学ぶ。さらに、色相環、等色相面および色立体がどのようなものなのかについて解説する。	人間の目がどのように色を感じとるのかを調べる。  4時間
第5回	<b>色の表示（PCCS）</b>  色を表すため、表色系と呼ばれるルールがある。ここでは表色系の1つであるPCCSについて学び、PCCSに基づいた色相、明度、彩度の表し方について解説する。	PCCSの利点をマンセル表色系と比較して調べる。  4時間
第6回	<b>トーン概念</b>  PCCSのトーン概念図に基づき、明度・彩度との関係や各トーンが持つイメージについて学ぶ。	PCCSとマンセル表色系の明度、彩度の表し方の違いを調べる。  4時間
第7回	<b>色の心理的効果</b>  色によって受ける印象は変わってくる。ここでは、暖かい色と寒い色、軽い色と重い色、軟らかいと硬い色など、どのような色がどのような心理的効果を与えるかについて学ぶ。	色の心理効果を実際に体験して確認する。  4時間
第8回	<b>色の視覚効果</b>  色の対比効果や同化効果、錯視効果について演習を交えて学び、その効果を体感する。	色が作る錯覚について実際に体験して確認する。  4時間
第9回	<b>配色効果①</b>  様々な配色の効果について学ぶ。今回は色相を手掛かりにした配色理論について解説し、配色演習を行ってその効果を確認する。	今年の春夏の流行と配色について調査する。  4時間
第10回	<b>配色効果②</b>  様々な配色の効果について学ぶ。今回はトーンを手掛かりにした配色理論について解説し、配色演習を行ってその効果を確認する。	今年の流行色が実際のファッションの流行として定着しているかどうかを調べる。  4時間
第11回	<b>ファッションと色彩</b>  ファッションの世界で色がどのように活用されているかについて解説するとともに、ファッションコーディネートの事例を紹介する。	グループで市場調査を行い、そのコーディネートを色彩の観点から調べる。  4時間
第12回	<b>インテリアと色彩</b>  インテリアの分野で色がどのように活用されているかについて解説するとともに、インテリアの配色事例を紹介する。	公共の場所で配色を工夫している事例を調べる。  4時間
第13回	<b>色相環とトーン図</b>  色相環やトーン図を参照し、これまでに学んだ配色などに関する問題を解く。その後、解答の発表と解説を行う。	具体的な色彩学の問題課題に取り組む。  4時間
第14回	<b>配色演習</b>  他の人のコーディネートのの中から、これまでに学んだ様々な配色を見つけ、配色カードを用いてその配色を再現する演習を行う。	自分の好む配色のコーディネートと雑誌などに紹介されているコーディネートを比較して、違い点の理由を調べる。  4時間

第15回

**課題の修正、授業のまとめ**

これまでの課題で特に間違いが多かった部分について詳細な解説を行うとともに、色彩学の授業の中で特に重要な部分について再度説明する。

色彩学で学んだ知識をもとにファッションのコーディネートができる能力が身についているかどうか確認する。

4時間

授業科目名	<b>衣環境学</b>				
担当教員名	竹本由美子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義形式により、教科書を中心に授業を進める。必要によって実物の紹介やプリント・資料の配布を行う。筆記試験として小テストと定期試験を実施し、専門知識の理解と共に自分の考えを文章にまとめる力を確認す				

開放科目の指示：「可」

## 授業概要

衣服は、着用目的や時期、部位などによって求められる機能が異なり、さらに、年齢や性別が違えば、サイズや形態だけでなく生理機能や運動機能、心理特性も異なってくる。よって、快適で健康的な衣服の設計には、着用する人の身体条件と取り巻く環境条件の相互関係を捉える必要がある。この授業では、人間の生理・心理・健康を基盤に、我々の生活環境と衣服との関係を理解し、着衣が人体に及ぼす影響と求められる衣服の機能や適した素材、デザインへの配慮を考慮し、快適で健康な衣環境を形成できる能力を身につける。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	「アパレル生理・衛生学」分野の専門知識	人間の生理に基づいた衣服のあり方を理解し、快適で健康的な衣生活を実現できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	衣料管理士として従事する職務に必要な能力の修得	人体とアパレル設計の関係を正しく理解し、製品の適否を判断する力と消費者に適正なアドバイスができる応用力を修得する。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		快適で健康的な衣生活を実現するために、環境条件に適した衣服を選択できる。
2．DP8. 意思疎通		人間—衣服—環境の関係性を正しく理解し、衣服の適否とその理由を他者へ伝えることができる。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
  - ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
  - ・ その他(以下に概要を記述)
- 授業内容にそって記入しながら、プリントを配布する。

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とする。  
講義を開始後は遅刻とみなし、3回の遅刻で1回の欠席とする。

### 成績評価の方法・評価の割合

演習問題に関するレポート

### 評価の基準

： テキストの各節の終わりに挿入されている演習問題の中から指定した問題をレポート課題として、0～8点で評価する。(8点満点×計10回)

80%

受講状況

： 私語、スマホ等の授業の妨げになる行為や、居眠りは指導をおこなうと共に減点対象とし、授業への受講マナー及び積極的参加度として評価をおこなう。

20%

## 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本衣料管理協会編	・ アパレル生理・衛生論	・ 日本衣料管理協会	・ 2016年

## 参考文献等

田村照子 編著、小柴朋子・平田耕造 共著「衣環境の科学」建帛社  
日本家政学会被服衛生学部会 編「アパレルと健康」—基礎から進化する衣服まで— 井上書院

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問は授業の前後に応じる。

## 授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間



第1回	<b>ガイダンス —衣環境をなぜ学ぶのか—</b>  授業の進行や概要、衣環境学を学ぶ意義について説明する。	衣環境学を学ぶ意義をふまえて、現在の自分の衣環境について確認する。次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P1~9)	4時間
第2回	<b>アパレルと健康</b>  衣服の機能と、人間—衣服—環境の関係を理解し、健康で快適な衣環境について学ぶ。	復習としてテキストの演習問題を解く。(P9) 次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P11~22)	4時間
第3回	<b>アパレルによる気候適応 I. 体温とその調節①</b>  健康の条件として体温、皮膚温の定義や違い、測定方法、体温調節と寒暑感の関係について学ぶ。	様々な環境条件を想定して体温調節と熱移動について考察する。次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P22~31)	4時間
第4回	<b>アパレルによる気候適応 I. 体温とその調節②</b>  自律性体温調節の反応(皮膚血管反応や発汗反応)について、行動性体温調節反応との違い、体温調節と環境温熱の因子との関連について学ぶ。	復習としてテキストの演習問題を解く(P31)。次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P32~44)	4時間
第5回	<b>アパレルによる気候適応 II. 衣服による気候調節</b>  快適な衣服気候とはどのような状態か、衣服を通して熱や水がどのようにして移動するのか、衣服の形態や着装と衣服内気候との関連について学ぶ。	復習としてテキストの演習問題を解く。(P44) 次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P45~55)	4時間
第6回	<b>アパレルによる気候適応 III. アパレル製品の保温性・放熱性</b>  衣服の保温力と蒸発熱抵抗の単位や測定法と、着衣の快適気候域について学ぶ。	復習としてテキストの演習問題を解く。(P55) 次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P56~72)	4時間
第7回	<b>アパレルによる気候適応 IV. 気候適応障害の予防と対策</b>  熱中症や低体温症、冷え症の予防と対策について学ぶ。	復習としてテキストの演習問題を解く。(P72)	4時間
第8回	<b>前半のまとめと確認テスト</b>  前半の授業内容の理解度を確認するため中間テストを実施する。	確認テストの結果、理解が不十分であった内容を復習して理解に努め、次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P73~82)	4時間
第9回	<b>アパレルの拘束性と運動機能性 I. 身体拘束の指標と衣服圧</b>  衣服圧の発生要因と測定方法や、布地の伸長特性及び身体曲率との関係について学ぶ。	復習としてテキストの演習問題を解く。(P82) 次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P83~93)	4時間
第10回	<b>アパレルの拘束性と運動機能性 II. 動作に伴う身体の変形とアパレルの運動機能性</b>  動作時の身体の変形とそれに伴う着衣の変形や求められる運動機能性について学ぶ。	復習としてテキストの演習問題を解く。(P93) 次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P94~115)	4時間
第11回	<b>アパレルの拘束性と運動機能性 III. 衣服圧の人体障害とアパレルにおける有効利用</b>  衣服圧及び履物による足部や寝具からの圧迫が人体へ及ぼす影響と、衣服圧の有効利用について学ぶ。	復習としてテキストの演習問題を解く。(P115) 次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P117~136)	4時間
第12回	<b>アパレルと皮膚の生理・衛生 I. 皮膚の構造と下着・寝衣の役割</b>  皮膚の構造と役割を理解し、皮膚に接触する下着や寝衣に必要な条件、汚れによる機能性劣化や臭いの予防する加工法について学ぶ。	復習としてテキストの演習問題を解く。(P126、136) 次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P137~156)	4時間
第13回	<b>アパレルと健康をめぐる現代的課題 I. アパレルによる障害と対策</b>  衣服そのものによる危害と衣服による健康被害の回避対策について学ぶ。	復習としてテキストの演習問題を解く。(P147、156) 次回に該当するテキスト部分を通読しておくこと。(P157~166)	4時間
第14回	<b>アパレルと健康をめぐる現代的課題 II. 高齢社会におけるアパレル</b>  成人と身体機能や形態が異なる高齢者に適した衣環境について学ぶ。	復習としてテキストの演習問題を解く。(P166)	4時間
第15回	<b>まとめ —アパレルの進化と衣環境—</b>  新しい機能性衣服の紹介と共に、これまでの授業内容を振り返りながら、理解度を確認する。	これまでの授業内容を復習し、再度各演習問題を解いて定期試験に備える。	4時間

授業科目名	<b>ファッションビジネス概論</b>				
担当教員名	早川雅明				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	ファッションビジネスの基本を学ぶため、講義を中心に実践の具体事実を考察する映像や資料を活用した授業を行う。必要に応じ、授業の初めまたは終わりにファッションビジネスに関する社会常識の確認やキー				

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

本講義はファッション産業やそのマーケティングを学ぶことでファッションビジネスの基礎を築く。ファッション専門分野を志す人はもとより、生活者の視点から消費生活を考察する能力を身につけます。授業では今日のグローバル環境において、ファッション産業構造の川上から川下までを考察し、流通のつくり手（供給者）と使い手（消費者）に関わる、モノの流れ（生産・流通）やコト（情報・サービス）を含めた社会環境や消費行動（マーケティング）等を学修することで、ファッションビジネスの構造や仕組みを理解するのが目的です。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ファッション業界に関する知識	インターネット、マス・メディアや書籍の情報をもとに、ファッション業界や消費動向を理解できる。
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP4. 課題発見		収集した資料から業界や消費市場の課題を検討できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

隔週で小レポートまたはミニテスト	30%	内容の妥当性と論理的理解力について独自のルーブリックに基づいて4段階で評価する。
授業資料に基づくプレゼンや学習	25%	授業資料学習や協同学習の発表について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末の集約レポート	45%	最終的に提出された資料について、全学ルーブリックに基づいて評価します。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本衣料管理協会	・ ファッションビジネスの世界	・ 日本衣料管理協会	・ 2011年

### 参考文献等

「ファッションビジネス論」日本衣料管理協会  
「会社四季報 業界地図2016年版」東洋経済新報社、  
「織研新聞」織研新聞社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	木曜12:30-13:00
場所：	生活デザイン 第3研究室
備考・注意事項：	オフィスアワー：木曜12:30-13:00、授業の前後に質問に応じる。その他、必要あれば連絡すること。 その他メールでも対応する。 アドレス：hayakawa-m@osaka-seikei.ac.jp メールには氏名と学籍番号、所属を必ず入れること。

### 授業計画

授業外学修課題にかかるとする目安の時間

第1回	<p><b>ファッションとは？とその歴史からファッションビジネスをみる。</b></p> <p>現代ビジネスの基礎ともなる、近代ビジネスの始まりとなる産業革命以降に生み出されたパリにおけるオートクチュールや既製服の形成について学びます。</p>	<p>大1章を通読。ファッションビジネスの原点とも云える、18世紀イギリスや19世紀フランスの産業革命について学修・復習しておくこと。</p>	4時間
第2回	<p><b>ファッションビジネスの範囲とその現代ファッション史の概要</b></p> <p>直接的な身の回り品や間接的な生活・行動、文化、情報等を考察します。  <b>アパレルとは？アパレル産業、ファッション産業との概要を学修します。</b></p>	<p>まとめノートを作成。配布資料を通読。</p>	4時間
第3回	<p><b>ファッションビジネスの世界とは何か</b></p> <p>ファッションの産業構造（川上～川中～川下）を知って、流通の基本について学びます。  <b>アパレル産業の概要を学修し、自分のファッション方向性を考察します。</b></p>	<p>まとめノート作成。テキストの図解「繊維の流通は多層的で、多くのプレーヤーが存在する」を通読、理解する。</p>	4時間
第4回	<p><b>繊維産業とファッションビジネス、その種類と構造について</b></p> <p>繊維産業について、繊維素材や糸、織布、編物、染色作り等「川上」のあり方を学びます。</p>	<p>まとめノートを作成。配布した資料ならびにテキストの該当部分「図解繊維の流通は多層的で、多くのプレーヤーが存在する」を理解しておく</p>	4時間
第5回	<p><b>アパレル産業のビジネス①アパレルメーカーの企画・生産とビジネスとは</b></p> <p>服づくりを中核とした「川中」アパレルメーカーの企画・生産やビジネス運営について学びます。</p>	<p>まとめノートの作成。配布した資料を通読</p>	4時間
第6回	<p><b>アパレル産業のビジネス②アパレルメーカーの卸売りと小売りの役割とは</b></p> <p>流通チャネルにおけるアパレルメーカーと小売業の取引ビジネスの運営を学びます。</p>	<p>まとめノートを作成。ショップのブランドを観察。配布した資料を通読。</p>	4時間
第7回	<p><b>アパレル小売業におけるファッションビジネス ①その種類と構造</b></p> <p>日本のアパレル小売業の「川下」という今日の小売り業態や構造を学びます。</p>	<p>まとめノートを作成。テキストと配布した資料を通読、理解しておく</p>	4時間
第8回	<p><b>アパレル産業におけるファッションビジネス ②流通構造の変化を知る</b></p> <p>SPA（製造小売業）にみるアパレルメーカーと小売業の流通変化を考察します。</p>	<p>まとめノートを作成。テキストの該当部分を通読</p>	4時間
第9回	<p><b>ファッションブランドの仕組みと変遷</b></p> <p>ラグジュアリーブランドやファッションのライセンサーとライセンスの仕組みや運営を知り、業態別のブランドの発展を考察する。</p>	<p>まとめノートを作成。テキストの該当部分や配布資料を通読</p>	4時間
第10回	<p><b>グローバルマーケットにおける流通の変化①ファストファッションの台頭</b></p> <p>ファストファッションにおける日本マーケットの消費生活の変化を考察します。</p>	<p>まとめノートを作成。テキスト第2章を通読。</p>	4時間
第11回	<p><b>グローバルマーケットにおける流通の変化②百貨店、量販店、SCの再構築</b></p> <p>従来大型規模のみから消費者のライフスタイルにコンセプトを根ざしたビジネスモデルと再編をみる。</p>	<p>まとめノートを作成。テキスト第2章を通読。配布した資料を通読</p>	4時間
第12回	<p><b>グローバルマーケットにおける流通の変化③無店舗小売業の多様化</b></p> <p>通信市場がカタログ、訪販からテレビ系やネット通販へ購買層が拡大していく経緯を考察します。</p>	<p>まとめノートを作成。テキストの該当部分を通読。配布した資料を事前に理解</p>	4時間
第13回	<p><b>グローバル・マーケットイン時代におけるファッション消費の多様化</b></p> <p>SNSの活用がファッション消費の変遷を学ぶと共に、有店舗と無店舗の融合のファッション消費を考えます。</p>	<p>まとめノートを作成。配布した資料を通読、自己利用しているSNSの活用を事前に考察しておく。</p>	4時間
第14回	<p><b>ファッションビジネスのしごと</b></p> <p>ここではアパレル業界を主とした職種を挙げ、それらの概要を説明する。  自分の関心分野を考察する。</p>	<p>まとめノートを作成。テキスト第3章を通読。事前に関心ある業種や職種やマーケットの小売業における職種などを調査しておく。尚、該当するテキスト部分の通読</p>	4時間
第15回	<p><b>総括とまとめ—今日のファッション消費と今後のファッションビジネス—</b></p> <p>IT産業の弛まぬ進歩がライフスタイルを変化させ、新しいビジネスモデルを生み出すマーケティングを考察します。</p>	<p>資料まとめをレポートする。</p>	4時間

授業科目名	<b>デザイン表現実習 I</b>				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	デザインする力をつけるための実習が中心で個々のポートフォリオを作り、各單元ごとにプレゼンテーションを行う。				

開放科目の指示 不可

## 授業概要

本授業では洋服をデザインする為の基礎を学びます。デザインをする為にはテクニックと知識の両方が必要です。前期の授業では個性の認識、発展を目標としており、まずは基礎的なテクニックを学びます。そのあと、個々の個性を自己認識していくために必要な情報を集め、分析、理解します。インプットした知識を自分の個性というフィルターを通して新しい洋服のクリエイションを行います。前期はデザインに重要な色、スカートのデザインを学びます。さらにリメイク作品を制作します。

## 養うべき力と到達目標

### 確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

### 汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP9. 役割理解・連携行動

### 具体的内容：

デザインを学ぶために様々なものをリサーチする  
デザインするために必要なテクニック、考え方を学ぶことができる

### 目標：

リサーチした様々なものを洋服のデザインで表現することができる  
学んだテクニック、考え方を使って、自分の個性を表現したデザインができる

様々なリサーチを行うことで、自分の個性を発見し認識することができる  
グループ作業を通じて、グループでの自分の役割を見つけ、連携して作品制作に取り組むことができる

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

### 評価の基準

プレゼンテーション1	30%	作ったプリント柄の美しさ、現代性、プレゼンテーションの内容を評価します。
プレゼンテーション2	30%	スカートのデザインの創造性、現代性、デザイン画の完成度、プレゼンテーションの内容を評価します。
リメイク作品制作	30%	リメイク作品の創造性、現代性、縫製などの完成度を評価します。
授業内課題	10%	デザイン画など授業内課題の完成度で評価します。

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

NANCY RIEGELMAN著「COLORS FOR MODERN FASHION」  
その他の資料は随時紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日2限  
場所： 生活デザイン第3研究室

## 授業計画

第1回 色を学ぶ、自分の好きな色は…？

アーティストのリサーチを行う

授業外学修課題にか  
かる目安の時間

1時間

	ファッションでは非常に重要な要素です。色の組み合わせやプリント柄など、自分の好きなアーティストの色使いから学び、自分の好きな色や色の組み合わせを見つけます。		
第2回	<b>色を学ぶ、プリント柄</b> 基本的なプリントの送りを学び、自分の好きな色、アーティストを参考にオリジナルモチーフを考える。	プリントの送りを理解しておく	1時間
第3回	<b>色を学ぶ、プリント柄</b> 前の授業で作ったオリジナルモチーフを送り柄にする。作ったプリント柄をボディ上に配置し、洋服での見え方を確認する。	今日の予定を仕上げておく	1時間
第4回	<b>デザイン画の基礎/デコレーション、リメイクの実習</b> 人体の仕組みを学び、デザイン画の基礎を学ぶ。 様々なポーズを描く為のベースを作る。 グループに分かれて古着を使い、デコレーションやリメイクで世界観を表現する	人体の仕組みを復習しておく	1時間
第5回	<b>デザイン画の基礎、様々なポーズを描く/デコレーション、リメイクの実習</b> 正面、デアンシェ、3/4など様々なポーズを描く。 使う古着を決め、どんなアイテムを作るかデザインを考える。	リメイクするアイテムを考えておく	1時間
第6回	<b>着色を学ぶ/デコレーション、リメイクの実習</b> 布地の描き方を学び、着色の練習を行う。 布地ごとの描き方や着色方法を学ぶ。 デコレーションやリメイクのデザインをデザイン画にする。	着色方法を復習しておく	1時間
第7回	<b>アイテムを学ぶ、スカート/デコレーション、リメイクの実習</b> スカートというアイテムを学ぶ。 シルエット、ポリュームのバリエーションと名称。 自分の好きなスカートのリサーチを行う。 デザイン画を元にデコレーションやリメイクの手法を考える。	スカートのリサーチを終えておく	1時間
第8回	<b>テーマの設定/デコレーション、リメイクの実習</b> スカートをデザインする為のテーマを設定する。 テーマをヴィジュアルで表現し、その中からデザインする為の要素を探す。 デコレーション、リメイクの制作を行う。	テーマリサーチを進めておく	1時間
第9回	<b>ディテール、素材のリサーチ、平面図/デコレーション、リメイクの実習</b> スカートに適した素材を知る為、実物を見て学ぶ。 ベルトやポケットなどディテールの作りを学び、平面図の描き方を学ぶ。 デコレーション、リメイクの制作を行う。	リメイクの制作を進めておく	1時間
第10回	<b>マーケットリサーチ、スカート</b> マーケットを見て、どのようなスカートがトレンドかとリサーチする。 色やプリント柄、シルエットやポリュームなど、自分のテーマに沿ってリサーチを行う。	テーマの候補を複数考えておく	1時間
第11回	<b>スカートをデザインする</b> これまでに行ったりサーチ（テーマ、ディテール、シルエット、ポリューム、素材など）をまとめて、自分のスカートをデザインする。	リサーチを終えておく	1時間
第12回	<b>スカートをデザインする</b> テーマに基づき、シルエット、ポリュームを決める。	今日の予定を仕上げておく	1時間
第13回	<b>スカートをデザインする</b> リサーチしたディテールを自分のテーマにあわせて発展させる。	今日の予定を終えておく	1時間
第14回	<b>スカートをデザインする</b> デザイン画を5体以上描き、そのうち2体を着色、平面図も描き仕様書を作る。	デザイン画を仕上げておく	1時間
第15回	<b>プレゼンテーション</b> 自分の作品をまとめたポートフォリオを作り、プレゼンテーションを行う。	プレゼンテーション準備を終えておく	1時間

授業科目名	<b>デザイン表現実習Ⅱ</b>				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習で個々のポートフォリオを作り、各單元ごとにプレゼンテーションを行う。				

開放科目の指示 不可

**授業概要**

洋服をデザインする為の基礎を学びます。デザインをする為にはテクニックと知識の両方が必要ですので、基礎的なテクニックを学んでから自分の個性を洋服で表現できるように様々なリサーチを行い、知識をインプットします。インプットした知識を自分の個性というフィルターを通して新しい洋服のクリエイションを行います。後期はコンセプトメイキング、シャツ・ブラウス・ワンピースのデザイン、ジャケットなど重衣料のデザインを行います。

**養うべき力と到達目標**

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1．DP1.幅広い教養やスキル	デザインを学ぶために様々なものをリサーチする	リサーチした様々なものを洋服のデザインで表現することができる
2．DP2.専門的知識・技能、職業理解	デザインするために必要なテクニック、考え方を学ぶことができる	学んだテクニック、考え方を使って、自分の個性を表現したデザインができる
<b>汎用的な力</b>		
1．DP4.課題発見		様々なリサーチを行うことで、自分の個性を発見し認識することができる

**学外連携学修**

無し

**授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）**

- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

**成績評価****注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
プレゼンテーション1	: コンセプトメイキングの内容、完成度を評価します
20%	
プレゼンテーション2	: シャツ・ブラウス・ワンピースのデザインの創造性、現代性、プレゼンテーションの内容を評価します
35%	
プレゼンテーション3	: ジャケットのデザインの創造性、現代性、プレゼンテーションの内容を評価します
35%	
授業内課題	: デザイン画など授業内課題の完成度で評価します。
10%	

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

NANCY RIEGELMAN著「COLORS FOR MODERN FASHION」  
その他の資料は随時紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

時間： 月曜日2限  
場所： 生活デザイン第3研究室

**授業計画**

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>コンセプトとは…</b> コンセプトの説明。 洋服をデザインする為にもっとも大事な自分のコンセプトを作るための準備を始める。	コンセプト作成に必要な資料を集めておく 1時間
第2回	<b>アイテムを学ぶ、シャツ、ブラウス、ワンピース</b>	シャツ、ブラウス、ワンピースのリサーチを終えておく 1時間

	シャツ、ブラウス、ワンピースというアイテムを学ぶ。 衿や袖などディテールのバリエーションとその名称。 自分の好きなシャツ、ブラウス、ワンピースのリサーチを行う。		
第3回	<b>テーマを探す</b> 自分のコンセプトを表現できるテーマを探す。 ディテールのリサーチを行う。	ディテールのリサーチを終えておく	1時間
第4回	<b>ディテール研究</b> 実物のシャツ、ブラウスを用意してディテールを学び、 衿や袖、カフスなどリサーチしたディテールをテーマに基づいて 発展させる。	テーマリサーチを進めておく	1時間
第5回	<b>3D研究、シルエット、ボリュームを探す</b> ワンピースのリサーチから、テーマを表現できるシルエットやボ リュームを実際の布を使って探していく。	今日の予定を終えておく	1時間
第6回	<b>シャツ、ブラウス、ワンピースをデザインする</b> 見つけたディテール、シルエット、ボリュームを使って自分のコ ンセプト、テーマを表現する シャツ、ブラウス、ワンピースを5体デザインす る。内、2体は着色と平面図を描き仕様書とする。	デザイン画を進めておく	1時間
第7回	<b>プレゼンテーション</b> シャツ、ブラウス、ワンピースのポートフォリオを作り、プレゼ ンテーションを行う。	プレゼンテーションの修正を終えておく	1時間
第8回	<b>コンセプトの発展</b> コンセプトを発展させていき、自分のデザインを確立させてい く。 コンセプトを表現するテーマを探す。	コンセプト発展に必要な資料を集めておく	1時間
第9回	<b>アイテムを学ぶ、ジャケット</b> ジャケットというアイテムを学ぶ。 衿、袖、ポケットなどのディテールのリサーチや自分の好き なジャケットのシルエットを探す。	ジャケットのリサーチを終えておく	1時間
第10回	<b>3D研究</b> 自分のコンセプトを表現するためのデザインポイントを探す。 ボディを使って、ディテールやシルエットをテーマに基づいて発 展させる。	今日の予定を終えておく	1時間
第11回	<b>3D研究</b> ボディを使って、ディテールやシルエットをテーマに基づいて発 展させる。	3D研究で見つけたボリュームをまとめておく	1時間
第12回	<b>ジャケットをデザインする</b> 3D研究で見つけたディテールやシルエットを使い、自分のコン セプト、テーマを表現するデザインを描く。	デザイン画を進めておく	1時間
第13回	<b>ジャケットをデザインする</b> ジャケットを着たコーディネートのデザイン画を描く。 アクセサリなどトータルコーディネートを5体以上描く	デザイン画を仕上げしておく	1時間
第14回	<b>ジャケットのデザイン</b> ジャケットを着たコーディネートを考える。 ジャケットのデザイン画を5体以上描き、2体は着色と平面 図も描き仕様書とする。	デザイン画着色と平面図を仕上げしておく	1時間
第15回	<b>プレゼンテーション</b> ジャケットのポートフォリオを作り、プレゼンテーショ ンを行う。	プレゼンテーションを仕上げしておく	1時間

授業科目名	キャリアディベロップメント				
担当教員名	松岡依里子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	本講義では、社会に出て貢献できるよう、自らのライフプランや将来像を考えていきます。そのために①キャリアに関する社会的知識を修得し、②キャリア意識を醸成し、③キャリアに関しての意思を固めることを目標とする。				

開放科目の指示：「不可」

## 授業概要

本授業では、就職準備のための力を身につけるとともに、社会人基礎力を向上させることを目的とする。そのために、自己分析、自分のことを表現できる文章力、発表する力の育成、他人の意見を聞き、それについてディスカッションできる力を育成する。さらに、業界、職種について理解するために、現職の方のお話を聞いたり、資料収集することで、自分のキャリアの方向性を明確なものにする。新聞を活用した学習を通して、社会の問題を考察できる力も育成する。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	就職活動に向けて、社会人の仕事意識や在校生の就職活動方法、企業の方の話を通して、職業に対する理解、仕事へのモチベーションをあげる。	情報収集、言語能力、構成能力、共働力を身につける。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		収集した資料から将来のキャリアに関する課題やファッション業界の課題を発見できる。
2．DP5. 計画・立案力		収集した資料から新しいプランに積極的に取り組むことができる。
3．DP9. 役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し共働できる。
4．DP7. 完遂		自分の担当箇所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

## 学外連携学習

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ  
放棄とみなし、成績評価を「S」とします。毎回、基本課題、テーマに沿ったテーマ課題と事後課題を課し、それぞれについて個人またはグループで取り組む。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
基本課題	： 課題に対して概ね解答できていれば1回1点とし、15点満点で評価する。
毎回の課題	： 毎回の課題に対して授業内容をふまえていれば、4点。加えて独自の見解が示されていればプラスの評価を行う。
事後課題	： 課題に対して概ね解答できていれば、1回1点とし15点満点で評価する。

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

- ・津田 久資 下川美奈 ロジカル面接術 ワック
- ・杉村 太郎 熊谷 智宏 絶対内定2017 ダイアモンド社
- ・田村 次郎 隅田 浩司 戦略的交渉入門(日経文庫) 日本経済新聞出版社

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 3限  
場所： 生活デザイン第2研究室  
備考・注意事項： メールでの連絡はsed@osaka-seikei.ac.jpまで。件名には「キャリアデベロップメント・氏名・学籍番号」を記入すること。



授業計画			授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間
第1回	<b>キャリアデザインとは</b> 1) 働くことに関する基本用語を学ぶ。 2) 講義「キャリアデザインとは何か」 3) ワーク 自分のライフサイクルを考える。お互いに説明しあう。	就職活動予定を考える	4時間
第2回	<b>自分を知る①ー適性とは何かー</b> 1) 性格をあらわす基本用語を学ぶ。 2) 講義「適性とは何か」 3) ワーク：適性評価を行う。	性格をあらわすエピソードを集め、まとめる。	4時間
第3回	<b>自分の知る②ーライフスタイル分析ー</b> 1) ライフスタイルを形成する基本的事項について学ぶ。 2) 講義「ライフスタイルとは何か」 3) ワーク：グループでライフスタイルについて議論し、優先順位をつけながら、チームとしての意見をまとめる。発表を聞きながら、グループごとの差異に気付く。	振り返りシートを作成する。	4時間
第4回	<b>「働く」を知る①ー働く意義ー</b> 1) 「労働」に関する基本的な用語を学ぶ。 2) 講義「何のために働くのか？」 3) ワーク：自分が働く理由と優先順位を討論し、発表する。	振り返りシートを作成する。	4時間
第5回	<b>「働く」を知る②ー就職活動の方法ー</b> 1) 「モチベーション」の基本を学ぶ。 2) 講演「在校生の就職活動」 3) ワーク：内容及び学び得たこと、これからどのような準備が必要であるかについて考察し、レポートを書く。	気になる企業について、WEBなどで調べておく。	4時間
第6回	<b>会社を知る①ー求人票から会社情報を収集するー</b> 1) 求人票に書かれている基本用語を理解する。 2) 講義「求人票から会社情報をどのように読み取るのか」 3) ワーク：興味のある会社を調べ、お互いに説明してみよう。	発表資料から考察する。	4時間
第7回	<b>「働く」を知る③ーキャリアとはー</b> 1) キャリアに関する基本用語を知る。 2) 講演「キャリアケースを聞く」 卒業後、1年～3年までの先輩たちの話を聞く。 3) ワーク：先輩の話をまとめる。志望動機、仕事の内容、やりがいなど	振り返りシートを書く。	4時間
第8回	<b>働くを知る④ーキャリアを築くー</b> 1) キャリアを築くための方法を知る。 2) 講演「キャリアケースを聞く」 卒業後5年以上のベテラン先輩の話を聞く。 3) ワーク：先輩の話をまとめ、自己のキャリア形成を考える。	自己分析を深めておく。	4時間
第9回	<b>会社を知る②ーアパレル業界、一般企業の職種とその実際ー</b> 1) アパレル関係の職種の基本的理解 2) グループワーク グループ内で選んだ会社を発表する。会社を選んだ基準を明確にする。 3) ワーク：お互いに説明しよう。	企業、職種に対する意見をまとめる。	4時間
第10回	<b>会社を知る③ー業界の動向ー</b> 1) 経済用語を学ぶ。 2) ワーク：マーケティングジャーナル（日経MJ）や織研新聞を利用して、業界分析を行う。その際、現状と未来への予測への読み解きを行う。 3) 発表 グループで切り取った記事について解説し、ディスカッションする。	企業に関するトピックを取り上げ、意見を書く。	4時間
第11回	<b>自分を知る③ー課題解決のための基礎手法ー</b> 1) 自分をあらわす用語を学ぶ。 2) 適性検査の結果から、自分の強み、弱みについて考える。 3) グループにより、一定のテーマについて課題解決のためのブレーンストーミングを行い、まとめ、発表する。	振り返りシートを作成する。	4時間
第12回	<b>自分を知る④ー自己アピールの強化ー</b> 1) 自分のやってきたことを整理する。 2) グループワーク 自己の強みについてプレゼンテーションを行う。	振り返りシートを作成する。	4時間
第13回	<b>自分の知る⑤ーグループディスカッションー</b> 1) グループディスカッションを進めるための基本的な手法について学ぶ。 2) 設定テーマから課題解決のためのグループディスカッションを行う。 3) グループごとの結果を発表する。	課題レポートを作成する。	4時間
第14回	<b>考えをまとめる</b> 1) 常識的な用語についてテストを行う。 2) ワーク：1回～13回の授業で作成したドキュメントを参考にしたい自分についてまとめる。自分の特徴として「大切にしている考え方」「学生時代に力を注いだこと」「職業観」「10年後のなりたい私」「そのためになにをすべきか」など。	振り返りシートの作成	4時間
第15回	<b>考え方を発表する</b> 1) 自分をあらわす用語を整理する。 2) 発表「なりたい私について」 3) 質疑応答も積極的に行う。	課題レポートをまとめる。	4時間

授業科目名	<b>業界研究</b>				
担当教員名	松岡依里子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	新聞、雑誌、本、WEB検索などで資料を収集し、課題ごとに分析、考察し、それらをもとに企画書を作成する。プレゼンテーションにより、有効な企画発表の方法を学ぶ。				

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

マーチャンダイジング (MD) とは、マーケティング活動における最適な商品、サービスを最適な場所と時期に、最適な数量と価格で取り扱う計画のことです。本授業では、ファッションブランドを企画するために、モノづくりから出発するのではなく、小売店の売り場に行く消費者やバイヤー視点で次のシーズンに何が売れそうかを予測して商品企画をたてるための基本的な知識や方法を学びます。具体的には、ブランド分析を行い、企画書を作成します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ブランド企画のための知識と手法	マーチャンダイザーやバイヤーに必要な資質を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		ファッションビジネスの現状を見据え、新しい発想で、ブランド企画を行うことができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
課題レポート	: リサーチ結果を踏まえ、論理的手法に基づいた考察がなされているかの観点から、4段階で評価します。
40%	
企画書作成	: ブランド企画の資料に基づき、独自のルーブリックにより4段階で評価します。
30%	
資料に基づくプレゼン	: 全学ルーブリックに基づき、評価します。
30%	

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

菅原正博・本山光子 ファッション・マーケティング ファッション教育社  
菅原正博監修 アパレル・マーチャンダイジング  
菅原正博・山本ひとみ・大島一豊 企業ブランディング 中央経済社

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜13時～15時  
場所： 生活デザイン第2研究室

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>アパレル業界研究の方法</b> アパレル業界を中心に企業のHPやショップリサーチから企業情報を読みとる視点を学ぶ。	商業施設、アパレル店舗をリサーチする。 4時間
第2回	<b>ブランド調査</b> ファッションブランドにはどのようなブランドがあるのか、それぞれのコンセプトについて分析する。	ブランド分析レポートを書く。 4時間
第3回	<b>感性分析</b> 雑誌やWEBなどから好きなモノを収集し、「自分の好きなもの」分析を行う。	発表資料を作成する。 4時間

第4回	<b>「好きなモノ」プレゼンテーション</b> 好きなモノ分析の結果をパワーポイントの資料をもとに、発表する。	振り返りシートを作成する。	4時間
第5回	<b>ファッションイメージマップの作成</b> 雑誌やWEBなどで好きなファッションを収集し、収集した資料をもとに、イメージ用語を使用して、整理する。	イメージ用語20個以上、意味を調べておく。	4時間
第6回	<b>ファッションイメージマップの作成</b> 分析に必要なイメージ用語を概説し、ファッションイメージマップを作成する。	ファッションイメージマップの写真を取り考察レポートを書く。	4時間
第7回	<b>プレゼンテーション</b> ファッションイメージマップの考察レポートをもとに、発表する。質疑応答など、必ず全員が質問をするように、活発な議論を行う。	振り返りシートを作成する。	4時間
第8回	<b>コレクション分析</b> 5大コレクションから、トレンドキーワードを探す。さらにイメージ分析を行う。またどのスタイルが、トレンドとなり、一般市場に出る可能性があるのかを探る。	ブランドごとに考察レポートを書く。	4時間
第9回	<b>ストリート分析</b> 大阪うめだ、心斎橋、難波、京都、神戸などに出向き、ストリート調査を行った結果を考察する。それぞれの都市の特徴をあげ、ストリート分析を行う。またWEB調査で得られた資料と比較する。	ストリート分析調査を行っておく。	4時間
第10回	<b>プレゼンテーション</b> ストリート分析の結果を発表する。都市ごとの比較を行う。	振り返りシートを作成する。	4時間
第11回	<b>ブランド企画書の作成①—ブランドコンセプトとターゲット—</b> これまでの情報を参考に、オリジナルなブランドコンセプトを考える。また同時にターゲット絞り、ターゲット特性についても考える。	オリジナルなブランド企画案を考えておく。	4時間
第12回	<b>ブランド企画書の作成②—ファッション特性—</b> 提案するブランドの顧客のライフスタイルやファッション志向、トレンド感性について考察する。	生活文化の相違によるライフスタイルの多様性をレポートに書く。	4時間
第13回	<b>ブランド企画書の作成③—一色、素材、アイテム、サイズ—</b> 色彩傾向、素材、アイテムの幅、サイズ幅などを決め、具体的なコーディネート案を考える。	発表用の資料作成をしておく。	4時間
第14回	<b>ブランド企画書の作成④—販売促進—</b> ファッションブランドをいかに多くの消費者に伝えるか、売り上げにつながる戦略について考える。	WEB、DMなど販促方法を調べておく。	4時間
第15回	<b>プレゼンテーション</b> オリジナルブランドの企画について発表する。	振り返りシートを作成する。	4時間

授業科目名	<b>デザイン特論 I</b>				
担当教員名	澤田和也・伊東義輝・山下義裕				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	およそ数名程度ごとのグループに分かれ、アパレル企画の方法、デザイン、布の選定、染色、パターンメイキング、縫製、プレゼンテーションに至るアパレル業界全般の流れを共同作業で学ぶ授業体系をとる。実際の授				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

「デザイン特論 I」・「デザイン特論 II」では、1年間の通年授業を通じて、商品企画、作品の企画の基本理論を理解し、最終的にオリジナルブランドを作ることを目的とする。制作にあたっては、作品のデザイン、素材となる布の選定、染色方法の検討、パターンメイキング、縫製までの全ての工程についてその実技を習得する。さらに成果発表の方法として、ファッションショーを企画し、その場にて作品展示の手段も学生自身で考案する。最終的に、ファッションショーの企画・立案および発表までの体系的な学びを通して、表現方法を習得する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

アパレル・ファッション業界の一連の流れを、一年を通じて実践的に体得する。

#### 目標：

自己ブランドを立ち上げるという共通目標に対して、グループ作業を通じ自身の責任と義務を認識しつつ主体性を持って作業に取り組む力を身に付けることができる。

#### 汎用的な力

- DP7. 完遂

共同作業の中で、さまざまな分野の学びを体験する中で、失敗を繰り返しながら課題を乗り越えるための能力を身に付けることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

常にグループの中の一員として自身の置かれた立場を考え、共同で物事を作り上げる力を養成します。原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

情報収集力および情報分析力

30%

#### 評価の基準

： 種々の情報媒体から適切な情報の入手能力とその分析方法や判定力を評価する。

基礎的な実技

40%

： 作業への取組姿勢や技術力を評価する

表現力

30%

： 自己のイメージの表現到達度と共に、プレゼンテーション能力の技術について評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

無し

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜1限（澤田）、火曜1限（山下）、2限（伊東）

場所： 生活デザイン第1、3研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

### 授業計画

第1回

授業概要の説明、グループ作業の行い方など

グループ内でそれぞれの性格や個性から分担すべき役割について話し合いをしておく。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	デザイン特論についての概要を説明し、1年間課題に取り組むグループ分け、グループでの作業を説明する。		
第2回	<b>素材からのデザイン企画</b> 素材からの商品企画を行うため、担当する素材とそれを扱う企業をリサーチし、担当素材の特性を理解する。	マーケットリサーチの準備をしておく。	4時間
第3回	<b>マーケットリサーチ</b> 担当する素材の既存市場のリサーチと、新しいデザインの可能性をリサーチする。	リサーチ内容をまとめておく。	4時間
第4回	<b>プレゼンテーション：マーケットリサーチ</b> リサーチした既存市場の分析と担当素材の新しいデザインの可能性をまとめて提案する。	プレゼンテーションの修正を終えておく。	4時間
第5回	<b>新しいデザイン：担当素材の新しい可能性を見つける</b> 担当素材を使った新しいデザイン、新しいマーケットの提案を行う。 衣服に限らず、生活全般からイメージを膨らましてインテリア、雑貨などもデザインする。	担当した素材の特徴について調べる。	4時間
第6回	<b>デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定</b> ターゲットの生活や対象のマーケットのイメージを作り、テーマに沿ってデザインを考える。	デザインテーマを考えておく。	4時間
第7回	<b>テキスタイルをデザインする</b> テーマ、ターゲットのイメージからテキスタイルデザインを行う。 染めやプリント、刺繍など様々な手法をリサーチし、イメージにあった手法を取り入れて考える。	テキスタイルの参考となるヴィジュアル資料を集めておく。	4時間
第8回	<b>テキスタイルを制作する</b> 担当素材を使って染めやプリント、刺繍、タック、ギャザーなど様々な加工を試してみる。	使いたい加工を決めて、加工した素材のイメージを考えてくる。	4時間
第9回	<b>担当素材のテキスタイルデザインを完成させる</b> テキスタイルデザインを完成させ る。40cm&amp;#215;40cm程度の素材スワッチを作成する。	プレゼンテーションの準備を終えておく。	4時間
第10回	<b>プレゼンテーション：デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定、テキスタイル</b> デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定、テキスタイルをまとめてグループごとにプレゼンテーションを行う。	今回の衣服、雑貨デザインに必要な資料を集めておく。	4時間
第11回	<b>マーケットリサーチ：衣服、インテリア、雑貨デザインリサーチ</b> グループごとのデザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定、テキスタイルデザインにあった衣服、インテリア、雑貨の参考となるデザインをリサーチする。	リサーチ内容をまとめておく。	4時間
第12回	<b>デザインを行う。</b> デザインテーマ、対象マーケット、ターゲットの設定にあった衣服、インテリア、雑貨のデザインを行う。	デザインの参考となる資料を集めておく。	4時間
第13回	<b>デザインの決定、デザイン画を描く</b> グループごとにテーマ、ターゲットにあったデザインを決め、デザイン画を描く。	デザインの参考となる資料を集めておく。	4時間
第14回	<b>デザイン画を描く</b> デザイン画を描き、着色し平面図を描き、仕様書を作成する。	仕様書までまとめておく。	4時間
第15回	<b>プレゼンテーション</b> 前期の内容をまとめてプレゼンテーションを行う。	指摘を受けた修正についてプレゼンテーションを変更しておく。	4時間

授業科目名	<b>ファッション心理学</b>				
担当教員名	松岡依里子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	指定したテキストと配布資料によって、講義を行います。ロールプレイングにより、心理の読み取り技術を習得します。また毎回ミニレポートでキーワードを確認し、それに対する事例を考えます。最終レポート				

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

着装、購買、選択などの服飾に関する行動における心理的、社会的機能に着目し、社会学、社会心理学、心理学の基礎理論を中心に社会科学の観点からファッションを理解します。普段の生活の中で、モノとしてのファッションではなく、人との関わりの中でどのようにファッションがとらえられているのかについて考察し、ファッションの今後の動向について分析する能力を身につけます。人間の心理が、ファッションに対してどのような行動をとってきたのか、購買意欲にどのようなつながっているのかについても分析します。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ファッションについての消費行動について社会心理学的な読み解きを行う。	ファッション心理特性を知り、ファッション企画力や販売力を身につける。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		人間の心理特性を知り、ファッションと人間との関係についての課題を考察する。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

毎回の小レポート	40%	： 授業の内容をふまえた論述ができていれば4点、そこに独自の見解や具体例などが示されていれば3点、授業の内容のみの場合は2点、まったく授業の内容が理解できていない場合は1点とする。
課題レポート	40%	： 内容の妥当性と論理的構成について独自のルーブリックに基づいて4段階で評価します。
発表	20%	： 全学ルーブリックに基づいて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・小林茂雄 「装いの心理」 小林茂雄 アイ・ケー・コーポレーション
- ・中川早苗編 「新版被服心理学」 日本繊維機械学会
- ・高木修監修 被服と化粧の社会心理学 北大路書房
- ・谷本奈穂 美容整形と化粧の社会学 新曜社
- ・藤原康晴 中川早苗 服飾と心理 放送大学教育振興会
- ・成実弘至 コスプレする社会 せかい書房

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日3限
場所：	生活デザイン第2研究室
備考・注意事項：	生活デザイン学科専用アドレス 件名「科目名 氏名 学籍番号」 オフィスアワー以外の時間にも対応します。生活デザイン第2研究室まで来室してください。

### 授業計画

第1回

ファッション心理学とは

振り返りシートの作成

授業外学修課題にか  
かる目安の時間

4時間

	ファッション心理学で何を学ぶのか、なぜこのような学問が必要なのかについて理解する。		
第2回	<b>ファッションと欲求心理</b> 私たちは日々、不満や不足の解消を求めて欲求が生じる。欲求の種類と動機付けについて理解し、ファッションと欲求との関係について考察する。	自身と欲求との関係についてレポートを書く。	4時間
第3回	<b>ファッションを選択するときにはわきおこる感覚、知覚と感情</b> 感覚、知覚と感情の違いを把握し、服飾を身につけたときにおこる感覚、知覚や感情の種類について理解する。またデザインや色とどのように関係しているか理解する。	服を着たときにわき起さる感情についてレポートを書く。	4時間
第4回	<b>自己概念が影響を及ぼすファッション志向性</b> 自分のことをどう思っているか、どう感じているかは着装と密接な関係にある。自己の発達段階と自己概念、およびファッションとの関係について理解する。	自分の正確とファッションについてレポートを書く。	4時間
第5回	<b>人間の印象とファッションの役割</b> 非言語情報伝達としてファッションがあげられる。見知らぬ人に会ったとき、服装は推測の情報となる。服装や化粧の印象形成からその心理的効果を理解する。	人に良く見られたいためにどのようなファッションコーディネートをしているのかについてレポートを書く。	4時間
第6回	<b>社会的役割を明確にするファッション</b> 社会集団での地位と役割を理解し、そこにふさわしいとされる服装について学ぶ。制服やビジネススーツ、クールビズなどの意味を知る。	制服について考察レポートを書く。	4時間
第7回	<b>文化に影響をうけるファッション</b> 社会的役割を果たすために、ファッションは制約を受ける場合もある。制服や成人式などの儀礼的な慣行による服飾の社会的役割を理解する。また文化の違いや社会規範の違いにより、ファッション傾向は異なる。海外事例をもとに理解する。	文化が違えばファッションはどのように変わるのかについてレポートを書く。	4時間
第8回	<b>ファッションアイテム流行のメカニズム</b> 流行を迫る心理について、そのメカニズムを理解する。ファッションの変遷を学び、流行とどのようにかかわってきたかについて考察する。	なぜ人は流行を追いかけるのか、レポートを書く。	4時間
第9回	<b>価値志向型ライフスタイルとファッション</b> ライフスタイルや価値観の違いがファッションにどのように影響を及ぼしているのかを理解する。	自分のライフスタイル特性とファッションとの関係について考察レポートを書く。	4時間
第10回	<b>身体装飾のファッション化現象</b> 化粧やピアス、ヘアカラーなどの身体装飾の果たす役割を知り、その心理的効果について考察する。	身体加工はどのようなものがあるのか、どのように利用されているのかについて考察しておく。	4時間
第11回	<b>コスプレ現象を読み解く</b> 私ではない「主体」に変貌し続けるコスプレの心理について考察する。	コスプレと人間の心理について、事例をもとにレポートを書く。	4時間
第12回	<b>ブランドを追いいたくなる心理</b> 2極化するブランドについて、その価値構造と心理について考察する。	ブランドを迫る人々に密着し、取材レポートを書く。	4時間
第13回	<b>「かわいい」の意味</b> 東京ガールズコレクションを発端とし、「かわいい」ファッションやグッズが流行し、定番化している。「かわいい」が安心のキーワードになっていく過程とその心理について考察する。	「かわいい」とはどういうことか、レポートを書く。	4時間
第14回	<b>子どものファッションについてメディアから読み解く</b> ファッションの低年齢化について、雑誌、メディアをもとに考察する。	現代子どものファッションについて調べておく。	4時間
第15回	<b>男性はおしゃれになったのか？</b> 男性のおしゃれが当たり前となり、ファッションに関心をもつ人が増えている。男性ファッションの変遷とその心理特性について読み解く。	男性には、どのようなファッションが人気なのか、調べておく。	4時間

授業科目名	<b>デザイン特論Ⅱ</b>				
担当教員名	澤田和也・伊東義輝・山下義裕				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	およそ数名程度ごとのグループに分かれ、アパレル企画の方法、デザイン、布の選定、染色、パターンメイキング、縫製、プレゼンテーションに至るアパレル業界全般の流れを共同作業で学ぶ授業体系をとる。実際の授				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

「デザイン特論Ⅰ」・「デザイン特論Ⅱ」では、1年間の通年授業を通じて、商品企画、作品の企画の基本理論を理解し、最終的にオリジナルブランドを作ることを目指す。制作にあたっては、作品のデザイン、素材となる布の選定、染色方法の検討、パターンメイキング、縫製までの全ての工程についてその実技を習得する。さらに成果発表の方法として、ファッションショーを企画し、その場にて作品展示の手段も学生自身で考案する。最終的に、ファッションショーの企画・立案および発表までの体系的な学びを通して、表現方法を習得する。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

アパレル・ファッション業界の一連の流れを、一年を通じて実践的に体得する。

#### 目標：

自己ブランドを立ち上げるという共通目標に対して、グループ作業を通じ自身の責任と義務を認識しつつ主体性を持って作業に取り組む力を身に付けることができる。

#### 汎用的な力

- DP7. 卒業

共同作業の中で、さまざまな分野の学びを体験する中で、失敗を繰り返しながら課題を乗り越えるための能力を身に付けることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

情報収集力および情報分析力  
30%

#### 評価の基準

： 種々の情報媒体から適切な情報の入手能力とその分析方法や判定力を評価する。

基礎的な実技  
40%

： 作業への取組姿勢や技術力を評価する

表現力  
30%

： 自己のイメージの表現到達度と共に、プレゼンテーション能力の技術について評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

無し

### 履修上の注意・備考・メッセージ

常にグループの中の一員として自身の置かれた立場を考え、共同で物事を作り上げる力を養成します。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 1限

場所： 生活デザイン第1、3研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

### 授業計画

第1回

担当素材の染めや加工を行う。

： 素材加工の下準備を進めておく

授業外学修課題にかかると見込まれる時間

4時間



	前期で作成した素材加工スワッチをベースに、アイテム製作に必要な分量の素材加工を行う。		
第2回	<b>染色を行う①</b> 制作相手のデザインに必要な担当素材の染色を行う。	捺染の概念と技法について理解を深めておく	4時間
第3回	<b>染色を行う②</b> 作品の制作イメージに合わせ、デザインに必要な素材の追加作成を行う。	捺染の概念と技法について理解を深めておく	4時間
第4回	<b>二次加工を行う①</b> 染色を終えた素材にプリントや刺繍など二次加工を行うことで、素材の表情を豊かにする。	加工を進めておくこと	4時間
第5回	<b>二次加工を行う②</b> 染色を終えた素材にプリントや刺繍など二次加工を終える。	次週までに加工を仕上げておく。	4時間
第6回	<b>パターンメイキング①</b> グループごとにデザインしたアイテムのパターンを作成する。	パターン作成を進めておく	4時間
第7回	<b>パターンメイキング②</b> グループごとにデザインしたアイテムのパターンを作成する。	パターン作成を進めておく	4時間
第8回	<b>パターンメイキング③</b> グループごとにデザインしたアイテムのパターンを完成させる。	次週までにパターンを完成させておく	4時間
第9回	<b>裁断、縫製。</b> 完成したパターンを使用して、素材の裁断を行う。	裁断を終えておく	4時間
第10回	<b>縫製の下準備</b> 裁断した素材に芯張り、ロック始末など下準備を終える。	次週までに下準備を終えておく。	4時間
第11回	<b>縫製①</b> デザインしたアイテムを縫製する。	各グループで縫製を進めておく	4時間
第12回	<b>縫製②</b> 仮縫い、チェックを行い、修正する。	修正を終えておく	4時間
第13回	<b>縫製③</b> 縫製を終え、デザインしたアイテムを完成させる。	各グループでアイテム製作を終えておく。	4時間
第14回	<b>プレゼンテーション準備、作品展示案を練る</b> プレゼンテーションをまとめて、作品展示の空間イメージを考える。	プレゼンテーションの準備を進めておく。	4時間
第15回	<b>最終プレゼンテーション</b> すべての内容をまとめてプレゼンテーションを各グループごとに行う。	プレゼンテーションの修正を終えておく。	4時間

授業科目名	<b>家庭経営学</b>				
担当教員名	松岡依里子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	配布資料、教科書、パワーポイントによる講義を行い、補助教材として、視聴覚教材を使用します。さらに、課題についてグループディスカッションを行います。学んだ課題について、家庭で実践し、その遂行につ				

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

私たちは、人口減少時代を迎え、価値観、社会政策の転換など、激動の社会の中に生きている。このような社会の波に流されず、主体的に家庭を営むためには、あふれる情報を適切に取捨選択し、臨機応変な対応力が求められます。本講では、より良く、幸せに円滑に家庭を営んでいくための必要な基礎知識と応用力、実践力を養います。衣食住、生活設計、家族関係も重点的に学習し、現代社会と生活の課題解決できる知識と家庭における実践を必修とします。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	衣食住のみならず、家族関係、生活設計を中心とした生活経営分野の内容を学ぶ。	円滑な家庭経営ができるような知識を身につける。
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		家庭を運営するための基礎知識と技術を実際の生活のなかで実践できる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	40%	： 絵本作成や食事、家計簿など具体的な課題に対して、独自のルーブリックで4段階で評価する。
課題レポート	40%	： 家族や生活設計に対する現代社会の課題と解決法について、独自のルーブリックで4段階で評価する。
振り返りシート	20%	： 授業に対して積極的に参加しているかどうか、独自のルーブリックで2段階で評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・フィービ・ギルマン 芦田ルリ訳「おじいさんならできる」 福音館書店
- ・岩村暢子 「普通の家族がいちばん怖い」 新潮社
- ・村瀬幸浩 「セクソロジー・ノート」 十月舎
- ・神原文子 杉井潤子 竹田美知編 よくわかる現代家族 ミネルヴァ書房
- ・宮本みち子 現代世界の結婚と家族 放送大学教育振興会
- ・臼井和江編著 21世紀の生活経営—自分らしく生きる— 同文書院

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限  
場所： 生活デザイン第2研究室  
備考・注意事項： 授業前後、オフィスアワーで対応します。

### 授業計画

第1回 家庭経営学で何を学ぶか

「家族とは何か」についてレポートを書く。

授業外学修課題にかかると目安の時間

4時間

	現代社会の特質と家庭経営に必要な事項について概観する。社会の中での家庭（空間）、ライフコースおよび生活時間（時間）について学ぶ。		
第2回	<b>現代家族の変容</b> 多様な家庭の形態を知り、現代家族の特徴と機能について学ぶ。グループワークにより、戦後、家族の機能や役割の担い手の変化について考察する。「家族」とは何か、ブレインストーミングを行う。	多様な家族について調べておく。	4時間
第3回	<b>家族の機能—家事労働の変化—</b> 家族の機能について、KJ法により整理し、発表資料を作成する。家事労働について再考する。	発表資料を作成する。	4時間
第4回	<b>家族の機能と社会構造</b> 家族の機能と社会構造との関わりについて、発表する。	振り返りシートを作成する。	4時間
第5回	<b>家庭の経済と生活設計①—経済と家計—</b> 社会の変化が家庭の経済に及ぼす影響について、ライフステージごとに理解し、消費バランスを考察する。	家計簿をつける。	4時間
第6回	<b>家庭の経済と生活設計②—家計簿分析—</b> お金の流れについて家計簿から分析し、合理的に暮らし、経済的に豊かになる方法を考察する。経済と生活設計について学ぶ。	家計簿事後分析を行う。	4時間
第7回	<b>生活と消費の変遷</b> 昭和から平成にかけての消費生活の変化について考察する。DVD資料、書籍などの分析を行う。	分析レポートを書く。	4時間
第8回	<b>消費者のリスク</b> ITの発達による消費生活の変化に対応するために、適切な消費が行われるように、社会にとっても自身にとっても、新しい対応が必要となっている。消費者問題の現状について学ぶ。消費者問題とその背景について知り、消費者行政について考察する。	振り返りシートを作成する。	4時間
第9回	<b>消費者問題と行政のかかわり</b> 消費者問題とその権利ITの発達に伴う生活の変化について再考し、情報セキュリティについて学ぶ。消費者庁のHP資料などを参照し、消費者としてのリスク管理を学ぶ。	消費者問題について調べておく。	4時間
第10回	<b>子どもの貧困</b> 子どもの生活はどのように変わったのかをKJ法により整理する。また現状について概説し、子どもの貧困について学ぶ。子どもの権利と保育小児化社会における子育てについて、社会とのかかわりの中で考察する。児童虐待やいじめと子どもの人権について知る。	振り返りシートを作成する。	4時間
第11回	<b>子どもの教育と経済</b> 子どもへの教育支援の現状から、「子育て」に有効な方法について学ぶ。絵本を通して、子どもの世界観を知る。	課題レポートを作成する。	4時間
第12回	<b>持続可能な食生活</b> 持続可能な食生活で無駄なく、おいしい食事を営むための献立と調理法、素材などの基礎を学ぶ。環境へ配慮しつつ、安心して暮らせる住まいについて理解する。	課題レポートを作成する。	4時間
第13回	<b>持続可能な衣生活</b> おじいさんならできる」の絵本から、衣生活について再考する。大量消費型ライフスタイルのもたらす環境問題や家庭生活が及ぼす影響について知り、循環型社会の実現に向けて、その方略を考察する。	簡単な絵本を作成し、考察する。	4時間
第14回	<b>高齢者の生活と地域のつながり</b> 高齢者の身体と生活について理解し、地域とのつながりについて理解する。日本国健保25条をもとに、社会保障制度について知り、どのように支えられているのかを学ぶ。女性、子ども、障がい者、高齢者などの生活がどのように支えられているのかを知り、課題について考察する。	高齢者の生活についてレポートを作成する。	4時間
第15回	<b>地域社会とボランティア</b> 「ムラ社会」の衰退により、地域の連帯感や生活の共同性が失われつつある。「コミュニティ」について学び、支え合う社会の現状について知る。	ボランティアの可能性について、レポートを作成する。	4時間

授業科目名	<b>保育学</b>				
担当教員名	範 衍麗				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義による授業を中心として行う。子どもとかかわるための教材制作や子どもとの触れ合い遊びの演習、実習も交えて行う。また映像や社会事象に関する事案なども積極的に取り入れていく。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、幼児の心身の発育発達、基本的な生活習慣の確立、事故や病気の手当てなどの知識を学びます。また、幼児のための遊び道具の制作や触れ合い遊びなど子どもとかかわる技術を体得します。現代社会における幼児の生活についての現状と課題を把握し、子育てのあり方を学びます。幼児を取り巻く社会状況の変化について学び、幼児のもっとも身近にいる家族と家庭の在り方、地域や社会の子どもを育てるシステムについても理解を深めます。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

#### 具体的内容：

保育学分野の専門知識

#### 目標：

幼児の発達と生活の特徴などの基礎的な知識を身につける。保育に関する知識・技能を実践の中で活用することができる。

#### 汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力

子どもを理解しつつ、子どもとかかわることを実践的に考えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への理解	30%	: 授業内容を理解し、自己の考えを記述されています。
学習課題	20%	: 指定されたキーワードが含まれて、まとめられています。
小テスト	20%	: 2回小テストを行います。各回は10点満点とします。
最終レポート	30%	: レポートのテーマの正確な理解に基づいて書かれています。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

鯨岡峻「育てられる者から育てる者へ」NHK放送出版協会 2003年 ISBN 978-4140019382 岡野雅子他「新保育学」南山堂 2011年 ISBN 978-4-525-63005-8

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日12:10～13:00  
 場所： 中央館4階第6研究室  
 備考・注意事項： 授業内における質問を行う事。またはメールにて連絡等を行う事。  
 kozakifan@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

第1回	<b>オリエンテーション、保育学とは</b> 保育学を学ぶ意義を理解します。本授業の見通しを得ます。	中学校学習指導要領技術・家庭科の家庭分野の目標や内容を調べます。	授業外学修課題にかかる目安の時間 4時間
-----	---	----------------------------------	-------------------------

第2回	<b>子どもの身体の発育発達</b> 乳幼児の身体の発育について学びます。 幼児期の運動能力の発達について学びます。	子どもの身体の発育発達について調べてまとめます。	4時間
第3回	<b>子どもの精神機能の発達</b> 乳幼児期における知覚や情緒の特徴を理解します。 子どものパーソナリティの発達や社会性の発達について学びます。	子どもの精神機能の発達について調べてまとめます。	4時間
第4回	<b>基本的生活習慣の確立</b> 幼児期の生活リズムや食事など基本的な生活習慣の形成について学びます。	自らの基本的な生活習慣を見直し、1週間の生活チェックを実施しまとめます。	4時間
第5回	<b>基本的生活習慣の確立</b> 幼児期の排泄・清潔・衣服など基本的な生活習慣の形成について学びます。 幼児期の自主性をはぐくむ方法を学びます。	幼児期の基本的な生活習慣の形成と発育発達の関係についてまとめます。	4時間
第6回	<b>事故、病気の予防と応急処置</b> 日常に起こりやすい事故や病気の予防と応急処置について学びます。 乳幼児の一次救命処置を体得します。	一次救命処置の練習をします。	4時間
第7回	<b>遊びを通じた心身の発達</b> 幼児期の遊びの役割について学びます。 発達に即した遊びの指導について考えます。	幼児の発達に相応しい遊びを調べます。	4時間
第8回	<b>子どもとの触れ合い遊び</b> 子どもの触れ合い遊びの意義を理解します。 子どもとの触れ合い遊びを体得し、子どもとのかかわり方を学びます。	授業で体得した触れ合い遊びを子どもと一緒に楽しみます。	4時間
第9回	<b>子どもとのかかわるための教材製作</b> 子どもの発達と遊び道具との関係について学びます。 子どものための遊び道具の製作をします。	遊び道具の製作を完成します。	4時間
第10回	<b>現代の子ども観と親子関係</b> 子ども観とは何かを理解し、様々な子ども観を学びます。 現代の子ども観と親子関係について学びます。	自分の親子関係について振り返ります。	4時間
第11回	<b>子育てと地域活動</b> 地域における子育て支援活動について学びます。	自分の地域にある子育て支援活動について調べます。	4時間
第12回	<b>子育てを支える社会の仕組み</b> 子どもを育てる社会的なシステムの現状を把握します。 保育所、幼稚園、認定こども園などの保育施設について学びます。	保育施設についての理解をまとめます。	4時間
第13回	<b>子どもの生活についての課題と実践</b> 子育て支援の現状や課題について学びます。 子どもの生活についての課題を知り、グループごとに解決案を作成します。	自分の家族に自分を育てる際に苦労したことなどを聞き取ります。	4時間
第14回	<b>家庭・家族の役割</b> 家庭・家族の社会的状況やその役割分担について学びます。 関係発達の視点から育てられる者から育てる者への理解を深めます。	自分が母親と父親の役割についての理解をまとめます。	4時間
第15回	<b>授業の総括とまとめ</b> 本授業での学びを振り返り、学んだことをまとめます。	最終レポートを完成します。	4時間

授業科目名	<b>ショップ経営学</b>				
担当教員名	橋本洋平				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	具体例をあげてわかりやすく講義します。1～4回は、次回授業までにレポートを課します。5回以降は、1項目づつ、企画書（ポートフォリオ）のページ作成を課します。最終回に、企画書（ポートフォリオ）				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

この講義は、小売業において店長など店舗経営を任される立場について必要な経営の基本を習得することを目標としています。内容としては民間企業に就職した場合に役立つ一般的な知識から、自身で経営者となりブランディングする際に必要な知識まで学びます。実際にショップ経営計画を作成しながら、店舗が発展していく為に必要なオリジナリティーのある店舗戦略、論理的な考え方、利益の出し方、計数の見方などをわかり易く学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	就職後に即戦力として活躍するための、店舗経営の基礎や企画書作成およびプレゼンテーション力に関する知識を身につけることができる。	店舗経営の企画書作成およびプレゼンテーションができるようになります。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		オリジナリティーのある店舗戦略、論理的な考え方を身につけましょう。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

#### 評価の基準

： レポート課題の内容によって、基本知識の理解度を判定。ポートフォリオ課題の内容によって、オリジナリティーがあり論理的な考え方であるか、第三者が観て理解しやすく仕上がっているかを判定。

70%

受講態度

： 積極的参加、マナー

30%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

適宜講義で示します

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。具体例をあげてわかりやすく講義します。1～4回は、次回授業までにレポートを課します。5回以降は、1項目づつ、企画書（ポートフォリオ）のページ作成を課します。その回の授業の内容を復習し、次回の授業で企画書の作成が出来るように予習と準備をしておくこと。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 質問は授業の前後に応じる。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>講義の概要</b> 授業を受けるにあたっての注意、授業の概要、ショップ経営におけるデザインの重要性	レポート課題 4時間
第2回	<b>売上高、原価、費用、利益とは</b> 勘定科目、利益の種類、貸借対照表、損益計算表を学ぶ。損益計算書、貸借対照表を用いた経営分析	レポート課題 4時間
第3回	<b>利益を上げるには</b> 損益分岐点の理解と算出	レポート課題 4時間

第4回	<b>基本計画をたてようー1</b> 計画をたてていくプロセスを学ぶ。 「ターゲット」「店舗立地」「価格帯」3つの視点から計画をたてる。	レポート課題	4時間
第5回	<b>基本計画をたてようー2</b> 各自で「独自性のある」ショップ経営計画を作り始めます。 何を？誰に？どこで？販売したいかを決める。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集	4時間
第6回	<b>基本計画をたてようー3</b> 何を？誰に？どこで？販売したいかを「写真」と「文章」で持ってきて、A4の紙にコラージュ（切り貼り）してページを作っていきます。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集	4時間
第7回	<b>ショップ立ち上げについて</b> ショップ立ち上げ時に必要な備品・デザインできる物を知る。 必要経費を算出し、資金調達の手段を学ぶ。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集	4時間
第8回	<b>ショップ備品のデザイン</b> 紙とハサミと色鉛筆などを使って、ショップカード・下げ札等のデザインをする。 フォトショップ・イラストレーターを使用した制作方法を学ぶ。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集	4時間
第9回	<b>webショップについて</b> webショップの仕組みを知る。 webショップのアイデアを考える。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集	4時間
第10回	<b>販促について</b> リピート顧客作りについて学ぶ。 どのような販促活動が、自分の計画に適しているか考える。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集	4時間
第11回	<b>VMDについて-1</b> ビジュアルマーチャンダイジングの基本を学ぶ。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集	4時間
第12回	<b>VMDについて-2</b> VMD-1をふまえて、A4紙でショップ入り口と内部レイアウトのデザインをしてみる。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集	4時間
第13回	<b>アイテムバランス</b> VMDにそって、アイテム構成比率を考える。 消化率を考えて売上目標を設定する。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集	4時間
第14回	<b>アイテムデザイン</b> 仕入れアイテムと自社企画のデザインの違いを知る。 自社企画アイテムのデザインをしてみる。	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集	4時間
第15回	<b>ショップ経営計画のプレゼンテーション</b> A4ファイルにまとめた「ショップ経営計画」をプレゼンテーション	ポートフォリオ作成にむけた予習と資料収集	4時間

授業科目名	<b>創作研究 I</b>				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	最終的に卒業制作作品を制作するため、実技実習が中心となる。適時、プレゼンテーションを行うことで作業の進捗状況、内容の質を確認する。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、個々の個性の確立、創造性の発展、現代性の理解を目的とし、将来、ファッション業界で活躍するために必要な企画力、技術力を高める。各目のコンセプトメイキングからテーマ、ターゲット設定、コンセプト、テーマを表現する洋服のデザイン、パターンメイキング、パターンチェック、サンプリング ファッションショー形式のブランド発表など全過程を経験することにより俯瞰的視野を持った商品企画のできる人材を育成する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	デザイン、制作、ファッションショー構成などファッション業界に必要なスキルを総合的に学び実践することができる。	個々の個性を確立し、創造性を発展させ、現代的なデザインを提案できるようになる。
2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	被服制作に必要なデザイン能力、技術を個々の個性に合わせて学ぶことができる。	自分の個性を被服製作で表現することができる。
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		デザイン、制作、ファッションショー構成などトータルで計画、立案する力を身につける。
2 . DP6. 行動・実践		計画・立案したことを期限内に確実に行動し、実践していく

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

プレゼンテーション

#### 評価の基準

： 個々の個性に基づいたデザインの提案を行い、その世界観を人に伝えることのできるプレゼンテーションができているかどうかを評価します。

50%

トータル作成

： デザインした洋服をシーティングで美しく表現できているかで評価します。

40%

作業進捗管理

： 決められた期限の中で作業を進めることができているを評価します。

10%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時限続きの授業を全15回（合計30時限）実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 2 限  
場所： 生活デザイン第3研究室

### 授業計画

回	授業内容	必要な資料のリサーチ	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>コンセプトメイキング</b> ・自分の個性、好きなものを洋服で表現する為、自分のブランドコンセプトを考える。 ・洋服だけでなく絵画、彫刻、建築など様々な分野をリサーチし、洋服をデザインするための要素をインプットする。	必要な資料のリサーチ	2時間
第2回	<b>コンセプトメイキング</b>	必要な資料のリサーチ	2時間



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンセプトをまとめ、ヴィジュアルで表現する。</li> <li>・コンセプトを表現できるテーマを探す。</li> </ul>		
第3回	<b>洋服をデザインする為のテーマを設定する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のコンセプトを表現するテーマをヴィジュアルで表現する。</li> <li>・テーマからデザインに必要なキーワードを出す。</li> </ul>	必要な資料のリサーチ	2時間
第4回	<b>デザインアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のコンセプト、テーマを表現する洋服のデザインを考える。</li> <li>・絵画や彫刻、建築などこれまでインプットした資料を洋服のデザインという形でアウトプットし、4コーディネートでのデザインを行う。</li> </ul>	必要な資料のリサーチ	2時間
第5回	<b>デザインアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4コーディネートのデザインを行う。</li> <li>・プリント柄や色の組み合わせを考える。</li> </ul>	必要な資料のリサーチ	2時間
第6回	<b>デザインアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディを用いて、3Dでのデザイン研究を行う。</li> <li>・シルエットやボリュームを見つける。</li> </ul>	必要な資料のリサーチ	2時間
第7回	<b>デザインアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3Dでのデザイン研究。</li> <li>・ディテールのデザインを考える。</li> </ul>	自分にあった画材を用意しておく	2時間
第8回	<b>デザインアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた資料を使ってデザイン画へ落とし込む。</li> <li>・自分のコンセプト、テーマにあった描画表現をおこなう。</li> </ul>	デザイン画を進めておく	2時間
第9回	<b>デザイン画を描く</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4体のデザイン画を描く。</li> </ul>	デザイン画を仕上げしておく	2時間
第10回	<b>プレゼンテーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンセプト、テーマ、デザインアプローチ、デザイン画をまとめたブックを作り、プレゼンテーションを行う。</li> </ul>	プレゼンテーション準備	2時間
第11回	<b>1、2体目、パターン制作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2体目のパターン制作を行う。</li> </ul>	必要な材料、資料を集めておく	2時間
第12回	<b>1、2体目、パターン制作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2体目のパターン制作を行う。</li> </ul>	必要な材料、資料を集めておく	2時間
第13回	<b>1、2体目、パターン制作</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2体目のパターン制作を行う。</li> </ul>	パターン制作を終えておく	2時間
第14回	<b>1体目仮縫い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1体目のデザインをトータル縫製する。</li> </ul>	今日の予定を終えておく	2時間
第15回	<b>2体目仮縫い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2体目のデザインをトータル縫製する。</li> </ul>	今日の予定を終えておく	2時間

授業科目名	<b>創作研究Ⅱ</b>				
担当教員名	伊東義輝				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	最終的に卒業制作作品を制作するため、実技実習が中心となる。適時、プレゼンテーションを行うことで作業の進捗状況、内容の質を確認する。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、個々の個性の確立、創造性の発展、現代性の理解を目的とし、将来、ファッション業界で活躍するために必要な企画力、技術力を高める。各目のコンセプトメイキングからテーマ、ターゲット設定、コンセプト、テーマを表現する洋服のデザイン、パターンメイキング、パターンチェック、サンプリング、ファッションショー形式のブランド発表など全過程を経験することにより俯瞰的視野を持った商品企画のできる人材を育成する。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	デザイン、制作、ファッションショー構成などファッション業界に必要なスキルを総合的に学び実践することができる。	個々の個性を確立し、創造性を発展させ、現代的なデザインを提案できるようになる。
2．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	被服制作に必要なデザイン能力、技術を個々の個性に合わせて学ぶことができる。	自分の個性を被服製作で表現することができる。
汎用的な力		
1．DP5.計画・立案力		デザイン、制作、ファッションショー構成などトータルで計画、立案する力を身につける。
2．DP6.行動・実践		計画・立案したことを期限内に確実に行動し、実践していく

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

作品制作	80%	卒業制作コレクション作品デザインの創造性、現代性、作品完成度を評価します。
作業進捗管理	20%	自分の立てたスケジュールに沿って作業を進めているのかなど自己管理できているかを評価します。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であり、週1回2時限続きの授業を全15回（合計30時限）実施するため、平均すると毎週2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日 2限
場所：	生活デザイン第3研究室

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>3体目のパターンメイキング、フライヤーデザイン</b> ・3体目のパターン製作 ・ショーのフライヤーデザインを始める	フライヤーのデザインを考えておく 2時間
第2回	<b>3体目のパターンメイキング、フライヤーデザイン</b> ・3体目のパターン製作	今日の予定を終えておく 2時間
第3回	<b>3体目のパターンメイキング、フライヤーデザイン</b>	今日の予定を終えておく 2時間

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3体目のパターンメイキング</li> <li>・ショーのフライヤーデザインを完成させる</li> </ul>		
第4回	<b>3体目のパターンメイキング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3体目のパターンメイキング</li> </ul>	パターンを仕上げておく	2時間
第5回	<b>3体目の仮縫製</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3体目のデザインをトータル縫製する。</li> </ul>	今日の予定を終えておく	2時間
第6回	<b>3体目の仮縫製</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3体目のデザインをトータル縫製する。</li> </ul>	今日の予定を終えておく	2時間
第7回	<b>3体目の仮縫製</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3体目のデザインをトータル縫製する。</li> </ul>	今日の予定を終えておく	2時間
第8回	<b>3体目の仮縫製</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3体目のデザインをトータル縫製する。</li> </ul>	モデルさんの予定を管理しておく	2時間
第9回	<b>モデルフィッティング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3体をショーで着用するモデルに着せてチェックする。</li> </ul>	パターン修正を行う	2時間
第10回	<b>パターン修正、ファッションショー構成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルフィッティングでの変更点を修正する。</li> <li>・ファッションショーの構成を考えていく。</li> </ul>	ショーの構成案を作る	2時間
第11回	<b>本生地裁断、ファッションショー構成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3体の本生地裁断</li> <li>・ファッションショーの構成を考えていく。</li> </ul>	今日の予定を終えておく	2時間
第12回	<b>縫製、ファッションショー構成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3体の縫製</li> <li>・ファッションショーの構成を考え、必要であればリハーサルを行う。</li> </ul>	今日の予定を終えておく	2時間
第13回	<b>縫製、ファッションショー構成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3体の縫製</li> <li>・ファッションショーの構成を考え、必要であればリハーサルを行う。</li> </ul>	今日の予定を終えておく	2時間
第14回	<b>縫製</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3体の縫製</li> </ul>	今日の予定を終えておく	2時間
第15回	<b>3コーディネートを完成させて、モデルフィッティング、写真撮影</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3体の洋服製作、アクセサリなどのコーディネートなどを完成させる。</li> <li>・アクセサリを含めたすべてのコーディネートをモデルに着せて撮影を行う。</li> </ul>	今日の予定を終えておく	2時間

授業科目名	<b>生活造形実習 I</b>				
担当教員名	小林八千枝				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	授業内容の説明をした後、製作実習を進めていきます。サンプルや、見本等も使い製作に必要な縫製知識、テクニック等実習をしていく都度説明します。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

ファッションに欠かかすことの出来ないアイテムのバッグ（トートバッグ）、帽子を製作することにより、ファッションアイテムの構造を理解し、縫製のスキル、テクニックも習得します。  
出来上がったアイテムにリメイクを施しオリジナル性のある作品に仕上げていきます。  
また、アイテム製作として、オリジナル携帯カバーやコサージュなどの小物も製作していきます。  
出来上がった作品は、着装しコーディネートも考え発表、ディスカッションします。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ファッションアイテム（帽子等服飾雑貨や小物）製作。リメイク作品製作。	製作する事により物の構造を理解し、縫製技術も身に付け、ファッションにおける服飾雑貨の重要性を知る。
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP5. 計画・立案力		オリジナルデザインリメイク案を考え、製作手順も考える。
2 . DP6. 行動・実践		作品製作に必要な資材を揃え作品完成するための手法を考え製作していく。
3 . DP7. 完遂		製作する喜びを感じ、完成させる喜びと達成感を知る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。  
製作課題作品提出されなかった場合は本科目全体の評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	60%	: 課題作品を期日までに完成させ、提出する。
授業内課題発表	10%	: 出来上がった作品を装着し発表（プレゼン）、品評。
受講態度	30%	: 遅刻、早退なく積極的に授業に参加しているか。真剣に作品製作に取り組んでいるか。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「文化ファッション大系 服飾講座1 服飾造形の基礎」  
「文化ファッション大系 ファッション工芸講座1 帽子基礎編」  
オリジナルプリント配布、使用。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1～3時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業前、終了後の授業に関する質問、製作上の疑問点も受けます。

### 授業計画

： 授業外学修課題にかかるとする目安の時間

第1回	<b>実習概要説明</b>  前期の授業内容説明と必用用具等説明。次回から製作する携帯（スマートフォン）カバーのデザインを考える。	携帯カバーのオリジナルデザイン案を考え、使用するt機スタイル考え購入しておく。	3時間
第2回	<b>オリジナル携帯カバー製作。</b>  デザイン案決定。デザインに基づき生地裁断、製作すると同時にミシンテクニック、手縫いテクニックも学ぶ。	再度携帯カバーデザイン案練り直し、完成に向けて必要な物を考える。	2時間
第3回	<b>オリジナル携帯カバー完成、発表（プレゼン） トートバッグデザイン出し。</b> 携帯カバー完成させ、発表。 次回から製作のオリジナルトートバッグのデザイン（大きさ、形等）考える。 生地の要尺出し。	トートバッグデザイン案固める。必要な生地、付属等購入しておく。	3時間
第4回	<b>トートバッグ製作実習1</b>  デザイン案の基づき、トートバッグのパターン製作。 生地裁断。	オリジナルデザインを考えてみる。製作工程を予測してみる。	2時間
第5回	<b>トートバッグ製作実習2</b>  縫製（内ポケット製作。）ステッチの必要性、アイロンテクニックを学ぶ。	製作したトートバッグに施すオリジナルデザインを再度練り直す。	2時間
第6回	<b>トートバッグ完成。オリジナルリメイクを加える。</b> 完成したトートバッグのオリジナルデザインを加えリメイク。 バッグ提出。	デザイン案、リメイク案再度練り直す。	2時間
第7回	<b>トートバッグ完成。発表（プレゼン）</b>  完成したトートバッグのオリジナルデザインを加えリメイク。 バッグ提出。発表。	自分の持っている帽子の形、数をしらべてくる。	1時間
第8回	<b>帽子について。</b>  帽子の種類やデザイン、構造、各部位の名称等帽子について学ぶ。 ヘッドサイズをはかってみる。 帽子に使用するテキスタイルをイメージする。 帽子製作に使用する資材（接着芯等）説明	生地を購入しておく。縫製工程予測しておく。	3時間
第9回	<b>帽子製作実習1</b>  パターン配布。パターン指示説明。生地へのマーキング、裁断。芯貼り。アイロンテクニック実演説明。	ここまでの工程復讐、次回の縫製工程を予測してみる。	1時間
第10回	<b>帽子製作実習2</b>  表地縫製。裏地縫製。つば（ブリム）縫製。 各部位への効果的なアイロンテクニック実演説明。	ここまでの工程復讐、次回の縫製工程を予測してみる。	1時間
第11回	<b>帽子製作実習3</b>  裏地合わせ（中綴じ）の必要性と縫製テクニック実演説明。アイロンの重要性、縫い代の始末、ステッチの重要性とテクニックを学ぶ。	ここまでの工程復讐、次回の縫製工程を予測してみる。	1時間
第12回	<b>帽子製作実習4</b>  びん革（サイズテープ）の必要性説明。 付け方縫製テクニック実演実演、説明。	ここまでの作業工程復讐。	1時間
第13回	<b>帽子製作完成。提出、発表（プレゼン）</b>  仕上げアイロンのかけ方実演説明。帽子完成、提出。 帽子の保存方法について説明。 次回の授業説明。	次回課題作品のコサージュのデザイン案考えておく。必要なテキスタイル、付属等選り購入しておく。	3時間
第14回	<b>コサージュ製作実習。</b>  コサージュ製作実習。パターン配布、説明。 パターンを元に、オリジナルデザイン案加え、コサージュ製作する。 完成、提出。 次回授業説明。	次回従業、プレゼンに向けコーディネート考えておく。	3時間
第15回	<b>発表（プレゼン）</b>  前期授業で製作した作品に合うファッションを考え、作品と合わせたコーディネートで発表（プレゼン）する。	後期までにオリジナルの作品を製作してみる。	4時間

授業科目名	<b>生活造形実習Ⅱ</b>				
担当教員名	小林八千枝				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	授業内容の説明をした後、製作実習を進めていきます。サンプルや、見本等も使い製作に必要な縫製知識、テクニック等実習をしていく都度説明します。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

これまで習得した知識、技術を生かし、ファッションアイテムで欠かす事の出来ないの帽子製作します。出来上がった作品には、リメイクを加えオリジナル性のある作品を製作します。後半の授業では、パンツをスカートにリメイクしたオリジナルスカートを製作します。リメイク製作に使える様々な手芸テクニック（刺繍、スモッキング等）も学びます。出来上がった作品は、装着しコーディネートも考え発表、ディスカッションします。

### 養うべき力と到達目標

#### 確かな専門性

- 1 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

#### 具体的内容：

ファッションアイテム（帽子やリメイク作品）製作。

#### 目標：

製作する事により物の構造を理解し縫製技術も身に付けファッションにおける服飾雑貨の重要性を知る。

#### 汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力
- 2 . DP6. 行動・実践
- 3 . DP7. 完遂

オリジナルデザイン、リメイク案を考え、実現する為の製作上程も考える。

作品に必要な資材を考え揃え、完成させる手法も考える。

製作する過程を楽しみ、完成させる喜びと達成感を知る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。製作課題作品提出されなかった場合は、品科目全体の評価を行わない。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	60%	： 課題作品を期日までに完成させ提出する。
授業内課題発表	10%	： 出来上がった作品を装着し発表（プレゼン）、品評。
授業態度	30%	： 遅刻、早退がなく積極的に授業に参加出来ているか。真剣に作品製作に取り組んでいるか。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「文化ファッション大系 服飾講座1 服飾造形の基礎」  
「文化ファッション大系 ファッション工芸講座1 帽子基礎編」  
オリジナルプリント配布、使用。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1～3時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 授業前、終了後の授業に関する質問、製作上の疑問点も受けます。

授業計画	実習概要説明	次の授業までにデザインに合った生地を考え、選び購入しておく	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	後期の授業内容説明。次回から製作帽子（ハット）のデザイン、縫製工程説明。製作工程等説明。	次の授業までにデザインに合った生地を考え、選び購入しておく	3時間
第2回	<b>帽子（ハット）製作について。</b> 復習も兼ねて帽子のデザインについて学ぶ。 ヘッドサイズを計ってみる。 パターン配布。帽子の構造について説明。作業工程説明。必用資材について説明。 生地へのマーキング、裁断。	帽子の構造を考え縫製工程を予測してみる。	1時間
第3回	<b>帽子（ハット）製作実習1</b> 芯貼り。アイロンテクニック実演説明。表地、裏地縫製。ブリム（つば）縫製テクニック実演説明。ステッチの必要性とテクニック実演説明。アイロンテクニック実演説明。 表地と裏地中合わせ。（中綴じ）の必要性とテクニック実演説明。	帽子の縫製工程を復習しておく。	1時間
第4回	<b>帽子（ハット）製作実習2</b>  縫い代始末。 びん革（サイズテープ）の必要性、付け方実演説明。 効果的なアイロンテクニック実演説明。	作業、縫製工程を復讐しておく。完成した帽子に合うファッションコーディネートを考えてみる。	2時間
第5回	<b>帽子（ハット）製作3 仕上げ、完成。</b>  出来上がったハットにリメイク施し完成、仕上げアイロン。 着装し発表。 今回の授業説明。	帽子製作作業工程復習する。自分の持っている服に使われてる手芸テクニックを調べてみる。	1時間
第6回	<b>リメイクに使える手芸テクニックを学ぶ。</b>  リメイクに使える、刺繍、スモッキング、パイピング等の手芸テクニックを製作しながら学ぶ。 今回の授業説明。	ショップに出かけベレー帽の素材や色等の流行りをリサーチ。製作するための生地考え購入しておく。	3時間
第7回	<b>ベレー製作について。</b> ベレーの構造説明。パターン配布。製作工程説明。 生地へのマーキング、裁断。	ベレー製作工程復習しておく。	1時間
第8回	<b>ベレー製作1</b> 表地各パーツ縫い合わせ。裏地各パーツ縫い合わせ。 アイロンテクニック実演説明。	ベレー帽へ施すリメイク案を考える。	2時間
第9回	<b>ベレー製作2</b> 表地と裏地中合わせ。（中綴じ）の必要性とテクニック実演説明。 縫い代始末実演説明。 びん革（サイズテープ）付け方実演説明。	ベレーに似合うファッションコーディネートを考えてみる。	2時間
第10回	<b>ベレー製作3 仕上げ、完成。</b>  ベレーにオリジナルリメイクを施す完成。 着装、発表。 次回授業説明。	帽子に似合うリメイク作品をイメージしリメイクするパンツを用意しておく。スカートとパンツの構造の違いをかん考える。	3時間
第11回	<b>パンツからスカートへリメイク製作実習について。</b> パンツとスカートの構造の違いについて考える。 各自テーマを決め、帽子にコーディネートするスカートをパンツからリメイクするデザイン案をかんがえる。 パンツ解体、スカートへリメイク製作していく。	リメイクするのに必要な材料、生地などを考え選び用意しておく。	3時間
第12回	<b>パンツからスカートへリメイク製作実習1</b>  デザイン案に近づく様にどんどんリメイク製作していく。 その都度、浮かんだアイデアを加えたりしていってもよい。	雑誌やショップ等でスカートデザイン案がないか意識しておく。帽子とのコーディネート考えておく。	2時間
第13回	<b>パンツからスカートへリメイク製作実習2</b>  リメイク製作していく。 完成に近づけていく。	スカートとパンツの構造の違いをもう一度復讐しておく。	1時間
第14回	<b>パンツからスカートへリメイク製作3 仕上げ、完成。</b>  リメイク作品を着装し、最終チェック。修正があれば修正し、仕上げて完成させる。	帽子と合わせたファッションコーディネートを考え次の授業までに準備揃えておく。	1時間
第15回	<b>発表（プレゼン）品評</b> 製作した帽子とパンツからリメイクスカート合わせたトータルコーディネートし、発表、プレゼン（前期で製作したバッグや、コサージュ等あわせてもよい。）製作についての感想も含め発表、品評する。	製作した作品を身に付けてかけてみよう！	3時間

授業科目名	<b>ネールアート演習</b>			
担当教員名	高尾理恵			
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数 1
授業形態	実習を中心に、ネイルに関する基礎理論を交えながら進行。実習は、デモンストレーション後、相モデルを基本に行います。相モデルで授業を行う為、授業時は付け爪やジェルネイルはできません。自爪で受講し			

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

1 ネイルテクニックの基本であるネイルケアを学び、ネイルケアの重要性や必要性を学びます。技術だけではなく、理論も学びます。そして、爪の構造や爪の病気等も学び、ネイリストとして、施術可能なか医師に託さないといけないのかを判断する力を身につけます。サロンワークの中で大切な消毒管理やお客様へのカウンセリングの仕方等も、カウンセリングシートに基づいて学びます。

2 流行のジェルネイルを取り入れ、ジェルネイルを塗る前に必要なプレパレーションを学び、持ちが良いジェルネイルの塗り方を学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ネイルの基礎を理解し実践していく	手を美しく手入れし、アートまで施せるようになる
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		多くの方の手に触れ経験しネイル技術を実践していく

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

受講態度	40%	: 独自のループリックにより4段階で評価する。
授業態度	30%	: 積極的に実習に取り組み、課題をクリアしようとしているかの観点から、独自のループリックで評価する。
作品作成	30%	: 授業の集大成として、テーマに沿った作品を努力し作成しているかの観点から独自のループリックで評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

JNA テクニカルシステムベーシック  
JNA テクニカルシステム～ジェルネイル～

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるので、平均すると毎時間1時間の授業外学習が求められる。  
教材購入日に指定された教材を購入する必要があります。  
教材が無いと授業が受けられませんので必ずご購入下さい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後  
場所： 授業時の教室  
備考・注意事項： 質問に関しては、授業の前後で対応いたします。

### 授業計画

回数	授業の目標と進め方		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>授業の目標と進め方</b> ・授業の目標と進め方 ・実習に必要な消耗品準備通達 ・爪の形と種類を学ぶ	爪の形の種類5種類を覚える。教材を準備する。	1時間
第2回	<b>教材購入、確認 ネイルケア①</b> ・道具、材料を覚え、衛生的に技術が行われるようにテーブルセッティングを学びます。 ・ネイルケアの手順を覚える	ネイルケアの手順を必ず頭に入れておく事。	1時間
第3回	<b>ネイルケア②</b>	エメリーボードを使用し爪の形を整える	1時間



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エメリーボードの扱い方を学びます。</li> <li>・モデルの手の持ち方やキューティクルプッシュを学びます。</li> </ul>		
第4回	<b>ネイルケア③</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーンナップの仕方を学びます。</li> <li>・ニッパーの使用方法を学びます。</li> </ul>	第3回までの内容を復習する。	1時間
第5回	<b>ハンドマッサージ、パフフィン</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マッサージクリームを用いて、肘から指先までのマッサージを学びます。</li> <li>・爪の表面の磨き方を学びます。</li> </ul>	ハンドマッサージの手順を復習する。	1時間
第6回	<b>爪の構造、爪の病気</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本となる爪の構造を学び理論的にもネイルケアの重要性をも学びます。</li> <li>・爪の病気の種類を学びネイリストとして施術可能か不可能かを見極める力をつけます。的確なアドバイスを行える力を身につけます。</li> </ul>	爪の構造、爪の病気のプリントをも復習する。	1時間
第7回	<b>ジェルネイルの塗り方、オフの仕方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェルネイルを塗る前に必要なプレパレーションを学びます。</li> <li>・ジェルネイルの扱い方、塗り方を学びます。</li> <li>・ジェルネイルのオフの仕方を学びます。</li> </ul>	プレパレーションの復習をする。	1時間
第8回	<b>ジェルネイル フレンチ、グラデーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェルアートの基本となるフレンチ、グラデーションを学びます。</li> <li>・ハケの扱い方をしっかりと学びましょう。</li> </ul>	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習する。	1時間
第9回	<b>ジェルネイル マーブル、タイダイ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェルアートのマーブルの種類を学びます。</li> <li>・同じマーブルでも、ハケの使い方によって色々なマーブル模様をする表現できます。</li> </ul>	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習する。	1時間
第10回	<b>ジェルネイル ピーコック</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・孔雀の羽の様な模様なので、ピーコックと呼ばれている技法のアートを学びます。</li> </ul>	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習する。	1時間
第11回	<b>ジェルネイル フラワー、たらし込みアート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェルアートで最も重要のある、フラワーアートをいくつかの技法に分けて学びます。</li> </ul>	ジェルネイルの扱い方、ハケの扱い方を復習する。次回の授業に必要な道具を準備する。	1時間
第12回	<b>サロンワーク実習①</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン形式で授業を行い、お客様のオーダーを元にカウンセリングを行い、ネイルケア～ジェルカラー～ジェルアートを施す。</li> </ul>	カウセリングシートを完成させておく。次回の授業に必要な道具を準備しておく。	1時間
第13回	<b>サロンワーク実習②</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン形式で授業を行い、お客様のオーダーを元にカウンセリングを行い、ネイルケア～ジェルカラー～ジェルアートを施す。</li> </ul>	カウセリングシートを完成させておく。次回の作品作成でどの様な作品を作るのか決めておくこと。	1時間
第14回	<b>課題作品作成①</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマは各自自由に設定し10本のチップ作品を作成する。</li> </ul> <p>作品には必ずジェルアートの技法を用いること。</p>	次回に提出できる様に課題を進めておく。	1時間
第15回	<b>課題作品作成②</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を完成させ提出</li> </ul>	作品を提出できる様に進めておく。	1時間

授業科目名	ブライダルコーディネート論				
担当教員名	矢野知美				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義・宿題の繰り返しにより、必要な知識を学び、人生の引き出しを増やしていく。各章ごとの宿題発表等により、基礎知識の復習を行う。グループに分かれてひとつの課題話し合うことにより、グループワー				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

ブライダル/ウェディング業界の内容、結婚にまつわる（婚約から挙式・披露宴の流れや一般常識）基礎知識について学ぶ。ブライダルは伝統的な知識も必要であるが、時代の流れによりニーズ・流行の動きがある。その背景を理解し実践にてプランニング力を身につけ、ブライダルの勉強を通じて多種多様なビジネス、将来的にはプライベートでも応用できる内容を学ぶ。グループで協力しあう内容もあり、お互いに協調性・提案力を身につける。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	一般的なウェディングに関する知識	リアルなウェディング資料やインターネット、並びに書籍等の情報をもとに、ウェディング/ブライダルの中身・内容を理解できる
2．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	花嫁目線で実践的内容の分析・理解	収集した情報や学んだ内容を元に、プロのプランナーと同等に話ができるくらいの資料を作成することができる。
汎用的な力		
1．DP5.計画・立案力		自身をモデルに実際の花嫁と同じ目線で計画をスクラップブックに作成する。
2．DP6.行動・実践		会場等に出向き資料をもらったり、食事したり、授業だけでは感じ取れない部分を行動してみる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	50%	宿題発表・資料収集・制作物提出
受講態度	50%	積極的参加・遅刻状況・素直さ・マナー（私語、化粧、居眠り、携帯電話すべて厳禁）

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

ゼクシー（毎月の月刊誌）  
 ウェディングプランナーのための実践マニュアル  
 THE THEORY OF BRIDAL BUSINESS 著書：三本賢治・谷藤進  
 （株式会社ベネフィックスコンサルディング）  
 ウェディングプランナーになる!?!? 著書：桑美奈子（秀和システム）  
 結婚式っておもしろい!?!? 著書：たかはしみき（主婦と生活社）  
 和婚 花嫁衣装&和の結婚式新ルール 著書：飯田美代子（芸文社）  
 婚約と結婚の手帳  
 一21世紀の結婚あなたの疑問に答えます（早わかりガイド） 監修：安部 トシ子  
 大事なところをきちんと押さえる結婚の段取りとしきり 監修：安部 トシ子

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業時の教室  
 備考・注意事項： あらかじめ文面に受付ます。必ず氏名・所属を書くこと。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	<b>オリエンテーション（授業概要説明）</b>  授業時に必要な物（スクラップブック等）の使用方法 授業内容の説明 スタンダードなウエディングを知ってもらう	・まだ実感のないウエディングを少しでも身近な事として感じる為に、実際に結婚式を経験されたご両親やご兄弟や身近な人に、結婚式の事（準備期間や費用、大変だったこと）を聞いてレポートする。  4時間
第2回	<b>挙式・披露宴のスタイル</b>  結婚式の流行と変遷、挙式スタイルの種類、婚礼会場の種類について学ぶ 結婚情報誌から自分がしてみたい会場を選ぶ	・両親や兄弟や身近な人の中で、結婚式を経験された人に挙式スタイルを聞き流行についての調べ、実際の会場（ホテル・ゲストハウス・レストラン）に新規パンフレットをもらいに行ったり、資料請求をしたりしてパンフレットを取り寄せる  4時間
第3回	<b>会場研究</b> 第2回で資料請求して取り寄せた会場のパンフレットを見たり、HPを見ながら皆で研究をします	・自分自身の結婚式で絶対にやりたくない事を10ヶ以上書き出してくる。  4時間
第4回	<b>婚約・結納</b>  婚約とは？ 結納とは？ 必要性も併せて学ぶ 結婚式・披露宴のプランニングについて学ぶ	・両親や兄弟や身近な人の中で実際に結納された方に当時の様子を聞きレポートする・婚約指輪をもらうならどんなものが欲しいかをスクラップしたりデザイン画を描いてくる  4時間
第5回	<b>招待状・ペーパーアイテム</b> 招待状のスタイルや意味、必要性、重要性を学ぶ お祝い切手とは？ その他ウエディングで使うペーパーアイテムの種類等を学ぶ	・実際に自分の時の招待状の文面はどうするか？ デザインも考えてみる  4時間
第6回	<b>引出物・引菓子・プチギフト</b>  引出物・引菓子・プチギフトとはどんな意味がありどんな種類があってお値段帯は？等を学ぶ	・自分の時には、引出物・引菓子・プチギフト（親族・会社関係・友人）を何にするのかこの物にするか等ご両親と話してみたりして考えてくる  4時間
第7回	<b>衣装・美容（ヘア・メイク）</b>  花嫁・花婿の婚礼衣装、ご両親の衣装、来賓の方の参列衣装の種類や常識を学ぶ 花嫁の美容について学ぶ	・どのような衣装を着たいか、どんなヘアメイクをしたいかを考え、雑誌から切り抜いたりインターネットからプリントアウトしたりしてスクラップする  4時間
第8回	<b>装花全般・テーブルプラン</b>  花嫁の持つブーケの種類や意味や内容を学ぶ その他パーティースタイルのテーブルプラン、テーブルコーディネートと会場装花についても学ぶ	・どんなブーケを持ちたいかを考え、雑誌から切り抜いたりインターネットからプリントアウトしたりしてスクラップする  4時間
第9回	<b>プランニングステージの業務</b>  会場の受付・お料理・お飲物・ウエディングケーキ、ディレクションステージの知識を身につける	・実際にレストランに食事に行った際には、テーブルコーディネートを等意識して見てみる・自分の時は何料理がいいか等家族で話してみてもめてくる  4時間
第10回	<b>ブライダル商品の基礎知識</b>  司会・演出・音楽・写真・ビデオ等の基礎知識を身につける 挙式のBGM、讃美歌、披露宴のBGMを学び実際にあてはめてみる	自分の、①生まれた時の赤ちゃんの時の写真 ②幼少期（小学校低学年）の一番思い出深い写真 ③とびっきりの笑顔の写真 ④大嫌いな写真・見たくもない写真 ⑤今までで一番【思い出深い】写真 ※例：大切な人との写真など 計5枚を必ずスクラップブックに貼ってくる  4時間
第11回	<b>アルバムセラピー</b>  マリッジブルーになる新婦様に、今の時間を一旦止めて「過去の自分」に会いに行ってもらい、ご自分の“大切なもの”を見たり気付いたり再認識したりしていただくために行う【アルバムセラピー】を実際に体験してみる	・将来結婚が決まった自分に宛てた 今の自分からの手紙を書いてくる（発表はありません） ・結婚式で使いたい音楽をピックアップしてみる  4時間
第12回	<b>結婚式当日の流れ①</b>  結婚式当日の施工・実施から ウエディングに携わる人（ウエディングプランナーを先頭に沢山のスタッフ）当日のサービススタッフのそれぞれの職務について学ぶ アテンダーの業務、式、サービスのマニュアル、婚礼会場を取り巻くビジネスについて学ぶ	・日頃 食事に行った際のスタッフのサービスからブライダルのサービスについて、違いと関連のあるところを探求する ・美容・衣装・装花・演出など、ブライダルの中で1番興味があることについて探求する  4時間
第13回	<b>結婚式当日の流れ②</b>	・結婚式で使いたい音楽として選んだ曲の歌詞の意味等を考え、選んだ理由や好きな部分を書き出してくる ・音源がある場合は次回持ってくる  4時間

	結婚式当日一日の挙式・披露宴の流れや進行を学ぶ 司会進行をするMCの仕事も学ぶ		
第14回	<b>プランニング実習</b>  実際の新郎新婦が打合せ時に使う進行表に、音楽や進行をプランニングしてみる。仕上げて発表できるように準備する	本日の計14回までの授業内容で、もう少し深く知りたい事や、学びたい事、もう一度聞きたい質問を考え書きだしてくる	4時間
第15回	<b>プランニングまとめ・討論</b>  14回学んだ中で、感じたり思ったりした結婚・挙式・披露宴についての討論会・質問会 制作スクラップブック完成・提出	討論した内容を比較し、新郎新婦によって結婚式は十人十色、10組20色であることを知る。	4時間

授業科目名	<b>染色加工学</b>				
担当教員名	澤田和也				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	基本的に講義形式で授業を行い、実物の紹介や映像による視覚的な理解を深めることに重点に置く。また、毎回授業の最後に、演習としてその授業において解説した重要事項についてのミニレポートを実施し、成 開放科目の指示：「可」				

### 授業概要

我々の身のまわりには非常に多くの染色された衣料品があり、その色彩は、デザインや柄と共に衣料品を評価する際の非常に重要な要素の一つである。一方、染色と言ってもその手法やメカニズムは多岐にわたり極めて複雑である。本授業では、このような日常生活と密接に関連している衣料品の染色についての理解を深めるため、「色の特性」、「染料の構造と特徴」、「染色後の種々の堅牢性」、「伝統工芸染色と工業染色」、「種々の加工方法」、「未来の染色技術」などについて、染色加工工程全般に関しての概略を説明する。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b> 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	<b>具体的内容：</b> 染色プロセスの中でも特に、染色性の特性差に重点を置き、その内容についての専門知識を身に付けることができる。	<b>目標：</b> 染色物の色落ち、色泣き、脱色、退色、汚染現象について、その現象を自身で考え原因究明ができるまでの能力を身に付けることができるようになる。
<b>汎用的な力</b> 1 . DP4. 課題発見		染色加工工程で生じる諸現象について、現状も問題点と将来への課題を考察する能力を身に付けることができるようになる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

ミニレポート

#### 評価の基準

： 毎回5点満点として15回実施し、総計を60点満点に換算する。自己の考えを含めて詳細に記載されている(5点) 講義内容のみから記載されている(3点) 論点が的確ではない。(1点)

60%

特定テーマに対する課題考察力

： 2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して20点×2回の40点満点で評価する。社会的背景も含めて考察出来ている(20点) 授業内容のみで考察出来ている(10点)

40%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

「ファッションと化学」日本化学会編(大日本図書)「染色概説」矢部章彦・林雅子(光生館)

### 履修上の注意・備考・メッセージ

日常生活において生じる着色された衣料品のさまざまなトラブルに対して、普段何気なく見過ごしている現象を再認識し、それを防ぐことも視野に入れた授業でもある。本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日(1限)  
 場所： 生活デザイン第1研究室  
 備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

### 授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>染色の基礎事項(色素材料)</b> 衣服の染色に用いる染料と、着色に用いる顔料の相違は何か、両者により色付けされた衣料品はどのような特徴があるかについて説明し、色素と染色の概略を解説する。	4時間
第2回	<b>染色の基礎事項(前処理)</b> なぜ、染色の前処理工程が必要かについて理解し、復習しておく。	4時間

	染色のために行われている精練や漂白等の前処理を行う意味について理解する。これらの工程を省いた場合にどのような影響が出るかを理解できるように解説する。		
第3回	<b>染色の基礎事項（染色用水）</b>  染色後に排出される大量の汚染排水について考える。過去と現在の状況を解説し、着色排水の処理にどのような工夫がなされているかについて解説する。	以前と現在の染色排水と環境汚染の問題、将来の課題について考えることができるようになる。	4時間
第4回	<b>染料の特徴（染料の種類）</b>  様々な種類に分類される染料を系統的に分類して、その特徴を説明する。特に、天然染料と化学染料の類似点と相違点について重点をおき解説する。	染料の構造上の分類分けができるようになる。	4時間
第5回	<b>染料の特徴（染着について1）</b>  直接染料、建染染料、ナフトール染料、硫化染料、反応染料のそれぞれの特徴について解説し、繊維との染着メカニズムについて解説する。	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であることを理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に対して染着しているかを理解する。	4時間
第6回	<b>染料の特徴（染着について2）</b>  酸性染料、酸性媒染染料、金属錯塩酸性染料のそれぞれの特徴について解説し、繊維との染着メカニズムについて解説する。	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であることを理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に対して染着しているかを理解する。	4時間
第7回	<b>染料の特徴（染着について3）</b>  カチオン染料、分散染料のそれぞれの特徴について解説し、繊維との染着メカニズムについて解説する。	繊維と染料の組み合わせが極めて重要であることを理解し、そのようなメカニズムで染料が繊維に対して染着しているかを理解する。	4時間
第8回	<b>染色加工（天然繊維の浸染1）</b>  天然繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。特に、セルロース系の繊維を染色する際の工程の特徴について解説する。	染料の種類だけでなく、繊維の種類によっても染色手段が変わることを理解する。	4時間
第9回	<b>染色加工（天然繊維の浸染2）</b>  天然繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。特に、タンパク質系の繊維を染色する際の工程の特徴について解説する。	染料の種類だけでなく、繊維の種類によっても染色手段が変わることを理解する。	4時間
第10回	<b>染色加工（化学繊維の浸染1）</b>  化学繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。この授業では、アクリル系繊維の染色にターゲットを絞り、その染色工程について解説する。	同じ浸染でも天然繊維とことなる染色について理解する。	4時間
第11回	<b>染色加工（化学繊維の浸染2）</b>  化学繊維の全体染めである、浸染手段について概説する。この授業では、合成繊維の染色にターゲットを絞り、その染色工程について解説する。	同じ浸染でも天然繊維とことなる染色について理解する。	4時間
第12回	<b>染色加工（捺染）</b>  プリント染と呼ばれる、捺染の技術について講義する。特に、フラットスクリーン捺染、ローラー捺染等、代表的な捺染の手段について解説し、それぞれの手段の詳細について触れる。	浸染と捺染の相違を理解する。	4時間
第13回	<b>染色加工（印刷）</b>  近年需要が拡大されているインクジェット染色の概要について講義する。従来の顔料による印捺との相違や今後の展望等を解説する。	従来と異なる新しい染色法であるインクジェット染色の特徴を理解できるようになる。	4時間
第14回	<b>将来の染色技術</b>  現在研究されている新しい染色技術、あるいは試験的にすでに実用化されている将来の染色技術について概説する。	現在の染色の問題点等を理解し、今後の方向性を考えることができるようになる。	4時間
第15回	<b>カラーリングの総括</b>  色素の一種である染料と身の回りの着色物質について総まとめをする。	日常生活において、着色物を扱う基礎的知識をまとめることができるようになる。	4時間

授業科目名	<b>住居学</b>				
担当教員名	山下麻子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	・講義が中心になります。しかし、一方向的な講義に終わるのではなく、学生同士や学生と教員の議論も取り入れます。         ・計3回の実技課題も取り入れ、より身近に住居学を学んでもらいます。         ・毎回授				

開放科目の指示：「可」

### 授業概要

本授業では、①住生活の歴史や世界における住生活の違いを学ぶ。②快適な住生活を維持するための基礎的知識を習得し、生活における要素を分析・観察しながら、現代に求められる住居について考えることを目指します。高齢化社会など社会が抱える問題にとっても住生活が担う役割は大きく、いかなる環境が快適で効率的なのかを各自が分析し考察出来るようになることが本授業の目的です。自らが自らにとって快適な生活を作り上げていくことの重要性を理解してもらいたい。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1. 幅広い教養やスキル	住生活理解	住生活の基礎知識：住生活に必要な要素を理解し、図面を読み解くことが出来る。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		環境に応じた住生活の必要要素を見いだすことが出来る観察力を身につける。
2．DP5. 計画・立案力		必要要素に応じて、改善すべき点や新たな観点を分析し組み立てることが出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

※原則3分の2以上出席した場合のみ成績評価の対象となる。

#### 成績評価の方法・評価の割合

各回の授業内小レポ？ート

60%

実技課題

40%

#### 評価の基準

各回1~4点で評価し、合計60点満点とする。  
授業内容を踏まえた論述ができていれば3点とし、そこに独自の見解や具体例等が示されていれば4点、一般論としての論述ができていれば1~2点とする。

課題A, B: 1~10点、課題C: 1~20点で評価し、合計40点満点とする。  
授業内容を踏まえ、独自の見解が示されているかにより評価する。  
上記評価の観点に基づいて、総合評価が60%を超えた場合に合格とする。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
定行まり子・沖田富美子	生活と住居	光生館	2013年

### 参考文献等

授業中に適宜紹介。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。レポートや最終試験では、自分の意見が示せていることを特に重視します。授業担当者の言葉たけて？なく、受講している他の学生の意見に積極的に耳を傾けてくた？さい。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：連絡をとりたい場合はEメールにて(アドレス：asako@geneto.net)。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

### 授業計画

授業外学修課題にかかるとの目安の時間

第1回	<b>ガイダンス 住居学について考える</b> 住居学が踏まれる役割を考える。 住居の持つ様々な要素を解説する。	自宅の間取り図を描いてくる	4時間
第2回	<b>自分の暮らしから住生活を学ぶ</b> 現在の住居の生活空間について考える。 自宅の間取り図から分かることを発表する。	自宅間取り図を再度見直す。教科書p16-17を読んでくる。	4時間
第3回	<b>住居の歴史①古代のすまい</b> 日本の気候の特徴と古代の住宅の歴史を学ぶ。 気候や風土の及ぼす影響を学ぶ。	教科書p18-27を読んでくる。	4時間
第4回	<b>住居の歴史②中世・近世のすまい</b> 平安時代以降のすまいを学び、現代のすまいに伝わる特徴を知る。 それによって日本に適した住まいを知る。	平安以降の住まいの特徴が自宅にも反映されているか確認してくる。教科書p28-30を読んでくる。	4時間
第5回	<b>住居の歴史③近代のすまい</b> 近代以降、戦前までのすまいの間取りの変遷を学ぶ。 新しい文化、文明の導入がどのような影響を及ぼしたか考察する。	教科書p30-37を読んでくる。	4時間
第6回	<b>住居の歴史④現代のすまい</b> 終戦後、大きく変化したライフスタイルとすまいについて学ぶ。 歴史的な背景が住居に及ぼした影響を考える。	折り込み広告などで入っている賃貸や不動産のチラシを1枚選んでくる。	4時間
第7回	<b>すまいの計画・設計①間取り</b> 住居に必要な機能を整理する。 ゾーニングや動線の基本を理解する。	教科書p78-79を読解してくる。	4時間
第8回	<b>すまいの計画②図面の見かた</b> すまいの図面を理解できるための基礎的な記号を学ぶ。図面の種類を知る。 教科書p78-79に載っている平面図を手順に従って描く。	壁厚を書き込むところまでは完成させる。	4時間
第9回	<b>すまいの計画③図面を読む</b> 平面図の残りの部分を書き込み完成させる。 さまざまな平面図をみて、暮らし方、良いところ、悪いところを図面から読み取る。	平面図を完成させてくる。	4時間
第10回	<b>ゾーニング①教室を自宅に見立ててゾーニング（実技課題A）</b> 先週に続き、さまざまな平面図をみて、暮らし方、良いところ、悪いところを図面から読み取る。 また、これまで学んだことを元に、自分の住空間に必要な要素を考えてみる。	教室を自宅と見立ててゾーニングしてくる。	4時間
第11回	<b>ゾーニング②ゾーニングのプレゼンテーション（実技課題A）</b> 教室を自宅と見立てて、ゾーニングに取り組み各自発表する。 ゾーニングを通して自分のライフスタイルも分析する。	他の人の案がどうだったか各自振り返る	4時間
第12回	<b>魅力ある住空間の見せ方①住空間のポイントを探る（実技課題B）</b> 自らが自らにとって快適な住空間を目指すために、何が自分にとって重要な住空間のポイントなのか伝える術を学ぶ。	生活の中で自分の好きな空間を選び、何故好きなのか分析しておく。撮影もしておく。	4時間
第13回	<b>魅力ある住空間の見せ方②ポイントのプレゼンテーション（実技課題B）</b> 撮ってきた写真を発表し、伝えたいことが表現出来ているか、見た人はどう思うのか考察する。	自宅の問題点を挙げてくる。	4時間
第14回	<b>自宅改造①（実技課題C）</b> 快適さとは熱環境や光など様々な要因が絡んでくる。 そこで自宅の問題点を挙げ、どうすれば改善出来るのか考える。 これまでの実技課題を振り返りながら、自宅の改善案をプレゼンボードにまとめる。	プレゼンボードを仕上げてくる。	4時間
第15回	<b>自宅改造②（実技課題C）</b> プレゼンテーション・講評	プレゼンした案の実践出来る部分を実践する。	4時間



授業科目名	インテリアコーディネート論				
担当教員名	青木順子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義ではテキスト・プリントを使用し、普段何気なく見ている、色・素材・空間についての理論的な知識を深める。素材は実物を見て、また手にして実感できる授業とする。講義で得た知識をもとに授業内演				

開放科目の指示：「可」

## 授業概要

インテリアコーディネートをするには、感性だけでなく膨大な商品知識が必要です。インテリアの色彩・素材・空間に関する知識を身に着けると空間の細部が見えるようになります。今まで感性だけで評価していた空間構成を理論的に理解することが出来、その知識を土台に更に感性を生かすことが出来るようになります。またインテリアに必要な各種の図面の読み取りを習得して、図面を理解し、心地よい暮らしの空間の提案や創造ができる技術を学びます。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	インテリア・建築に関する知識	空間に使用されている材料や商品の名称が分かり、自らも空間を提案することができる。
汎用的な力		学んだ知識を利用して空間の提案を完成することができる
1 . DP7. 完遂		

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

受講状況

### 評価の基準

： 受講態度（受講マナーや私語、携帯電話の使用などは減点）、授業で使用するプリントへの書き込みなどを独自のルールを基に総合的に評価する

15%

課題

： 7回の演習課題とレポートに対して各回5～8点、合計50点満点で評価する

50%

定期考査

： 定期考査は筆記試験を行う。教科書などの持ち込みは認めない。

35%

## 使用教科書

指定する

著者

宮後 浩

タイトル

・ やさしいインテリアコーディネート

出版社

・ 学芸出版社

出版年

・ 2008年

## 参考文献等

- 「インテリアの計画と設計」 彰国社
- 「インテリアコーディネーターハンドブック技術編」 産業能率大学出版部
- 「はじめてのインテリアコーディネート」 学芸出版社

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習する。次回授業の予習としてテキストに目を通し、既知の知識と未知の知識を判別し学習すべき内容を明確にしてから授業に出席すること。授業内マナーを守ること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業時の教室

## 授業計画

第1回

オリエンテーション、インテリアコーディネートとは

レポート課題。次回に該当するテキスト（P6）を確認し既知と未知を分ける

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	<p>講師紹介を行う。          今後の授業の進め方と評価の方法を説明する。          インテリアコーディネーターとは、インテリアコーディネーターの仕事とは何かを知る。          学生のインテリア用語の知識を調査する</p>		
第2回	<p><b>インテリアを構成する要素</b>          インテリアを構成する6要素について学ぶ。</p>	次回に該当するテキスト（P7）の通読	4時間
第3回	<p><b>色彩①色彩の基本</b>          色相・彩度・明度の基礎を学ぶ          それらの差異によっておこる様々な効果について理解する。配布された材料を使ってトーン図を作成する。          トーンとイメージが結びつくように演習を行う。          作成したトーン図にあうようにイメージワードを書き込む</p>	次回に該当するテキスト（P10～P12）を通読	4時間
第4回	<p><b>色彩②カラースキーム（色彩計画）</b>          室内空間を色彩計画する基本ルールを学ぶ。          自分でイメージを設定した空間を着色する</p>	課題（カラースキーム）。次回使用するプリントを通読	4時間
第5回	<p><b>照明①日本のあかり</b>          「陰影礼賛」より日本のあかりの歴史について学ぶ。陰影の魅力を探る。          照明器具の取り付け方による分類とその名称を理解する</p>	今回の該当テキストを通読（P62～P63）、課題（照明器具調査）	4時間
第6回	<p><b>照明②光源（ランプ）の種類、照明計画</b>          照明器具の光源（ランプ）の種類と特徴を学ぶ。          住宅の各室の照明計画の相違について学ぶ</p>	次回使用する資料の通読	4時間
第7回	<p><b>照明③配線図面作成</b>          配線図面の記号を学ぶ。あたえられた課題の部屋に照明を計画し、図面に表記する</p>	課題（製図）。今回の該当テキスト（P29～P39）の通読	4時間
第8回	<p><b>インテリアの仕上材①仕上表</b>          仕上げ表の見方を学ぶ。仕上材選定の注意点を理解する。内装（床・壁・天井）に使用される種々材料を知る。</p>	次回資料プリントの通読	4時間
第9回	<p><b>インテリアの仕上材②木</b>          日本の森林の現状を知る。仕上材に使用される多種多様な天然の木材の特徴について理解する。          サンプルに触れることで印象を深める仕上げ表の見方を学ぶ。</p>	次回資料プリントの通読。課題（木の利用）	4時間
第10回	<p><b>インテリアの仕上材③畳</b>          畳の歴史、使われ方、自然素材ゆえの長所・欠点を理解する。</p>	課題（畳の利用）	4時間
第11回	<p><b>インテリアの仕上材③左官・クロス</b>          伝統的塗り壁の特徴を知る。          クロスが普及した原因と長所を考える          サンプルを見て触ることで印象を深める</p>	今回の該当テキスト（P25～P28）を通読する	4時間
第12回	<p><b>インテリアの構成①建具</b>          ドア・ふすま・障子など開口部の種類と特徴を学ぶ。</p>	次回該当テキスト（P56）を通読する	4時間
第13回	<p><b>インテリアの構成②和室</b>          伝統的な和室の歴史・構成について学ぶ。</p>	次回該当箇所のテキスト（P45～P47）を通読、課題レポート	4時間
第14回	<p><b>インテリアの構成③窓・ウインドウトリートメント</b>          窓サッシの種類、それを装飾するカーテン・ロールスクリーン・ブラインドなどの種類・使用方法・特徴について学ぶ。</p>	今回の授業の復習。次回の総まとめにむけて今までの資料プリントやノートを読み返しておく	4時間
第15回	<p><b>まとめ</b>          インテリアの名称、素材の特徴について総復習し理解度を確認する。</p>	テキスト、資料プリント、ノートを読み返しておく	4時間

授業科目名	<b>ファッションコーディネート論</b>				
担当教員名	小谷 秀子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義では主に教科書やパワーポイントを使用します。またファッション雑誌を持参してもらい、プリントを使用したワーク作業や実際に服や小物アクセサリを使いコーディネート演習も行います。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

ファッションコーディネート論では、スタイリングの際に必要なシルエット・ディテール・カラー・素材の組み合わせ方を学びます。お似合いになるアイテム選びの他に体型カバーのコーディネートテクニックを習得することで幅広いスタイリング力を身につけることができます。また、お客様のファッションニーズを把握するファッション感性（タイプ別、年齢別）やスタイリング全体のイメージを表すルックスなどコーディネートの専門知識を学ぶことができます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を实践で発揮する力	コーディネートに必要な専門知識	コーディネートに必要な4つの要素を理解し、トータルコーディネート提案できる技術を身につける
汎用的な力		体型カバーを理解し、幅広いコーディネート力を身につける。 お客様のファッションニーズを理解し、コーディネート提案できる。
1．DP4. 課題発見		
2．DP5. 計画・立案力		

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業への取り組み	30%	： 授業への積極的参加、授業態度（受講マナーや私語、忘れ物、携帯電話など授業の妨げになる場合は減点）を総合的に評価する。
授業内課題	50%	： ファッション雑誌などを使用したペーパープランの作成。
プレゼンテーション能力	20%	： 体型カバーの演習（第9回）にて具体的に分かりやすく効果を取り入れ、コーディネート説明ができていないか評価する。

### 使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本山光子	・ ファッション・スタイルプランニング	・ ファッション教育社	・ 2009年

### 参考文献等

コーディネートテクニック 演出編/文化服装学院/文化出版局

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後  
場所： 授業時の教室  
備考・注意事項： 質問は授業の前後に対応します。

授業計画			授業外学修課題にかかると自らの時間
第1回	<b>オリエンテーション・コーディネートの概要とファッション用語</b> 講師紹介、シラバスの説明を行う。その後、コーディネートの必要性と役割・ファッション用語の知識・シルエットによるコーディネートテクニックをパワーポイントにて解説する。	次回に該当する教科書P177～P187を読んでくる。	4時間
第2回	<b>ディテールの取り入れ方</b> 服の細部を理解し、ディテールによるファッションイメージの違いを分析する。「ディテールの選び方」をテーマにファッション雑誌を使用し、ペーパープランを作成する。	ペーパープランを仕上げる。	4時間
第3回	<b>素材の組み合わせ方</b> ・同素材、異素材の組み合わせ・プリント柄の選び方・質感によるファッションイメージの違いを理解する。その後ファッション雑誌を使用し、ペーパープランを作成する。	ペーパープランを仕上げる。次回に該当する教科書P101～P109を読んでくる。	4時間
第4回	<b>カラーコーディネート</b> 色の組み合わせ方とその特徴を理解する。ファッション雑誌を使用し、コーディネートでよく取り入れる配色を解説する。	ペーパープランを仕上げる。次回に該当する教科書P110～P112を読んでくる。	4時間
第5回	<b>人を対象としたカラー選び</b> 実際にカラードレープを使い、色がどのように顔色を変化させるのかデモンストレーションをしながら解説する。	次回に該当する教科書P188～P192を読んでくる。	4時間
第6回	<b>小物アクセサリーの知識と演習</b> 小物アクセサリーの選び方と注意点を学び、その後スカーフ・ストールの巻き方を実習する。	次回に該当する教科書P112～P122を読んでくる。	4時間
第7回	<b>全体的な体型カバーのコーディネート</b> 体型を全体的な角度でチェックしスタイルアップに繋げる。ファッション雑誌を使用し、体型カバーを取り入れたペーパープラン作成する。	再度、教科書P112～P122を読んでくる。	4時間
第8回	<b>部分的な体型カバーのコーディネート</b> 体型を部分的な角度でチェックしスタイルアップに繋げる。ファッション雑誌を使用し、部分的な体型カバーを取り入れたペーパープラン作成する。	次回、プレゼンテーションに必要な服、小物アクセサリーを用意し、発表できる準備をしてくる。	4時間
第9回	<b>体型カバーのコーディネート演習</b> グループを組んで実際に体型カバーのコーディネートを行い、グループごとにプレゼンテーションを実施する。	次回に該当する教科書P91～P94を読んでくる。	4時間
第10回	<b>様々なルックス</b> 着こなしの表現方法を様々なルックスから捉える。	次回に該当する教科書P71～P90、P95～P100を読んでくる。	4時間
第11回	<b>主なファッションタイプと年齢によるコーディネートの嗜好の違い</b> ・ファッションタイプ・マインドエイジ・ファッション感性8分類について学び、嗜好の違いを理解する。	次回に該当する教科書P40～P55を読んでくる。	4時間
第12回	<b>オケージョンスタイリング</b> オケージョンスタイリングを学び、その後イメージターゲットを設定。次のシーズンに対応できるライフスタイル別のコーディネート提案をペーパープランにて作成する。	次回に該当する教科書P56～P72、P126～P135を読んでくる。	4時間
第13回	<b>ライフスタイル別コーディネート提案</b> 前回の授業内容であるペーパープランにコーディネート説明をふまえて完成させる。	ペーパープランを完成させる。	4時間
第14回	<b>メンズのコーディネート</b> ・ジャケットの種類・スーツの着こなし方・ネクタイの結び方、ポケットチーフの折り方を実習する。	講義内容を復習し、メンズの売り場をリサーチしておくこと。	4時間
第15回	<b>スタイリングに必要な要素のまとめ</b> スタイリングに必要な4つの要素を総復習する。	総復習を行うこと。	4時間

授業科目名	<b>調理学実習 I</b>				
担当教員名	坂根 正史				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、調理を行う上で最も重要である『調理の基本』を、日本料理・西洋料理、並びに中国料理を代表する基本的な料理を実習（実践）することによって学びながら、それらのジャンルを越えた基本的な調理作業のポイントや、素材別の調理の際における特性、並びにその取り扱いに際しての注意点を学ぶと共に、盛り付けの際の基本的なポイントに至るまで、素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本を、トータルの学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	『調理の基本』に関する知識・技能	素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能を理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	『調理の基本』に関する知識・技能の実践力	素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能を実践することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能を実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

実技テスト	40%	： 本授業で学んだ技術を活用し、ワンセルフ形式にて指定した料理の調理を行い、その料理の出来栄を独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業内課題	40%	： 本授業で学んだ知識に関する確認テストを実施し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講状況	20%	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 [授業外学修課題] に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 また、[授業内マナー]、並びに[実習授業時の心得え]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜1限
場所：	フードコーディネーター研究室（本館3階）
備考・注意事項：	上記の時間帯以外にも研究室にいることはありますが、不在の場合には、メールでも対応します。 なお、メールを送信する場合は、件名に[学籍番号・名前]、本文に[内容]を明記するようにしてください。 ※メールアドレス sakane@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

第1回	調理実習の心得と、調理実習室の利用方法等	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	授業外学修課題にかかる目安の時間
	1. 2年間の調理実習関連の授業受講における心得 2. 調理実習室の利用方法（使用方法）について 3. 調理機器・器具の使用について		1時間

第2回	<b>日本料理と西洋料理のだし汁について</b> 1. 日本料理における“だし汁”について学ぶ。 2. 西洋料理における“だし汁”について学ぶ。 3. 日本料理と西洋料理の“だし汁”の違いについて学ぶ。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第3回	<b>[1] - 1 基本的な日本料理</b> 1. “鶏の和風から揚げ”を主菜として調理。 2. “副菜1品・ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第4回	<b>[1] - 2 基本的な日本料理</b> 1. “肉じゃが”を主菜として調理。 2. “副菜1品・ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第5回	<b>[1] - 3 基本的な日本料理</b> 1. “魚の照り焼き”を主菜として調理。 2. “副菜1品・ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第6回	<b>[1] - 4 基本的な日本料理</b> 1. “かつ丼”を主菜として調理。 2. “副菜1品・汁物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第7回	<b>[1] - 5 基本的な日本料理</b> 1. “さばの味噌煮”を主菜として調理。 2. “副菜1品・ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第8回	<b>[2] - 1 基本的なイタリア料理</b> 1. “スパゲッティニ アマトリチャーナ [パスタ料理]”をメインの料理として調理。 2. “魚料理1品・ドルチェ1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第9回	<b>[2] - 2 基本的なイタリア料理</b> 1. “ミラノ風カツレツ [肉料理]”をメインの料理として調理。 2. “パスタ料理1品・ドルチェ1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第10回	<b>[2] - 3 基本的なイタリア料理</b> 1. “スパゲッティ カルボナーラ [パスタ料理]”をメインの料理として調理。 2. “肉料理1品・ドルチェ1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第11回	<b>[3] - 1 基本的な中国料理</b> 1. “エビのチリソース炒め”をメインの料理として調理。 2. “ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第12回	<b>[3] - 2 基本的な中国料理</b> 1. “八宝菜”をメインの料理として調理。 2. “ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第13回	<b>[3] - 3 基本的な中国料理</b> 1. “焼き餃子”をメインの料理として調理。 2. “副菜1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第14回	<b>学外授業 [テーブルマナー研修会 &lt;洋食&gt;]</b> 1. 外部施設 (ホテル) にて実施。 2. 講師、並びに料理を外部施設 (ホテル) にご手配いただき、会食をしながら実施。 3. [その他] 2回生によるサービスにて実施。	学んだ内容をレポートにまとめて提出	1時間
第15回	<b>実技テスト ・ 授業内課題</b> 【実技テスト】 この授業内で学んだ1品を、すべての作業を一人で行う“ワンセルフ実習”形式にて実施。 【授業内課題】 この授業内で学んだ調理手順・調理作業とそのポイント・調理用語等に関する確認テストを実施。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間



授業科目名	<b>調理学実習Ⅱ</b>				
担当教員名	坂根 正史				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実習				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

本授業では、調理学実習Ⅰの授業において、日本料理・西洋料理、並びに中国料理を代表する基本的な料理を実習（実践）することによって学んだ『調理の基本』、並びに基本的な調理作業や、素材別の調理の際における特性、及びその取り扱いに際しての注意点や、盛り付けの際の基本的なポイントをベースとし、各ジャンルにおけるワンランク上の応用料理を実習（実践）することにより、調理法の応用力を習得し、オリジナルメニューの作成ができるようになるスキルを学びます。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	『調理の基本』に関する知識・技能の応用	素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能の応用を理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	『調理の基本』に関する知識・技能の実践力の応用	素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能の応用を実践することができる。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		素材から料理として完成させるまでのすべての工程における基本的な知識・技能の応用を実践することができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

実技テスト	40%	： 本授業で学んだ技術を活用し、ワンセルフ形式にて指定した料理の調理を行い、その料理の出来栄を独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業内課題	40%	： 本授業で学んだ知識に関する確認テストを実施し、独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講状況	20%	： 各回の授業への積極的な参加や、受講態度に関して、独自のルーブリックに基づいて評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
 [授業外学修課題] に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
 また、[授業内マナー]、並びに[実習授業時の心得え]を遵守し、積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜1限
場所：	フードコーディネート研究室（本館3階）
備考・注意事項：	上記の時間帯以外にも研究室にいることはありますが、不在の場合には、メールでも対応します。 なお、メールを送信する場合は、件名に[学籍番号・名前]、本文に[内容]を明記するようにしてください。 ※メールアドレス sakane@osaka-seikei.ac.jp

### 授業計画

第1回	[1] - 1 日本料理<応用料理>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	授業外学修課題にかかる目安の時間
	1. “野菜のかき揚げ”を主菜として調理。 2. “主菜1品・ご飯物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。		1時間



第2回	<b>[1] - 2 日本料理&lt;応用料理&gt;</b> 1. “ちらし寿司”を主菜として調理。 2. “副菜1品・汁物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第3回	<b>[1] - 3 日本料理&lt;応用料理&gt;</b> 1. “鶏の照り焼き”を主菜として調理。 2. “ご飯物1品・汁物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第4回	<b>[1] - 4 日本料理&lt;応用料理&gt;</b> 1. “いなりずし・のり巻（細巻き）”を主菜として調理。 2. “副菜1品・汁物1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第5回	<b>[2] - 1 イタリア料理&lt;応用料理&gt;</b> 1. “若鶏のオープン焼き〔肉料理〕”をメインの料理として調理。 2. “パスタ料理1品・ドルチェ1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第6回	<b>[2] - 2 イタリア料理&lt;応用料理&gt;②</b> 1. “かぼちやのニョッキ〔パスタ料理〕”をメインの料理として調理。 2. “前菜1品・ドルチェ1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第7回	<b>[2] - 3 イタリア料理&lt;応用料理&gt;</b> 1. “フルーツ入りロールケーキ〔ドルチェ〕”をメインのお菓子として調理。 2. “前菜1品・パスタ料理1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第8回	<b>[3] - 1 中国料理&lt;応用料理&gt;</b> 1. “天津飯”をメインの料理として調理。 2. “副菜1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第9回	<b>[3] - 2 中国料理&lt;応用料理&gt;</b> 1. “担々麵”をメインの料理として調理。 2. “主菜1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第10回	<b>[4] フランス料理〔応用料理〕</b> 1. “オマール海老のアメリカ風〔魚料理〕”をメインの料理として調理。 2. “付け合わせ1品・デザート1品”を組み合わせる調理。 3. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第11回	<b>[5] - 1 ビュッフェスタイル体験授業</b> 1. 班単位でクラス全員分の料理を1品調理。 2. メニューの提案から班単位で実施。 3. デモンストレーションは実施せずに全体ミーティング後すぐに調理を開始し、決められた時間までに料理を仕上げ、試食を実施。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第12回	<b>[5] - 2 ビュッフェスタイル体験授業</b> 1. 班単位でクラス全員分の料理を1品調理。 2. メニューの提案から班単位で実施。 3. デモンストレーションは実施せずに全体ミーティング後すぐに調理を開始し、決められた時間までに料理を仕上げ、試食を実施。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第13回	<b>[6] おせち料理</b> 1. “おせち料理”を代表する献立を調理。 2. 授業終了時に、あらゆる視点から見てのトータルの評価を発表。 3. デモンストレーションは実施せず、口頭説明のみを行った後、班単位で調理・試食を実施。	学んだ内容をレポートにまとめて提出	1時間
第14回	<b>学外授業〔テーブルマナー研修会 &lt;和食&gt;〕</b> 1. 外部施設（ホテル）にて実施。 2. 講師、並びに料理を外部施設（ホテル）にご手配いただき、会食をしながら実施。	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間
第15回	<b>実技テスト ・ 授業内課題</b>	授業内容を記入した授業プリントのまとめ、並びにファイリング	1時間

**【実技テスト】**  
この授業内で学んだの1品を、すべての作業を一人で行う“ワ  
ンセルフ実習”形式にて実施。

**【授業内課題】**  
この授業内で学んだ調理手順・調理作業とそのポイント・調理  
用語等に関する確認テストを実施。

---

授業科目名	<b>衣環境学実験</b>				
担当教員名	竹本由美子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	実験内容の説明後、班ごとに割り当てられた実験を行う。詳細は授業中に指示する。実験後は、結果、考察をまとめて指定された期日までにレポート提出する。期間中には実験成果の発表（プレゼンテーション）				
開放科目の指示：「不可」					

### 授業概要

快適で健康的な衣環境を形成するためには、人間の身体条件と取り巻く環境条件の相互関係を捉え、人間の生理に基づいた衣服のあり方を理解し、適した衣服を選択する必要がある。この授業では、「衣環境学」や他のアパレル関連の講義で得た知識を基礎とし、衣料管理士資格取得に必要とされる人間—衣服—環境の関連性について、実験的により高度な応用力を身につける。また、得られた実験結果と共に自身の意見や主張をレポートにまとめ、その成果を発表することによって、体験的に得た成果や知識を他者へ正しく伝える能力を養う。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	「アパレル生理・衛生学」分野の専門知識と実践力	人間の生理に基づいた衣服のあり方を理解し、快適で健康的な衣生活を実現するために、適した衣服を選択できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	衣料管理士として従事する職務に必要な能力の修得	人体とアパレル設計の関係を実験的により深く理解し、製品の適否を判断する力と消費者に適正なアドバイスができるより高度な応用力を修得する。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		快適で健康的な衣生活を実現するために、実験成果をふまえて身体及び環境条件に適した衣服を選択できる。
2．DP8. 意思疎通		人間—衣服—環境の関係性を正しく理解し、実験成果をふまえて衣服の適否とその理由を他者へ伝えることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・その他(以下に概要を記述)

学生が自主的に実験を進めることができるように実験内容を計画し、その方法や必要な情報を含めて作成した実験テキストを使用する。

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。実験開始後は遅刻とみなし、3回の遅刻で1回の欠席とする。

#### 成績評価の方法・評価の割合

実験レポート

#### 評価の基準

：前半・後半の2回に各実験レポートをまとめて提出する。丁寧にまとめた結果をもとに考察ができていれば20点、さらに文献による結果の分析や独自の見解が示されている場合は30点とする。(30点満点×2回)

60%

発表

：前半・後半の実験終了後に報告会を実施する。各班で実験結果及び考察について発表用スライドを作成。他の班の発表内容について相互に討議し、審査も実施する。(20点満点×2回)

40%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- ・日本衣料管理協会編「アパレル生理衛生論」(日本衣料管理協会、2016年)
- ・田村照子編「衣環境の科学」(建帛社、2012年)
- ・日本家政学会被服衛生学部会編「アパレルと健康」(井上書院、2015年)

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項：授業外の質問には、授業の前後に応じる。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	<b>オリエンテーション、実験機器取扱い・手順説明1</b> 授業の進行や実験で利用する機器の取り扱い方法や実習上の安全およびレポート提出に関する説明。	「衣環境学」で学んだ内容を復習しておく。 4時間
第2回	<b>暑さ・寒さと温熱環境1</b>  気温、気湿、気流および輻射熱を計測し、暑さや寒さに影響する因子について学ぶ。	実験の実施内容と結果をまとめ、結果を分析して文献から関連内容を調べ考察をおこなう。 4時間
第3回	<b>体格・動作の測定</b>  測定器を用いた人体計測を行い、姿勢や動作による衣服の変形や影響について考える。	実験の実施内容と結果をまとめ、結果を分析して文献から関連内容を調べ考察をおこなう。 4時間
第4回	<b>身体組成</b>  実測により、体格指数や体組成を求める。	実験の実施内容と結果をまとめ、結果を分析して文献から関連内容を調べ考察をおこなう。 4時間
第5回	<b>環境と皮膚温・体温</b>  皮膚温・深部体温を測定し、それらと環境の関わりについて学ぶ。	実験の実施内容と結果をまとめ、結果を分析して文献から関連内容を調べ考察をおこなう。 4時間
第6回	<b>温熱性および精神性発汗反応</b>  2種類の発汗反応を観察および測定し、どのような違いがあるのかを学ぶ。	実験の実施内容と結果をまとめ、結果を分析して文献から関連内容を調べ考察をおこなう。 4時間
第7回	<b>実験成果のまとめ1</b> 第2～5回に実施した実験成果についてまとめ、発表用の資料を作成する。	前半の実験内容と実験結果について復習し、レポートを完成させる。 4時間
第8回	<b>実験結果発表会1</b> 第2～5回に実施した実験成果について、班ごとに発表し、質疑応答をおこなう。 後半の実験について、実験で利用する機器の取り扱い方法や実習上の安全およびレポート提出に関する説明をおこなう。	他の班の発表内容を踏まえて、自分の実験結果を改めて分析、考察する。 4時間
第9回	<b>衣服気候と着衣行動</b>  衣服の着脱行動が衣服気候に及ぼす影響について学ぶ。	実験の実施内容と結果をまとめ、結果を分析して文献から関連内容を調べ考察をおこなう。 4時間
第10回	<b>運動時の体温調節反応</b>  運動時の体温や心拍数の変化を測定し、安静時と運動時の人体反応の違いを学ぶ。	実験の実施内容と結果をまとめ、結果を分析して文献から関連内容を調べ考察をおこなう。 4時間
第11回	<b>着衣による拘束性</b>  衣服圧の測定と、拘束感についての評価により、圧迫による人体への影響について考える。	実験の実施内容と結果をまとめ、結果を分析して文献から関連内容を調べ考察をおこなう。 4時間
第12回	<b>皮膚の性状の測定と汚れの分析</b>  皮膚の水分、脂質、pHなどを測定し、皮膚の汚れとはどのようなものか分析する。	実験の実施内容と結果をまとめ、結果を分析して文献から関連内容を調べ考察をおこなう。 4時間
第13回	<b>暑さ・寒さと温熱環境2</b>  気温、湿度、気流および輻射熱を計測し、第2回の実験結果と比較する。	実験の実施内容と結果をまとめ、結果を分析して文献から関連内容を調べ考察をおこなう。 4時間
第14回	<b>実験成果のまとめ2</b> 第9～13回に実施した実験成果についてまとめ、発表用の資料を作成する。	後半の実験内容と実験結果について復習し、レポートを完成させる。 4時間
第15回	<b>実験結果発表会2</b> 第9～13回に実施した実験成果について、班ごとに発表し、質疑応答を行う。	他の班の発表内容を踏まえて、自分の実験結果を改めて分析、考察する。 4時間

授業科目名	<b>材料学実験</b>				
担当教員名	山下義裕				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	授業の最初にその日の実験内容や注意点などについて説明した後、3～4人程度のグループに分かれて実験を行う。実験終了後、得られた結果を整理、考察し、次回の授業開始時までにはレポートを作成して提出す				

開放科目の指示：「不可」

## 授業概要

衣料管理士として繊維製品を扱う様々な現場で活躍できるように、被服材料に関する知識・技術を身につけることを目的とする。前半の実験では繊維の鑑別の基礎となる繊維の様々な性質を調べる方法を学んだ後、テキスタイル基礎実験で習得した手法も活用して、未知試料の鑑別を実践する。後半の実験では、糸や布に対して各種性能評価試験機による測定を行い、その操作方法と評価法を習得する。毎回の実験レポート作成を通して、繊維、糸、織物の基礎データと実験結果を関連させて考察する力も身につけていく。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	衣料管理士に要求される実験を正しく行うことができる能力を身につける。 衣料管理士に求められるアパレルテキスタイルの評価が正しく導く能力を身につける。	実験の立案、準備、実験、実験結果の解析が正しくできる。 アパレルテキスタイル材料の実験結果の解析をもとに、規格通りの性能が発現されているかを判断することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見 2．DP5. 計画・立案力 3．DP6. 行動・実践 4．DP7. 完遂 5．DP10. 忠恕の心		実験で学んだ内容から自分で課題を見つけることができる。 課題を解決するための計画を立案し、解決する方法を思考することができる。 課題を解決するために、書籍、雑誌、Webを活用して、実験をすることができる。 実験課題に対して、実験した結果を比較考察して、自分の考えをきちんとまとめることができる。 互いの気持ちを思いやり、また互いの安全に配慮して、実験を行うことができる能力を身につける。

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

### 成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法	評価の割合	評価の基準
実験レポート	60%	4点満点で15回実施し、60点満点とする。実験の考察がしっかりとなされ、さらに自分の創意工夫が記載（5点）、実験の内容をもとに自分の思考が記載（3点）、実験内容だけが記載（1点）
課題発表と課題に対する考察力	40%	2回実施する実験内容に関する発表に対して20点×2回の40点満点で評価する。実験内容を自ら理解しさらに掘り下げて考察出来ている（20点）実験内容をもとに考察出来ている（10点）

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

- ・島崎恒蔵編著『衣服材料の科学〔第3版〕』（建帛社、2013年）
- ・目下部信幸著『生活のための被服材料学』（家政教育社、1999年）
- ・その他の文献や該当するJIS規格は実験書に記載、または授業中に紹介する。

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜日以外の9時から17時
場所：	本館南4階、生活デザイン第一研究室
備考・注意事項：	質問がある場合は、生活デザイン第一研究室まで。在室中はいつでも可。 その他、メールでの連絡はsed@osaka-seikei.ac.jpまで。件名には「材料学実験・氏名・学籍番号」を記入すること。

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる時間
第1回	<p><b>前半の実験の説明、繊維の比重（沈降速度）</b></p> <p>実験を行う上での注意点と、授業前半に行う実験について説明する。また、次週の参考実験として、異なる比重液で繊維の沈降速度を測定し、その違いを確認する。</p>	<p>実験を安全に行うために必要なことをまとめる。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p><b>繊維の比重（浮沈法）</b></p> <p>浮沈法により、繊維の浮き沈みが逆転する2つの比重液を調べ、各種繊維の比重（範囲）を測定する。</p>	<p>繊維の種類と比重の関係の実験結果をまとめ、考察する。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p><b>繊維の染色性</b></p> <p>3種類の染料を使用し、同一条件で染色した各種繊維の染まり具合を確認する。また、市販の繊維鑑別用染料とマルチファイバーテストクロスを用いて繊維を鑑別する。</p>	<p>繊維の種類と染色性の実験結果をまとめ、考察する。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p><b>繊維の溶解性</b></p> <p>酸、アルカリ、有機溶剤に繊維片を浸漬し、これらの試薬に対する各種繊維の溶解性（耐薬品性）を調べる。また、酢酸鉛水溶液による呈色反応の確認も行う。</p>	<p>繊維の種類と溶解性の実験結果をまとめ、考察する。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p><b>繊維の融点測定</b></p> <p>融点測定装置を使用して、繊維の融点を測定する。また、引き裂き試験で使用するのり付け綿布を作製する。</p>	<p>繊維の種類と融点の実験結果をまとめ、考察する。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p><b>繊維の鑑別①</b></p> <p>テキスタイル基礎実験や前回までに習得した種々の鑑別手法を駆使し、未知試料の鑑別を行う。</p>	<p>未知の繊維が何であるかを実験結果から導く。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p><b>繊維の鑑別②</b></p> <p>前回の続きを行う。また、鑑別が終わった班から発表用のスライド作成に移る。</p>	<p>未知の繊維の鑑別実験の方法、結果から明らかになった結果を報告するためのプレゼン資料を作成する。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p><b>繊維の混用率、発表と後半の実験の説明</b></p> <p>溶解法により混紡布の混用率を求める。また、繊維の鑑別結果についてグループ発表を行い、後半の実験について説明する。</p>	<p>繊維の混用率の実験結果をまとめ、考察する。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p><b>糸の強伸度</b></p> <p>糸引張試験機を用い、ミシン糸の強伸度を測定する。得られたチャートから荷重と伸びを読み取り、引張強さ、伸び率、ヤング率を計算する。</p>	<p>糸の強伸度の実験結果をまとめ、考察する。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p><b>織物の強伸度</b></p> <p>定速引張試験機を用い、織物の強伸度を測定する。得られたチャートから荷重と伸びを読み取り、伸度を求める。</p>	<p>織物の強伸度の実験結果をまとめ、考察する。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p><b>引き裂き試験</b></p> <p>エレメンドルフ引き裂き試験機により、織物の引き裂き強さを測定する。</p>	<p>織物の引き裂きの実験結果をまとめ、考察する。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p><b>破裂試験、保温性</b></p> <p>ミュレン型破裂強度試験機による破裂強さの測定を行う。保温性の実験では、班ごとに1種類の試料を担当し、ASTM型保温性試験機による測定を行う。</p>	<p>織物の破裂試験と保温性の実験結果をまとめ、考察する。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p><b>吸水性</b></p> <p>バイレック法による各種布の吸水速度の測定を行うとともに、浸漬法により吸水率を求める。</p>	<p>織物の吸水性の実験結果をまとめ、考察する。</p> <p>4時間</p>
第14回	<p><b>ドレープ性</b></p> <p>ドレープ投影図より面積を測定し、ドレープ係数およびドレープ形状係数を算出する。</p>	<p>ドレープの実験結果をまとめ、考察する。</p> <p>4時間</p>
第15回	<p><b>実験結果の報告</b></p> <p>これまでの実験やレポート・課題の総括を行う。グループごとに分担し、全員が自分の行った実験についてみんなの前で発表する。</p>	<p>実験結果の報告会で指摘された事項について自分でしっかりと考察して自分の考えを説明できる資料を作成する。</p> <p>4時間</p>

授業科目名	<b>被服整理学実験</b>				
担当教員名	澤田和也				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	数名毎のグループに分け、グループ単位で実験を行う。毎回、テキストに基づいた実験内容や手順の説明を行った後、班毎に割り当てられた実験を進める。また、実験で得られたデータを随時コンピュータで解				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

衣料管理士資格取得において必要な知識の一つである、繊維製品や染色物の洗浄時における取扱いについて科学的に理解すると共に、必要に応じて適切な方法で性能試験を行うことの出来るスキルを実験的に身に付ける。本授業では、1回生時のテキスタイル基礎実験で修得した被服整理に関する実験的素養を基礎にして、JIS規格に準じた精度の高い実験を行い、そのデータ評価をコンピュータ解析により詳細に行い、将来衣料品管理を行う現場で通用する知識と技術を身に付ける。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	被服整理に関する総合的な知識と技術を身につける。	衣料管理士として衣服整理のあらゆる事案に対して対処するための技術を身に付ける
汎用的な力		実験指針と異なる事態となった際に、如何にして現状を理解して対応策を講じるかを考える力を身に付ける。
1．DP4. 課題発見		

### 学外連携学修

有り（連携先：大阪市立工業研究所）

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
実験レポート 50%	5点×15回を50点満点に換算 実験結果に対する科学的考察の有無や評価方法の把握度の判定
実験操作の取り組み状況 50%	5点×15回を50点満点に換算 事前説明における注意点や重要ポイントを把握した上での作業か否かの判定

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

実験テーマごとに適宜紹介する

### 履修上の注意・備考・メッセージ

衣料管理士を取得するために必須の実験です。修得済みの被服整理学、およびテキスタイル基礎実験の内容を十分に理解しておいて下さい。本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）  
場所： 生活デザイン第1研究室  
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>実験の全般説明、直接染料による堅牢度試験用染色布の作成</b> ・被服整理学実験の内容について説明する。 ・直接染料による染色の基礎事項をマスターする。	衣料管理士取得を目指し、その整理分野の内容を理解する 4時間

第2回	<b>建染染料による堅牢度試験用染色布の作成</b>  建染染料の特徴、および染色のメカニズムや堅牢性についての基礎事項をマスターする。	建染染料の特性を理解し、日常生活の中にある建染染料による染色布の特徴の関連を調べる	4時間
第3回	<b>洗浄試験の説明と汚染布の表面反射率測定</b>  洗浄試験において使用する汚染布の特徴を理解し、洗浄による反射率変化から得られる洗浄効率の意味を解説する。	日常における衣類の洗浄と汚れ落ちの評価方法について考える	4時間
第4回	<b>データ整理と実験説明</b> ・パソコンを用いた実験データの整理方法、各種グラフの描画や考察方法について解説する。 ・次週から3回にわたる実験内容を説明する	パソコンを用いてデータをもとに、種々の評価方法を理解する	4時間
第5回	<b>綿布への糊付実験及び浴比の洗浄効果評価実験</b> ・種々の糊剤を用いた綿布への糊剤塗布の実験を行う。 ・種々の浴比における洗浄効果への影響を確かめる。	糊剤の意味を理解する。洗濯物と水の量の関係について理解する	4時間
第6回	<b>界面活性剤濃度変化による洗浄効率評価の実験</b>  種々の界面活性剤濃度における洗浄試験を行い、洗浄効率との関係を理解する。	適切な洗剤濃度とは何か、そして理論的にそれは何を意味するのかを理解する	4時間
第7回	<b>反応染料による堅牢度試験用染色布の作成</b>  反応染料による染色のメカニズムや基礎事項をマスターする。	反応染料と直接染料の違いを理解できるようになる	4時間
第8回	<b>データ整理及び紫外線堅牢度試験布の作成</b> ・過去3回の実験で得られたデータの交換および整理 ・長期にわたって行う、紫外線暴露用試験布の作成	エクセルによるデータ整理がスムーズに行えるようになる	4時間
第9回	<b>洗濯堅牢度用複合試験布の作成</b>  洗濯堅牢度評価法の説明を行い、試験片の作成を行う。	日常生活における洗濯による色落ちの科学的評価法を理解する。	4時間
第10回	<b>洗濯堅牢度試験および摩擦試験</b>  以前に作成した堅牢度試験用布を用いて洗濯堅牢度試験および摩擦試験をそれぞれJIS規格に準じて行い、その結果を評価する。	日常生活における洗濯による色落ちの科学的評価法を理解する。	4時間
第11回	<b>表面張力測定</b>  界面活性剤濃度を変化させ、表面張力の変化と界面活性剤濃度の関係を調べる。	表面張力の変化とcmcの関係について理解できるようになる	4時間
第12回	<b>糊付け効果の測定および分散染料染色</b>  ・以前に作成した糊付け布の剛軟度と糊剤の相違の関係を評価する。 ・分散染料の染色を種々の条件下において行う。	カンチレバー式剛軟度測定の手段を理解する。グレースケール取扱いおよび評価方法をマスターする。	4時間
第13回	<b>紫外線堅牢度の評価</b>  数週にわたって実施してきた紫外線堅牢度試験の結果を評価する。	染料の相違による紫外線堅牢性の相違を理解する	4時間
第14回	<b>研究所訪問</b>  繊維製品の評価を行う公的研究所を訪問し、その現場を見学した後、研究員から衣料管理士の役割やその重要性について説明を受ける。	今までの実験内容を応用した実際の現場における作業を理解する	4時間
第15回	<b>まとめ</b>  整理分野の全ての実験内容を総括し、衣料管理士の役割について説明する。	整理分野において行った実験について、その意味を理解する	4時間



授業科目名	ヘアメイク演習				
担当教員名	三宅詩織				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	デモンストレーションにて、実技の解説。その後、相モデルやウィッグを用いての実践・実習。				

開放科目の指示：「不可」

### 授業概要

ヘアーの基礎知識を知り、自信でヘアアレンジをする技術を身につけることで自分のブランド力を高める。  
 ブライダルやファッション業界ではヘアの知識と用語が不可欠である。  
 ヘアを含めたトータルプロデュースができれば仕事の幅も広がり、自分の能力の強みとしてアピールできる。  
 授業で学んだ新しい事を自宅で毎朝復習する時間が取れる貴重な期間（学生時代）でヘア技術と知識が習得できれば今後の女性人生をさらに充実し華やかなものとする。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	自分のイメージしたヘアアレンジができる	得意スタイルを3つ作る
汎用的な力		
1 . DP6. 行動・実践		一度は展示モデルになり参加する

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

### 課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ  
 放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

受講態度

30%

#### 評価の基準

: 授業に取り組み参加する意欲

準備力

10%

: 毎回必要になる道具を事前に揃えて来ているか

技術力

20%

: 展示に基づいた手順と技術が身についているか

知識力

20%

: 定期的にある筆記の確認テストで合格ラインがとれるか

製作力

20%

: 最後の授業でのフリーテーマによる製作力

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

なし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間程度の授業外学修が求められる。  
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業時の教室

備考・注意事項： 授業前後の質問歓迎します

### 授業計画

第1回	授業概要説明	必要な道具を揃える	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>授業概要説明</b> ・授業内容の説明・ヘアーの歴史や構造についての講義・持ち物についての説明をする・ヘアセットデモンストレーション	必要な道具を揃える	1時間
第2回	<b>ヘア道具の種類と使用法・実習（ポニーテールとシニョン）</b> 基本のヘアセットに必要な道具（選び方）とその正しい使用法を学ぶ 頭の部位の名称を学ぶ 実習：自分の髪でポニーテールを作る、シニョンにアレンジ	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間

第3回	<b>前髪と印象の関係 実習（前髪アレンジ）</b> 人のイメージを作る前髪の種類、分け目について学ぶ 実習：ナナメ、おろす、巻く、ねじる、編む、上げる などの前髪アレンジにチャレンジ	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第4回	<b>アイロンの種類と使用法 実習（ダウンスタイル）</b> カールアイロン・ストレートアイロンの正しい使い方のデモンストレーション アイロンを使うことによる毛髪の変化についての講義をする 実習：アイロンを使って髪の形状を変える	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第5回	<b>ヘアピンの種類と打ち方 実習（アップスタイル）</b> 目的に合わせたピンの種類を学ぶ 頭皮に負担のかからないピンの打ち方の練習 実習：ピンだけで夜会巻きを作る	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第6回	<b>ヘアスタイルの歴史 実習（編む）</b> 編むスタイルを中心としたヘアアレンジの歴史を学ぶ 実習：ねじる、三つ編み、方編み、フィッシュボーン	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第7回	<b>人の髪に触れる 実習（ヘッドマッサージとハンドブロー）相モデル</b> 人の髪に触れる前に気をつける事 ヘッドマッサージの効果 実習：相モデルでマッサージ、ハンドブローに挑戦	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第8回	<b>実習（ポニーテールとシニョン）相モデル</b> ヘッドマッサージ後、人の髪でポニーテールを作る、シニョンにアレンジ（前髪アレンジ） 前半、後半でモデル交替	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第9回	<b>実習（編みスタイル）相モデル</b> ヘッドマッサージ 相モデルでその人の髪質、長さに適した編みスタイルを作る 前半、後半でモデル交替	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第10回	<b>実習（ダウンスタイル）相モデル</b> ヘッドマッサージ カールアイロン、ストレートアイロンを使ってダウンスタイルを提案する 前半、後半でモデル交替	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第11回	<b>実習（アップスタイル）相モデル</b> ヘッドマッサージ 人の髪で夜会巻きを作る 前半、後半でモデル交替	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第12回	<b>実習（ディズニーから学ぶ）相モデル</b> ヘッドマッサージ ディズニーのキャラクターのヘアスタイルを解説し実際に仕上げる 前半、後半でモデル交替	次週までに習ったヘアスタイルで一度は登校する	1時間
第13回	<b>実習（トレンドスタイル1）相モデル</b> ヘッドマッサージ 旬のトレンドスタイルの作り方を解説し実際に仕上げる 1 前半、後半でモデル交替	製作イメージをまとめておく	1時間
第14回	<b>実習（トレンドスタイル2）相モデル</b> ヘッドマッサージ 旬のトレンドスタイルの作り方を解説し実際に仕上げる 2 前半、後半でモデル交替	製作イメージをまとめておく	1時間
第15回	<b>フリーテーマ制作・評価（相モデル）</b> 自分の提案または相手の要望に応じてヘアスタイルを一点制作する 制作時間25分、制作後は評価 前半、後半でモデル交替	製作イメージをまとめておく	1時間

授業科目名	<b>CAD演習</b>				
担当教員名	森本千里				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	配布する課題にそって、教員から使い方の説明→学生操作→学生からの質問に対する対応となる。完成したパターンの確認作業と共にアレンジを加えるなどしながら操作の復習を繰り返し行い、レジュメを参考にすること				

開放科目の指示「不可」

### 授業概要

本授業では、現在では多くの企業でパターン作成時に使用されているアパレルCADソフトの操作方法を学びコンピュータを使用した製図方法を身につける。  
CADを使用するメリットである、時間の効率化、パターンの正確性、パターン管理の基本を理解する。実寸大のパターンとは違う、モニター内のパターン感覚を感じることから始め、さらに実践的に使用できるように操作方法を身につけていく。  
個々のメニューの使い方を熟知し、自分で工夫してメニューを使える企画力、発想力などを養う訓練をおこなう。

### 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	アパレルCADの実践的使い方を理解する。	CADを使ってイメージ通りのパターンを作成することが出来る。
汎用的な力		
1 . DP5. 計画・立案力		デザイン画に沿って効率の良い手順を考え操作することができる。
2 . DP7. 完遂		誰にでもわかりやすいパターンを完成することが出来る。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ  
放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	40%	: 授業終了後 PCの画面を確認して毎回5段階で評価する。
受講状況	40%	: 授業への積極的参加、授業マナー（私語 スマートフォン）PC操作のルール PCの譲り合いなどを授業内課題と同様毎回5段階で評価する。
習得度確認テスト	20%	: 数回小テストを行い習得度を確認し評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

特になし

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。  
授業はレジュメに沿って行うので次回の授業時必ず持ってくること。  
PCが一人1台使用できないので、譲り合って使用し、使用できない時も画面を見て積極的に授業に参加すること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後  
場所： 授業の教室  
備考・注意事項： その他 連絡を取りたい場合はEメールで（アドレス：accasatof1a11@ezweb.ne.jp）。氏名と学籍番号を入れること。

### 授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	<b>アパレルCAD概要</b> CADの使用時の全般的な流れの説明。 機器の使用法説明。 初期画面の機能説明。 ファイル操作、マウスに慣れる。	1時間

第2回	<b>家-1作成 曲線練習</b> 保存パターンの検索方法の説明 直線メニューを使って、課題家-1を作図する。 マウスを使って曲線を描く練習。	初期画面の復習をしておく。	1時間
第3回	<b>家-2作成 Tシャツ作成1-完成までの流れを知る</b> 初期画面の復習。 課題家-2を作図する。 Tシャツのパターン作成について完成までの全体の流れを知る。	家-1で学習したメニューを復習しておく。	1時間
第4回	<b>Tシャツ作成2-具体的な操作法・アレンジ</b> Tシャツ作成の完成までの各メニューを説明し、実際に操作をして完成させる。 完成したパターンに各自アレンジを加えていく。	各メニューの大きな分類と位置を覚えておく。	1時間
第5回	<b>1回～4回までの操作確認 9AR原型作成1-後見頃</b> 今までの基礎的な操作が出来てるか確認。 9AR原型の後見頃作成。	初期画面と基本メニューを復習しておく。	1時間
第6回	<b>9AR原型作成1-前見頃</b> 原型9ARを完成させる。 正確に完成出来ているか確認。	後見頃と前見頃のメニューの違いを考えておく。	1時間
第7回	<b>9AR原型復習 ショートカット説明</b> 9AR原型をレジメなしで操作する。 他のメニューも応用して使ってみる。 9AR原型に関する質疑応答。 ショートカットの説明 練習。	基本メニューのショートカットを覚えておく。	1時間
第8回	<b>回転練習</b> 使用頻度が高く理解が難しい回転メニューの操作を学ぶ。 パラメータの使い方を学ぶ。 複雑な操作もある為、自分で完成出来るよう練習を繰り返す。	学習したメニューを確実に使用できるようにしておく。	1時間
第9回	<b>ヨークAラインスカート作成1-ヨーク作成</b> スカート原型からヨーク作成 フレアー展開の操作を学ぶ。 線カット、曲線の調節方法を学ぶ。	パターン完成の為に必要な作業手順を考える。	1時間
第10回	<b>ヨークAラインスカート作成2-完成</b> ヨークAラインスカートを完成させる。 ステッチ、文字入力、縫い代付け等の練習。	完成までの手順を考え、完成時のイメージをとらえておく。	1時間
第11回	<b>ヨークAラインスカート確認</b> 作成したパターンがミスなく仕上がっているか確認作業をする。 作成したパターンが解りやすいか互いにチェックする。 違ったメニューを使って作成する方法を考えてみる。 質疑応答。	パターン作成時に使ったメニューを復習して確実に操作できるようにしておく。	1時間
第12回	<b>台襟ピントックブラウス作成1-手順を考える</b> デザイン画を見て、パターン作成の全体的なイメージをとらえる。 基本デザイン以外は自分で考えパターンを作成する。 個々に作成手順、使用メニューを考える。	完成時までの効率の良いパターン作成順を考えておく。	1時間
第13回	<b>台襟ピントックブラウス作成2-完成</b> 縫い代付け迄を行いパターンを完成させる。 未知のメニューに対しても工夫して使用出来るよう学習する。	ブラウスのアレンジデザインを考えておく。	1時間
第14回	<b>台襟ピントックブラウス作成3-確認 アレンジ</b> 作成したパターンがミスなく仕上がっているか確認する。 裾のライン、ボタン間隔 ステッチ巾が等が自分のイメージ通りか確認する。 基本のブラウスを使ってアレンジしたパターンを作成。	学習してないどのようなメニューがあるか一覧をみて確認しておく。	1時間
第15回	<b>要尺計算の仕方 その他便利な使い方</b> CADを使用して必要メーター数を計算する方法を学習し、実際に各アイテムの必要メーター数を出す。 その他CADならではの便利な機能を学習する。	学習したメニューの復習をしておく。	1時間

授業科目名	<b>マーケティング論</b>				
担当教員名	松岡依里子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義によりマーケティングの基本を学び、グループディスカッションにより課題について仮説をたて、アンケートを作成します。また統計処理を行い、結果をグラフにより読み取り、考察します。このような社会科学開放科目の指示「可」				

### 授業概要

オムニチャネル化した社会傾向の中、マーケティング手法も大きく変化しています。本授業では、マーケティングの基本知識とその実践力をつけるために、理論や具体的な手法を学ぶ。具体的には①市場調査（定性調査）及び消費者調査（定量調査）を実施し、消費者行動を考察します。②①の結果をもとに、「モノ」「コト」企画から「プロモーション戦略」までのビジネス企画書を作成します。③プレゼンテーションを行い、ビジネスにおけるPDCA(Plan, Do, Check, Action)を身につけます。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	マーケティングの基本的理論を理解し、消費者行動を分析する。	市場のニーズを予測できる経営学的センスを身につける。
<b>汎用的な力</b>		
1．DP4. 課題発見		消費者行動分析による結果から、未来を予測したり課題を発見したりできる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

#### 評価の基準

授業内課題	60%	: 独自のルーブリックに基づき4段階で評価する。
課題レポート	20%	: 独自のルーブリックに基づき4段階で評価する
資料に基づくプレゼン	20%	: 全学ルーブリックに基づき、評価する。

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

- 1) ファッションマーケティング 塚田朋子著 同文館出版
- 2) ファッション&ラグジュアリー企業のマネジメント エリカ・コルベリニ他著 東洋経済新報社
- 3) ルイヴィトンの法則 長次伸也編著 東洋経済新報社
- 4) スターバックスを世界一にするために守り続けてきた大切な原則 ハワード・ビーハー著 日本経済新聞出版社
- 5) ユニクロ症候群 小島健輔著 東洋経済新報社
- 6) 世界中を虜にする企業—ZARAのマーケティング&ブランド戦略—ヘスス・ベガ著 アーチブメント出版
- 7) コトラーのマーケティング入門 フィリップ・コトラー他 朝日新聞出版

### 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限  
 場所： 生活デザイン第2研究室  
 備考・注意事項： 授業前後、オフィスアワーで対応する。

### 授業計画

： 授業外学修課題にかかると目安の時間

第1回	<b>マーケティングとは何か</b> なぜマーケティングが必要なのか、マーケティング活動の事例からビジネスにおけるマーケティングの全体像を知る。	マーケティングとは何か、事例をあげてレポートを書く。	4時間
第2回	<b>ブランドマーケティング</b> ブランドを育て、普及し、ブランド向上をさせるかについて、お菓子、ファッションなどを事例にその方法と展開、課題について学ぶ。	ブランドマーケティングの事例をあげ、レポートを書く。	4時間
第3回	<b>サービスマーケティング</b> 「モノ」から「コト」へのマーケティング事例について学ぶ。	サービスマーケティングの事例をあげ、レポートを書く。	4時間
第4回	<b>ファッションブランドの育成</b> ファッションブランドのアンニュアルレポートをもとに、ブランド戦略を学ぶ。	ブランドのアンニュアルレポートを分析する。	4時間
第5回	<b>マーケティングの実際</b> マーケティング活動を行う際、ショップリサーチ、タウンリサーチ、消費者行動調査などの市場リサーチを踏まえて企画する。その方法と事例について学ぶ。	商業施設、店舗リサーチを行い、経営学的分析を行う。	4時間
第6回	<b>商業施設マーケティング</b> 関西の商業施設についての事例から、商業施設2か所を選択し、コンセプト、施設概要、ポジショニング、広報宣伝、購買行動など比較考察する。商業施設の果たす役割やマーケティング戦略について学ぶ。	リサーチ結果について資料を作成する。	4時間
第7回	<b>雑誌のコンテンツ分析</b> 販売促進に影響を与え、マーケティング力に影響を及ぼす雑誌の分析を行う。	数種類の雑誌のコンテンツを調べ、比較考察する。	4時間
第8回	<b>オリジナル雑誌の紙面作成</b> 大学生の感性を生かし、グループごとに、読者のターゲットを設定し、雑誌のコンセプト、方向性を決める。	雑誌のコンテンツを再考する。	4時間
第9回	<b>雑誌のコンテンツ編集</b> 雑誌の方向性にふさわしいコンテンツについて、グループで編集会議を行う。	担当紙面の写真を収集し、文を考えておく。	4時間
第10回	<b>雑誌の紙面作成</b> オリジナルな写真を用意し、紙面を作成する。伝えたい内容を明確にあらわすフレーズなどを検討する。	言葉を吟味し、文章を考える。	4時間
第11回	<b>プレゼンテーション</b> それぞれの雑誌の特徴について、発表を行う。	振り返りシートを作成する。	4時間
第12回	<b>消費者行動調査①アンケート作成</b> 雑誌に関するアンケート調査票を作成する。読者の声を修正に活かせるような調査を行う。	アンケートを配布し、回収する。	4時間
第13回	<b>消費者行動調査②—統計解析—</b> 収集したアンケートをもとに、SPSSにて統計解析を行う。解析した統計結果について、発表用資料にまとめていく。	アンケート結果を考察する。	4時間
第14回	<b>消費者行動調査③—プレゼンテーション—</b> 結果をグラフなどに集約し、考察する。それらの資料を使って発表する。発表の際には、必ず質疑応答を課す。	振り返りシートを作成する。	4時間
第15回	<b>マーケティングの有効性の検討</b> マーケティングリサーチの可能性と課題について再考する。	課題レポートを作成する。	4時間

授業科目名	<b>繊維加工学</b>				
担当教員名	澤田和也				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	基本的に講義形式で授業を行い、実物の紹介や映像による視覚的な理解を深めることに重点に置く。また、毎回授業の最後に、演習としてその授業において解説した重要事項についてのミニレポートを実施し、成 開放科目の指示：「不可」				

### 授業概要

繊維製品には付加価値を高めるために各種の加工が施されている。その加工技術は、我が国のみならず世界各国において目指しい早さで発展しており、現在も進行している。本授業では、そのような繊維加工に関する現在までのさまざまな既存技術について解説を行うと共に、その問題点を考える。さらに、環境問題を含めた将来への課題についても考察できるようになることを目標とする。また、現状の各加工法による効果や、加工剤の分析法についても理解できるようになることを目標とする。

### 養うべき力と到達目標

<b>確かな専門性</b>	<b>具体的内容：</b>	<b>目標：</b>
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	繊維加工を施す意義とその効果についての専門知識を身に付けることができる。	繊維材料と加工の可否の関係について、材料の知識を基に推測することのできる専門知識を身に付けることができる
<b>汎用的な力</b>		
1 . DP4. 課題発見		現在の繊維加工技術の課題や問題点について考え、どのような解決法が考えられるか、について考察出来る力を身に付けることができる。

### 学外連携学修

無し

### 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

### 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

### 成績評価

#### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

#### 成績評価の方法・評価の割合

ミニレポート

#### 評価の基準

： 毎回5点満点として15回実施し、総計を60点満点に換算する。 自己の考えを含めて詳細に記載されている (5点) 講義内容のみから記載されている (3点) 論点が的確ではない。(1点)

60%

特定テーマに対する課題考察力

： 2回実施する特定テーマに対する解決策を探る課題に対して20点×2回の40点満点で評価する。 社会的背景も含めて考察出来ている (20点) 授業内容のみで考察出来ている (10点)

40%

### 使用教科書

特に指定しない

### 参考文献等

各テーマに応じて適宜プリント配布等により紹介する。

### 履修上の注意・備考・メッセージ

繊維加工は現在の衣料品には大なり小なり施されている手段であり、その事実を改めて認識することで今後の快適な衣生活を送れるようになってもらいたい。  
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

### オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日（1限）  
場所： 生活デザイン第1研究室  
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも在室時にはいつでも対応します。

### 授業計画

第1回	繊維加工の歴史と概論	繊維加工の目的と概念を理解出来るようになる。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	繊維加工の目的は何か？ 現在と過去の繊維加工の意味合いや、現状の繊維加工に対する概要を初回導入編として解説する。		4時間
第2回	シルケット加工について	絹と綿の構造上の違いを理解出来るようになる。	4時間

	マーセライズの意味合いを理解すると共に、そのような加工に至る背景や現代における必要性等について解説する。		
第3回	<b>樹脂加工について</b> さまざまな種類の樹脂加工について紹介し、繊維製品のみならずプラスチックに活用されている技術について紹介する。	樹脂の種類や加工前後に人が感じる感性的な相違について理解する。	4時間
第4回	<b>形態安定加工について</b> 形態安定加工が必要な繊維と加工後に人体に与える影響を含めた解説を行い、前週の樹脂加工を応用した形態安定加工との相違について説明する。	日常生活において使用している形態安定加工製品の特徴を見つける	4時間
第5回	<b>難燃加工について</b> 防炎・難燃・不燃について法的規制の現状も踏まえて、その手段を含めた内容について解説する。	身の回りに存在する、防炎・難燃・不燃材料の違いを理解出来るようになる。	4時間
第6回	<b>防縮加工について</b> 従来羊毛を対象中心として施されてきた防縮加工の現状について、そのメカニズムと実際の相違について解説しながら、環境・安全を考えた加工法について解説する。	洗濯時における防縮剤の役割と製品前の加工の役割の差が理解できるようになる。	4時間
第7回	<b>ブリーツ加工について</b> 古くから存在するブリーツ加工について、繊維ごとの適性や取扱について解説する。	市販のブリーツ加工製品がどのような手段により加工されたかについて、理解出来るようになる。	4時間
第8回	<b>防虫加工について</b> 薬剤による防虫と繊維製品そのものに対する防虫機能付与の違いや持続性について解説し、健康との関連性について述べる。	家庭における防虫剤の種類と繊維への影響を理解出来るようになる。	4時間
第9回	<b>減量加工について</b> 繊維の種類によって手段の異なる減量加工の相違と、それを施す意味合いや必要性について解説する。	減量加工することにより得られる長所と短所が理解出来るようになる。	4時間
第10回	<b>帯電防止加工について</b> 「静電気発生の防止のため」、と捉えられがちなこの加工法について、実際の用途や加工手段の多様性について解説する。	日常生活で可能な簡便な帯電防止の知恵について理解出来るようになる。	4時間
第11回	<b>表面親水化加工について</b> 本来親水性を持たない種類の繊維表面にこの加工を施すことによるメリットやデメリットについて解説し、この加工法の意味合いを考える。	撥水・防水・吸水・吸湿のキーワードについて理解出来るようになる。	4時間
第12回	<b>抗菌・防カビ加工について</b> さまざまな繊維製品に活用されるようになったこの加工法について、その手段だけでなく、混同しがちな目的の相違について解説する。	SEKマークについて理解出来るようになる。	4時間
第13回	<b>その他の加工、繊維加工と安全性について</b> 前回までのメインテーマでは解説出来ていない他の加工法について網羅的に解説する。	今回の授業にて得られた知識により、今まで気付いていなかった加工が身の回りにたくさん存在していることを理解出来るようになる。	4時間
第14回	<b>加工剤の分析法について</b> 試験機関等において実際に行われている分析方法について、衣料管理士として理解しておくべき事項を総合的に解説する。	衣料管理士資格を活かして将来検査機関等で実際に自身が分析に携わるということを前提に、どのような検査方法があるかを理解出来るようになる。	4時間
第15回	<b>繊維加工の展望について</b> 現時点では未だ実用化されていないものの、研究段階であるものや実用化の一手手前の段階であるさまざまな加工法の最前線について解説する。	今回の授業をもとに、将来望まれる加工法について提案できるようになる。	4時間



授業科目名	ファッション文化論				
担当教員名	早川雅明				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	ファッション文化の基本を学ぶため、講義と具体事実を考察する映像や資料を活用した授業を行う。必要に応じ、授業の終わりにファッションに関する文化意識の確認を問う小テスト(2～3問)をする。毎回、こ				

開放科目の指示：「可・不可」

## 授業概要

ファッションは人間が作り出す日常生活の生き方そのものを自己表現するものである。社会の変化に呼応しながら、ファッションやライフスタイル活動がその時代を特徴づけてきました。ファッション文化はそれらの集積なのです。その基礎を築くことで、ファッションを歴史や地域、社会といったさまざまな視点から考察する能力を身につけていきます。本授業はこの変化するファッション環境や行動を人や文化との関わりの中で、西洋ファッションの源流から今日までを軸に日本文化も併せ、ファッション文化のあり方を考察するのが目的です。

## 養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	ファッション文化に関する知識	時代や日常生活の中でファッションがいかにかに自己の文化度形成に役立つかが理解できる
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		収集した資料からファッションの文化意識を確認できる

## 学外連携学修

無し

## 授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

## 課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

## 成績評価

### 注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
隔週で小レポートまたはミニテスト 30%	内容の妥当性と論理的理解力について、独自のルーブリックに基づいて4段階で評価します。
資料に基づくプレゼンや学習 25%	授業資料学習や協同学習の発表について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末の集約レポート 45%	最終的に提出された資料について全学ルーブリックに基づいて評価します。

## 使用教科書

特に指定しない

## 参考文献等

カラー版「世界服飾史」監修＝深井晃子 美術出版社  
「パリ・モードの200年Ⅰ」、「パリ・モードの200年Ⅱ」南 静著 文化出版局  
「西洋服装史」文化服装学院編 文化出版局  
「女性の服飾文化史」日置 久子著 西村書店  
「モードの物語」ディディエ・グランバック著 文化出版局  
「オートクチュール ― パリモードの歴史」フランソワ・マリー・グロー著 白水社刊  
「織研新聞」業界紙

## 履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。  
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

## オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日12:30-13:00  
場所： 生活デザイン第3研究室  
備考・注意事項： オフィスアワー：水曜12:30-13:00、授業の前後に質問に応じる。  
その他メールでも対応する。  
アドレス：hayakawa-m@osaka-seikei.ac.jp  
メールには氏名と学籍番号、所属を必ず入れること。

## 授業計画

第1回 ファッション文化論ガイダンス

まとめノートを作成（配布した資料を理解）。次回までに該当する資料を通読。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	人はなぜ服を着るのか、人にとってファッションとは、文化とは何か、理解を深めて考えます。		
第2回	<b>ファッション形成とその歴史</b> 現代ファッションの源流。とみる近代ファッションの祖、マリ・アントワネットの考察から始め、そこから既製の源流の道程を捉えて、ファッション文化を考察していきます。	まとめノートを作成18世紀～19世紀のファッション史を確認しておく。	4時間
第3回	<b>第二帝政 (1848～1870) とオートクチュールの登場</b> シャルル・F・ウォース (1825～1895) が現代ファッション産業の基礎を築いた軌跡を考えます。	まとめノートを作成。オートクチュールの意味を事前確認。事前に配布した資料を通読	4時間
第4回	<b>第三共和政時代 (1871～) におけるモード「パッスルスタイル」</b> パリ・ファッションは世界中に放射。日本の洋装化にも大きな影響を与えたことも学びます。	まとめノートを作成。事前に配布した資料を通読	4時間
第5回	<b>20世紀の幕開け＝ベル・エポック (1900～1914) とアール・ヌーヴォーの世界</b> パリ万博を軸に新世紀 (20世紀) のファッション文化を築いたポール・ボアレの軌跡をみます。	まとめノート作成。パリ万博を調べておくこと。事前に配布した資料を通読	4時間
第6回	<b>第一次大戦後の欧米諸国 (1914～1920年代) はキャリアウーマンの時代</b> 「ギャルソンヌ」文化を広めた、クチュリエールニココ・シャネルとヴィオネの軌跡を探ります。	まとめ資料を作成。事前に配布した資料を通読	4時間
第7回	<b>世界不況の1930年代、大恐慌下での新たなファッション文化の希求</b> パリ・クチュールの国際化システムやスクリーン・スターのファッションリードの軌跡を探ります。	まとめ資料を作成。1930年代の社会状況を調べておく。配布資料を通読	4時間
第8回	<b>戦後復興 (1945～) オートクチュールの黄金時代。モンペスタイルからの再興 (日本)</b> 戦後混乱の中、ニュー・ルック等を発表したクリスチャン・ディオール活躍軌跡を学びます。	まとめノート作成。事前に配布した資料を通読	4時間
第9回	<b>大衆消費時代へ (1960～)。 ミニスカート革命～若者の時代へ。</b> オートクチュールの衰退とプレタ・ポルテ時代の到来を理由を探ります。	まとめ資料を作成。60年代の社会状況をレポートしておく。事前に配布した資料を通読	4時間
第10回	<b>ヴェトナム戦争後のファッション界 (1970～)。日本人デザイナーの海外活躍。</b> ・プレタ・ポルテの多極化 (パリ、ミラノ、ロンドン、ニューヨーク、東京) とその発展を考察します。	まとめノートを作成。都市別のプレタ・ポルテブランドをレポートしておく。配布資料の通読。	4時間
第11回	<b>バブル経済 (1980～) におけるファッション文化そしてベルリンの壁、崩壊へ</b> ・影響力を強いプレタ・ポルテデザイナーのメゾン・ディレクター就任への軌跡を辿ります。	まとめ資料の作成。事前にプレタ・ポルテのブランドを市場で考察、レポートしておく。配布した資料を通読	4時間
第12回	<b>日本デザイナー、東京コレクションを世界へ発信</b> ・「TD6」結成から「東京コレクション」へと発信力を高める日本デザイナーの活躍を辿ります。	まとめ資料の作成。興味あるデザイナーの特徴を調べておく。事前に配布した資料を通読	4時間
第13回	<b>20世紀末、バブル崩壊、時代の変革へ (1990～) 多様なブランド文化へ</b> ラグジュアリー、リアルクローズ、ファストファッション多様なブランドビジネスの軌跡を追います	まとめ資料の作成。自分の関心あるブランドを調べてレポートする。	4時間
第14回	<b>21世紀の始まり (2000年代～)。不安定な社会、経済環境の中で</b> 多様化するファッション文化、モノからコトを軸にしたライフスタイルの変化を考察します。	事前にテーマを与え、レポートする。事前に配布した資料を通読	4時間
第15回	<b>総括とまとめ—ファッションコミュニケーション文化の模索へ (2010～)</b> ・コミュニケーション文化到来から今後のファッション文化についての理解を深めます。	まとめ資料を読み返し、総括のレポートする	4時間